



下水道モニター

平成30年度 第1回アンケート結果

目次

1. 調査の概要	1
2. 結果の概要	2
2.1 下水道の役割、東京都下水道局が行っている活動や取組について	2
2.1.1 水質改善	2
2.1.2 浸水防除	2
2.2 下水道の課題	3
2.2.1 下水道管の老朽化	3
2.2.2 都市型浸水対策	3
2.2.3 合流式下水道の改善	3
2.2.4 下水道が抱える課題の公表について	4
2.3 新たな下水道事業の認知度と評価	4
2.3.1 新たな下水道事業の認知度	4
2.3.2 新たな下水道事業の評価	4
2.4 東京都下水道局が行っている活動、取組や「見せる化」について	4
2.4.1 「見せる化」の認知度	4
2.4.2 「見せる化」の重要度	4
2.4.3 下水道局が行っている活動や取組の浸透度	5
2.4.4 下水道局が行っている活動や取組への満足度	5
2.5 東京アメッシュについて	5
2.5.1 「東京アメッシュ」の認知度	5
2.5.2 「東京アメッシュ」の利用媒体	5
2.5.3 「東京アメッシュ」の利用に際してのアクセス方法	5
2.5.4 「東京アメッシュ」の利用方法	6
2.5.5 「東京アメッシュ」以外に利用している降雨情報	6
2.5 下水道事業の評価基準	6

2.6	下水道事業に関するニーズ	6
2.7	下水道事業に関する認知経路.....	6
2.8	下水道事業に関する情報の探求意思、共有欲求	6
2.8.1	下水道事業に関する情報の探求意思.....	6
2.8.2	下水道事業に関する情報の共有欲求.....	7
2.9	下水道局へのご意見・ご要望など	7
3.	回答者属性	8
4.	集計結果	10
4.1	下水道の役割、東京都下水道局が行っている活動や取組について	10
4.1.1	下水道の役割「水質改善」の認知度.....	10
4.1.2	下水道の役割「水質改善」の重要度.....	12
4.1.3	下水道の役割「水質改善」の評価	13
4.1.4	下水道の役割「浸水防除」の認知度.....	14
4.1.5	下水道の役割「浸水防除」の重要度.....	15
4.1.6	下水道の役割「浸水防除」の評価	16
4.2	下水道の課題.....	17
4.2.1	下水道の課題①「下水道管の老朽化」の認知度	17
4.2.2	下水道の課題①「下水道管の老朽化」の認識度	18
4.2.3	下水道の課題②「都市型浸水対策」の認知度	19
4.2.4	下水道の課題②「都市型浸水対策」の認識度	20
4.2.5	下水道の課題③「合流式下水道の改善」の認知度	21
4.2.6	下水道の課題③「合流式下水道の改善」の認識度	22
4.2.7	下水道が抱える課題の公表について.....	23
4.3	新たな下水道事業の認知度と評価	24
4.3.1	新たな下水道事業の認知度.....	24
4.3.2	新たな下水道事業の評価	28
4.4	東京都下水道局が行っている「見える化」について	32
4.4.1	「見える化」の認知度.....	32
4.4.2	「見える化」の重要度.....	33
4.5	下水道局が行っている活動や取組について	34
4.5.1	下水道局が行っている活動や取組の浸透度	34

4.5.2	下水道局が行っている活動や取組への満足度	35
4.6	「見せる化」への効果的な取組について.....	36
4.6.1	「見せる化」への効果的な取組に関しての意見・アイデア	36
4.7	東京アメッシュについて.....	39
4.7.1	「東京アメッシュ」の認知度	39
4.7.2	「東京アメッシュ」の利用媒体.....	40
4.7.3	「東京アメッシュ」の利用に際してのアクセス方法	43
4.7.4	「東京アメッシュ」の利用方法.....	45
4.7.5	「東京アメッシュ」以外に利用している降雨情報	48
4.8	下水道事業の評価基準	51
4.8.1	下水道事業を評価する基準.....	51
4.9	下水道事業に関するニーズ（下水道事業に関して知りたいと思うこと）	53
4.10	下水道事業の認知経路	56
4.11	下水道事業に関する情報の探求意思、共有欲求	60
4.11.1	下水道事業に関する情報の探求意思.....	60
4.11.2	下水道事業に関する情報の共有欲求.....	61
4.12	東京都下水道局へのご意見・ご要望例	62

1. 調査の概要

(1) 調査目的

第1回アンケートでは、東京都下水道局の「下水道に対するイメージや事業認知度、要望及び評価など」を把握するために実施した。

(2) 調査対象

①調査対象：東京都下水道局「平成30年度下水道モニター」

＊東京都在住20歳以上の男女個人

②調査対象の数：784名

③調査対象の抽出：インターネット上から「平成30年度下水道モニター」を募集

(3) 調査方法

インターネットによる自記式アンケート

(4) 回答回収率

モニター件数 : 784名

回答者数 : 644名

回答率 : 82.1%

(5) 調査項目

- ① 「水質改善」の認知度・重要度・評価
- ② 「浸水防除」の認知度・重要度・評価
- ③ 「下水道管の老朽化」の認知度と認識度
- ④ 「都市型浸水」の認知度と認識度
- ⑤ 「合流式下水道」の認知度と認識度
- ⑥ 新たな下水道事業の認知度と評価
- ⑦ 東京都下水道局が行っている活動、取組や「見せる化」について
- ⑧ 「東京アメッシュ」について
- ⑨ 下水道事業に関する評価基準・認知経路・探求意思、共有欲求
- ⑩ 下水道局のご意見・ご要望など

(6) 調査期間

平成30年5月21日（月）～平成30年6月10日（日）

(7) 集計上・表記上への注意事項

- ① 本文中の「n」は質問に対する回答者数で、比率（％）は全て「n」を基数として算出している。また、比率を小数点第一位で表記「0.0％」となる項目については、グラフ上の表記を省略する。
- ② 本文中の性別、年代、地域、子供と同居有無別分析において、性別、年代、地域、子供と同居それぞれにおける「無回答」「不明」は省略する。

2. 結果の概要

2.1 下水道の役割、東京都下水道局が行っている活動や取組について

2.1.1 水質改善

(1) 認知度

「水質改善」の認知度について、91.8%が「知っていた」と回答した。

経年比較でみると、「知っていた」では平成 28 年度調査から増加傾向が見られ、「水質改善」の認知度がわずかながら向上していた。

(2) 重要度

「水質改善」について、「非常に重要である」が 81.1%、「かなり重要である」が 18.6%で、「重要である」との回答は合わせて 99.7%となり、「水質改善」の重要度は広く認識されていることがわかった。

年代別にみると、「非常に重要である」では 40 歳以上が 84.4%と最も多く、次いで 70 歳以上が 83.1%、50 歳代が 82.1%となった。一番低い結果の 20 歳代でも 70.4%と 7 割を超えていた。

(3) 評価

「水質改善」について、「非常に貢献度がある」が 66.7%、「かなり貢献度がある」が 29.5%で、「貢献度がある」と評価された方は合わせて 96.2%となり、多くの方に評価いただいていることが分かった。

年代別にみると、「非常に貢献度がある」では 70 歳以上が 73.2%と最も高く、次いで 40 歳代が 71.6%、60 歳代が 69.4%となった。一方 30 歳代は 53.6%と最も低い結果となり、他の年代に比べ、「水質改善」への評価は低かった。

2.1.2 浸水防除

(1) 認知度

「浸水防除」の認知度について、76.9%が「知っていた」と回答した。

男女別にみると、「知っていた」では男性が 84.4%、女性が 68.1%と、男性が女性より 16.3 ポイント高い結果となった。

年代別にみると、「知っていた」の割合は年代が上がるとともに上昇する傾向を示し、70 歳以上では、91.5%と 9 割を超える高い結果となった。

(2) 重要度

「浸水防除」について、「非常に重要である」が 71.5%、「かなり重要である」が 25.2%で、「重要である」との回答は合わせて 96.8%となり、「浸水防除」の重要度は広く認識されていることがわかった。

年代別にみると、「非常に重要である」では、50 歳代の 77.6%を頂点として、40 歳代以上が 7 割を超える高い結果となった。

(3) 評価

「浸水防除」について、「非常に貢献度がある」が 60.5%、「かなり貢献度がある」が 33.7%で、「貢献度がある」との回答は合わせて 94.2%となり、多くの方に評価いただいていることがわかった。

年代別にみると、「非常に貢献度がある」では全世代で 50%を超えていたが、特に 40 歳代が 63.5%と最も高く、次いで 50 歳代が 62.8%、70 歳以上が 59.2%となった。

2.2 下水道の課題

2.2.1 下水道管の老朽化

(1) 認知度

「下水道管の老朽化」について、「知っていた」は 51.4% となり、「下水道管の老朽化」の認知度は約 5 割であった。

年代別にみると、「知っていた」の割合は年代が上がるとともに上昇し、70 歳以上が 67.6% と最も高く、次いで 60 歳代が 63.5% となった。一方、20 歳代では約 3 割の 33.3% と最も低い結果となった。

(2) 認識度

「下水道管の老朽化」について、「とても深刻な問題だと思う」が 87.6%、「すこし深刻な問題だと思う」が 11.8% で、「深刻な問題だと思う」とする方は合わせて 99.4% となり、多くの方に「深刻な問題」と認識されていることが分かった。

年代別にみると、「とても深刻な問題だと思う」と「すこし深刻な問題だと思う」を合わせた「深刻な問題だと思う」との回答は、どの年代も 9 割を超え、中でも 70 歳以上は 100% と高い結果となった。

2.2.2 都市型浸水対策

(1) 認知度

「都市型浸水対策」について、約 7 割の 70.7% が「知っていた」と回答した。

男女別にみると、「知っていた」では男性が 76.3%、女性が 64.1% となり、男性が女性より 12.2 ポイント高い結果となった。

年代別にみると、「知っていた」は年齢が高くなるにつれて増加する傾向がみられ、60 歳代が 87.5% と最も高かった。

(2) 認識度

「都市型浸水対策」について、「とても深刻な問題だと思う」が 81.5%、「すこし深刻な問題だと思う」が 16.6% で、「深刻な問題だと思う」との回答は合わせて 98.1% となり、多くの方に「深刻な問題」と認識されていることが分かった。

年代別にみると、「とても深刻な問題だと思う」と「すこし深刻な問題だと思う」を合わせた「深刻な問題だと思う」との回答は、どの年代も 9 割を超え、中でも 50 歳代は最も高く 99.3% であった。

2.2.3 合流式下水道の改善

(1) 認知度

「合流式下水道の改善」の認知度について、「知っていた」は 32.9% と低い結果となった。

男女別にみると、「知っていた」では男性が 43.4%、女性が 20.8% と、男性に比べ女性の認知度がとても低いことが明らかとなった。

年代別にみると、「知っていた」では年代の上昇とともに上がる傾向があり、70 歳以上は 57.7% と高かった。一方、若年層の認知度は低く、特に 20 歳代、30 歳代では 2 割以下と大変低いことが明らかとなった。

(2) 認識度

「合流式下水道の改善」については、「とても深刻な問題だと思う」が 63.3%、「すこし深刻な問題だと思う」が 32.8% で、「深刻な問題だと思う」との回答は合わせて 96.1% となり、多くの方に「深刻な問題」と認識されていることが分かった。

年代別にみると、50 歳代では、「とても深刻な問題だと思う」の回答率が 72.4% と最も高かっただけでなく、「とても深刻な問題だと思う」と「すこし深刻な問題だと思う」を合わせた「深刻な

問題だと思う」との回答率が 100%となり、「合流式下水道の改善」についての認識が極めて高いことが明らかとなった。一方、20 歳代では、「とても深刻な問題だと思う」に対し、「すこし深刻な問題だと思う」の回答率の方が高く、20 歳代では「合流式下水道の改善」について認識しているものの、あまり深刻にはとらえていない傾向が見られた。

2.2.4 下水道が抱える課題の公表について

下水道が抱える課題の公表について、「積極的に知らせるべきだ」が 66.9%、「知ってもらう努力をしたほうがよい」が 32.3%、合わせてほぼ 100%の 99.2%が課題の公表を求めていることがうかがえた。

年代別にみると、「積極的に知らせるべきだ」の割合は全年代で 5 割を超えるとともに年代の上昇とともに上がる傾向があり、70 歳以上が 78.9%と最も高く、30 歳代では 54.6%と最も低かった。

2.3 新たな下水道事業の認知度と評価

2.3.1 新たな下水道事業の認知度

新たな下水道事業の認知度について、『知っていた』の回答率が 5 割を超えたのは、「1）きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」の 66.6%と、「2）水再生センター上部を、区や市が管理する公園として利用」の 59.8%だけであった。他の事業の認知度は 4 割未満と低く、特に「6）下水道管に光ファイバーを通す I T の推進」は 17.1%と最も低い結果となった。

年代別では、全般的に、年代の上昇とともに認知度が上がる傾向が見られた。特に、70 歳以上の認知度は、30 代に比べ 40.2 ポイント高い結果となった。

2.3.2 新たな下水道事業の評価

新たな下水道事業について、「非常に役立っている」と「かなり役立っている」を合わせた『役立っている』は、概ね全ての事業で 8 割を超える評価をいただいた。中でも「1）きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」は 91.6%と最も高く、次いで「2）水再生センターの上部を、区や市が管理する公園として利用」が 84.8%となった。一方、「6）下水道管に光ファイバーを通す I T の推進」は 64.8%と最も低い結果となった。

年代別にみると、『役立っている』の割合は 70 歳以上が最も高い傾向を示し、特に「2）水再生センターの上部を、区や市が管理する公園として利用」が 94.4%と最も高かった。

2.4 東京都下水道局が行っている活動、取組や「見せる化」について

2.4.1 「見せる化」の認知度

「見せる化」の認知度について、「知っていた」は 14.0%となっており、まだ認知は進んでいないことが明らかとなった。

年代別にみると、「知っていた」は 70 歳以上が 26.8%と最も高く、ついで 20 歳代が 18.5%であった。一方、30 歳代は 9.3%と最も低い結果となった。

2.4.2 「見せる化」の重要度

「見せる化」の重要度について、「非常に重要である」が 39.3%、「かなり重要である」が 46.4%、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせた「重要である」でみると 85.7%となり、「見せる化」は重要な施策であると考える方が多いことが明らかとなった。

年代別にみると、「非常に重要である」では 70 歳以上が 59.2%と最も高く、次いで 50 歳代の 43.3%、60 歳代の 37.5%、40 歳代の 37.4%となり、年代の上昇とともに「見せる化」施策を重要と考える方が多くなる傾向が見られた。

2.4.3 下水道局が行っている活動や取組の浸透度

下水道局が行っている活動や取組の情報について、「あまり得ていない」が45.5%、「ほとんど得ていない」が19.6%で、両者を合わせた「情報を得ていない」の回答率は65.1%となり、多くの方に情報が伝わっていない実情が明らかとなった。

男女別にみると、「あまり得ていない」では男性が47.1%、女性が43.6%、「ほとんど得ていない」では男性が13.6%、女性が26.5%、両者を合わせた「情報を得ていない」の回答率は男性が60.7%、女性が70.2%となり、男性に比べ女性の方が情報を得られていない状況が明らかとなった。

年代別にみると、「ある程度得ている」では70歳以上が47.8%で最も高く、次いで60歳代が43.3%となった。一方30歳代は、15.5%と最も低い結果となった。

2.4.4 下水道局が行っている活動や取組への満足度

下水道局が行っている活動や取組への満足度について、「やや満足している」が38.4%と最も高く、「満足している」と合わせて53.0%が満足しているという結果となった。

年代別にみると、70歳以上で満足度が高い傾向を示し、「満足している」が22.5%と全年代で最も高い結果となった。一方、30歳代では「満足している」が9.3%「やや満足している」が34.0%で、両者を合わせた割合は43.3%が最も低い結果となった。

2.5 東京アメッシュについて

2.5.1 「東京アメッシュ」の認知度

「東京アメッシュ」について、「知っている（利用している・利用したことがある）」は36.4%、「知っている（利用したことはない）」は17.2%で、両者を合わせた「知っている」は53.6%の認知度であった。

年代別にみると、「知っている」では50歳代が67.2%と最も高く、ついで70歳以上が56.3%となっており、20歳代が33.3%と最も低い結果となった。

2.5.2 「東京アメッシュ」の利用媒体

「東京アメッシュ」を「利用している・利用したことがある」方（全体数234名）の利用媒体は、「パソコン」が最も多く82.1%（192名）、次いで「スマートフォン」が55.1%（129名）、「タブレット」は12.4%（29名）となった。

年代別にみると、全般的に「パソコン」の利用が多い結果となったが、30歳代では「パソコン」と「スマートフォン」の割合が同程度であり、30歳代では「スマートフォン」の利用度が高いことが明らかとなった。

2.5.3 「東京アメッシュ」の利用に際してのアクセス方法

「東京アメッシュ」を「利用している・利用したことがある」方（全体数234名）の利用に際してのアクセス方法について、「お気に入りやホーム画面に登録して利用」が最も多く65.4%（153名）、次いで「東京アメッシュ」と検索して利用」が39.7%（93名）、「その他」が3.4%（8名）となった。

男女別にみると、利用方法に差が見られ、男性では「お気に入りやホーム画面に登録して利用」される方が多い結果となったが、女性では、利用の都度、「東京アメッシュ」と検索して利用」される方が多く、その割合は、「お気に入りやホーム画面に登録して利用」方とほぼ同等であった。

年代別にみると、利用方法に差が見られ、40歳代以上では「お気に入りやホーム画面に登録して利用」の割合が高かったが、20歳代、30歳代では「東京アメッシュ」と検索して利用」される方の割合の方が高い結果となった。

2.4.4 「東京アメッシュ」の利用方法

「東京アメッシュ」の利用方法について、「お出掛けの時」が73.1%と最も高く、次いで「通勤や通学時」が59.4%、「洗濯物や布団を干す時や取込む時」が37.2%となった。

男女別にみると、男性、女性ともに利用方法の上位は、「お出掛けの時」、「通勤や通学時」、「洗濯物や布団を干す時や取込む時」であったが、女性に比べ男性では、「工事や仕事など屋外作業の準備」や「野球やキャンプ等の屋外活動の中止の判断」といった屋外での作業時に利用される傾向が見られた。

2.4.5 「東京アメッシュ」以外に利用している降雨情報

「東京アメッシュ」以外に利用している降雨情報について、「利用していない」との回答が34.9%と最も多かった。「東京アメッシュ」以外では、「防災速報」が8.5%と最も多く、次いで「気象庁：高解像度降水ナウキャスト/レーダーナウキャスト」が7.0%、「雨マップ」が5.3%となった。

年代別にみると、「防災速報」では40歳代が9.0%、「気象庁：高解像度降水ナウキャスト/レーダーナウキャスト」では70歳代以上が11.3%と最も多い結果となった。

2.5 下水道事業の評価基準

下水道事業を評価する基準について、「公共性」が82.8%と最も高く、次いで「災害リスク対応度」が72.2%、「環境貢献度」が71.6%となった。

年代別にみると、年代が上がるとともに「公共性」、「災害リスク対応度」、「環境貢献度」に顕著な差が見られなくなり、「経済性」に比べ、これら3つの要因の重要性は増していることが示唆された。

2.6 下水道事業に関するニーズ

下水道に関して知りたいと思うことは、「下水道の働きや役割」が66.8%と最も高く、次いで「下水道料金の内訳と使い道」が53.4%、「下水道の事業計画・進捗状況」が53.3%となった。

男女別にみると、男性と女性では若干の違いが見られ、「下水道の事業計画・進捗状況」、「下水道料金の内訳と使い道」の順であった男性に対し、女性では「下水道料金の内訳と使い道」の方が高い割合となっており、下水道料金への関心が高いことが示唆された。

年代別にみると、どの年代も同様な傾向を示したが、70歳以上では「下水道局の地域連携の状況」の割合が高く、20歳代では「下水道局のイベント等の情報」の割合が高いといった年代による違いが見られた。

2.7 下水道事業の認知経路

下水道事業の認知経路は、「広報東京都」が60.2%と最も高く、次いで「下水道局ホームページ」が31.7%、「テレビ番組・ニュース」が22.7%となった。

年代別にみると、高い年代では、「広報東京都」や「新聞・雑誌」といった紙媒体による認知が多い傾向を示したが、年代が下がるにつれ、紙や電子など媒体の形式によらず、様々な媒体から情報を得ていることが明らかとなった。

2.8 下水道事業に関する情報の探求意思、共有欲求

2.8.1 下水道事業に関する情報の探求意思

下水道事業に関する情報の探求意思は、「非常にそう思う」が49.5%と最も高かった。

年代別にみると、「非常にそう思う」では70歳以上が55.0%と最も高く、次いで40歳代が53.5%、50歳代が49.2%となった。

2.8.2 下水道事業に関する情報の共有欲求

下水道事業に関する情報の共有欲求について、「非常にそう思う」と「ややそう思う」を合わせた「そう思う」は 79.8%であり、多くの方が下水道事業に関する情報を欲していることが明らかとなった。

年代別にみると、「そう思う」では 60 歳が 86.6%と最も高く、次いで 70 歳以上が 83.1%、40 歳代が 81.5%となった。(※20 歳代は母数が少ない為除く)

2.9 下水道局へのご意見・ご要望など

下水道局へのご意見・ご要望について、「知識・理解を深めたい」が 38%で最も多く、次いで「活動内容がわかり有意義」が 17%となった。

3. 回答者属性

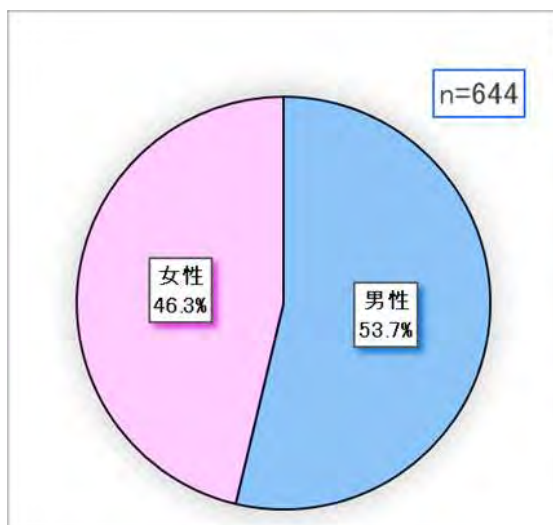
第1回モニターアンケートは、平成30年5月21日（月）から6月10日（日）までの21日間で実施した。その結果、644名の方から回答があった。（回答率82.1%）

■ 回答者数（性別、年代別、職業別、地区別）

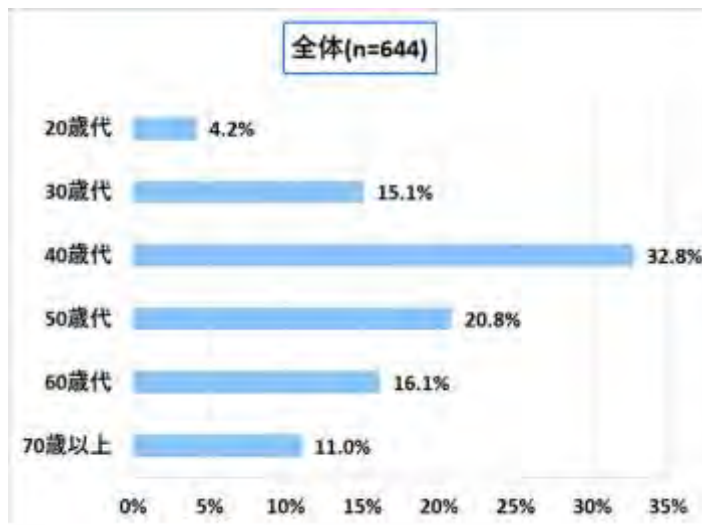
性別	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
男性	346	420	82.4%	53.7%
女性	298	364	81.9%	46.3%
合計	644	784	82.1%	100.0%
年代	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
20歳代	27	44	61.4%	4.2%
30歳代	97	117	82.9%	15.1%
40歳代	211	250	84.4%	32.8%
50歳代	134	162	82.7%	20.8%
60歳代	104	131	79.4%	16.1%
70歳以上	71	80	88.8%	11.0%
合計	644	784	82.1%	100.0%
地域	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
23区部	382	469	81.4%	59.3%
多摩地区	262	315	83.2%	40.7%
合計	644	784	82.1%	100.0%
職業	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
会社員	286	338	84.6%	44.4%
自営業	49	56	87.5%	7.6%
学生	8	12	66.7%	1.2%
私立学校教員・塾講師	8	12	66.7%	1.2%
パート	59	75	78.7%	9.2%
アルバイト	19	19	100.0%	3.0%
専業主婦	108	144	75.0%	16.8%
無職	86	97	88.7%	13.4%
その他	21	31	67.7%	3.3%
合計	644	784	82.1%	100.0%

■ 回答者属性別グラフ

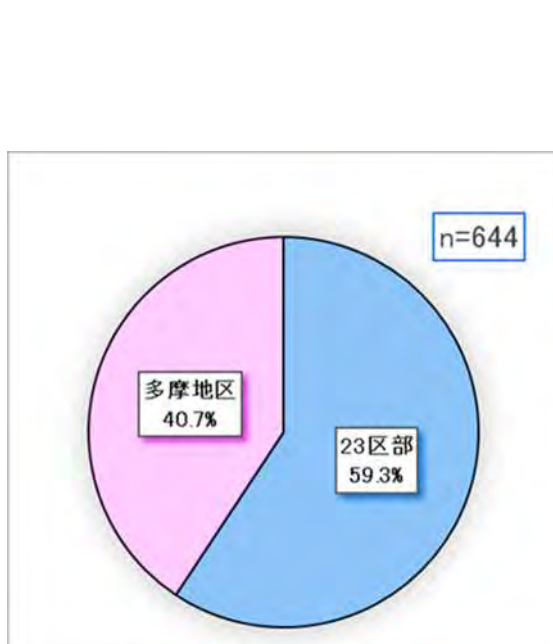
<性別>



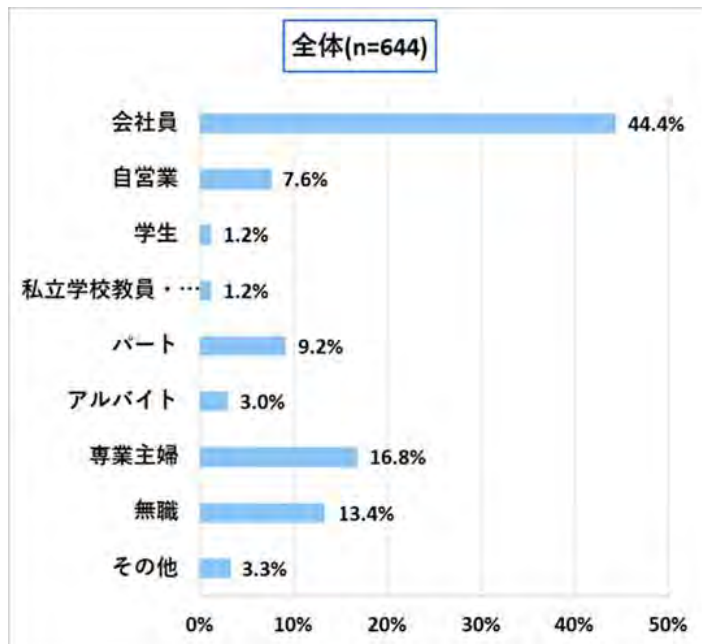
<年代別>



<地区別>



<職業別>



4. 集計結果

※ 文中の「n」は質問に対する回答者数で、比率（％）はすべて「n」を基数（100％）として算出している。

4.1 下水道の役割、東京都下水道局が行っている活動や取組について

4.1.1 下水道の役割「水質改善」の認知度

-
- ◆ 「水質改善」の認知度について、91.8%が「知っていた」と回答した。
 - ◆ 男女別にみると、「知っていた」では男性が91.9%、女性が91.6%となり、男性と女性で差は見られなかった。
 - ◆ 年代別にみると、「知っていた」では全年代で7割以上を示した。特に40歳代以上では9割を超えており、認知度が高いことがわかった。
 - ◆ 地区別にみると、「知っていた」では23区部が90.6%、多摩地区が93.5%となり、23区部と多摩地区で、地区による顕著な違いは見られなかった。
 - ◆ 経年比較でみると、「知っていた」では平成28年度調査から増加傾向が見られ、「水質改善」の認知度がわずかながら向上していることがわかった。
-

Q 5 下水道には、家庭や工場などから出る汚れた水をきれいにしてから川や海に放流するという「水質改善」の役割があります。あなたは、このことをご存知でしたか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）

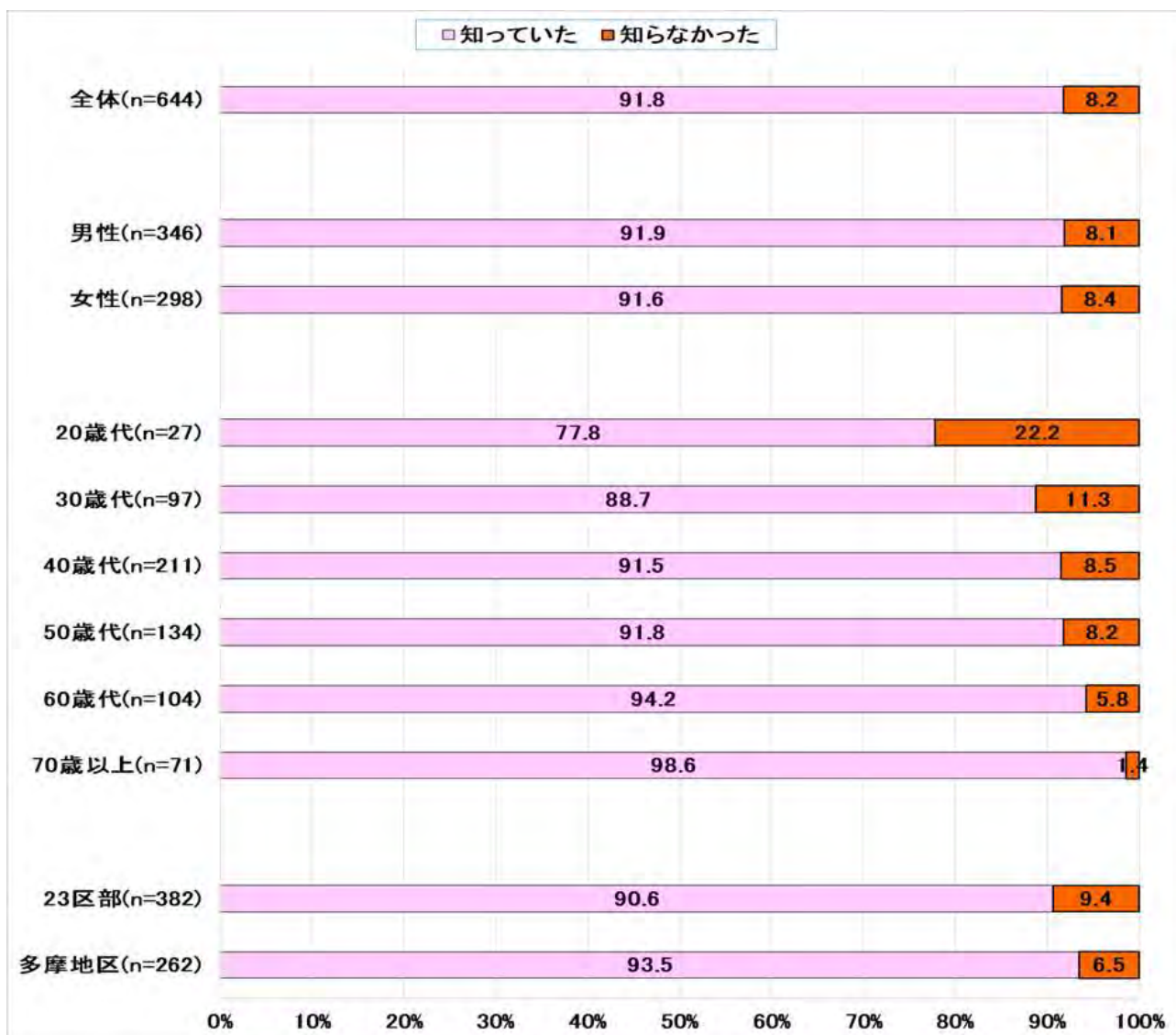


図 4 - 1 - 1 「水質改善」の認知度

表 4 - 1 「水質改善」を「知っていた」と回答した方の割合の経年比較

	全体	男女別		地域別	
		男性	女性	23区	多摩地域
H28	88.0	89.1	86.8	86.9	89.7
H29	90.0	93.3	85.9	88.5	92.4
H30	91.8	91.9	91.6	90.6	93.5

4.1.2 下水道の役割「水質改善」の重要度

- ◆ 「水質改善」について、「非常に重要である」が81.1%、「かなり重要である」が18.6%で、「重要である」との回答は合わせて99.7%となり、「水質改善」の重要度は広く認識されていることがわかった。
- ◆ 男女別にみると、「非常に重要である」では男性が80.9%、女性が81.2%となり、男性と女性で顕著な差は見られなかった。
- ◆ 年代別にみると、「非常に重要である」では40歳以上が84.4%と最も多く、次いで70歳以上が83.1%、50歳代が82.1%となった。一番低い結果の20歳代でも70.4%と7割を超えていた。
- ◆ 地区別にみると、「非常に重要である」では23区部が79.6%、多摩地区が83.2%となり、多摩地区が23区部に比べ3.6ポイント高い結果となった。

Q 6 「水質改善」の役割について、あなたはどのくらい重要であると思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）

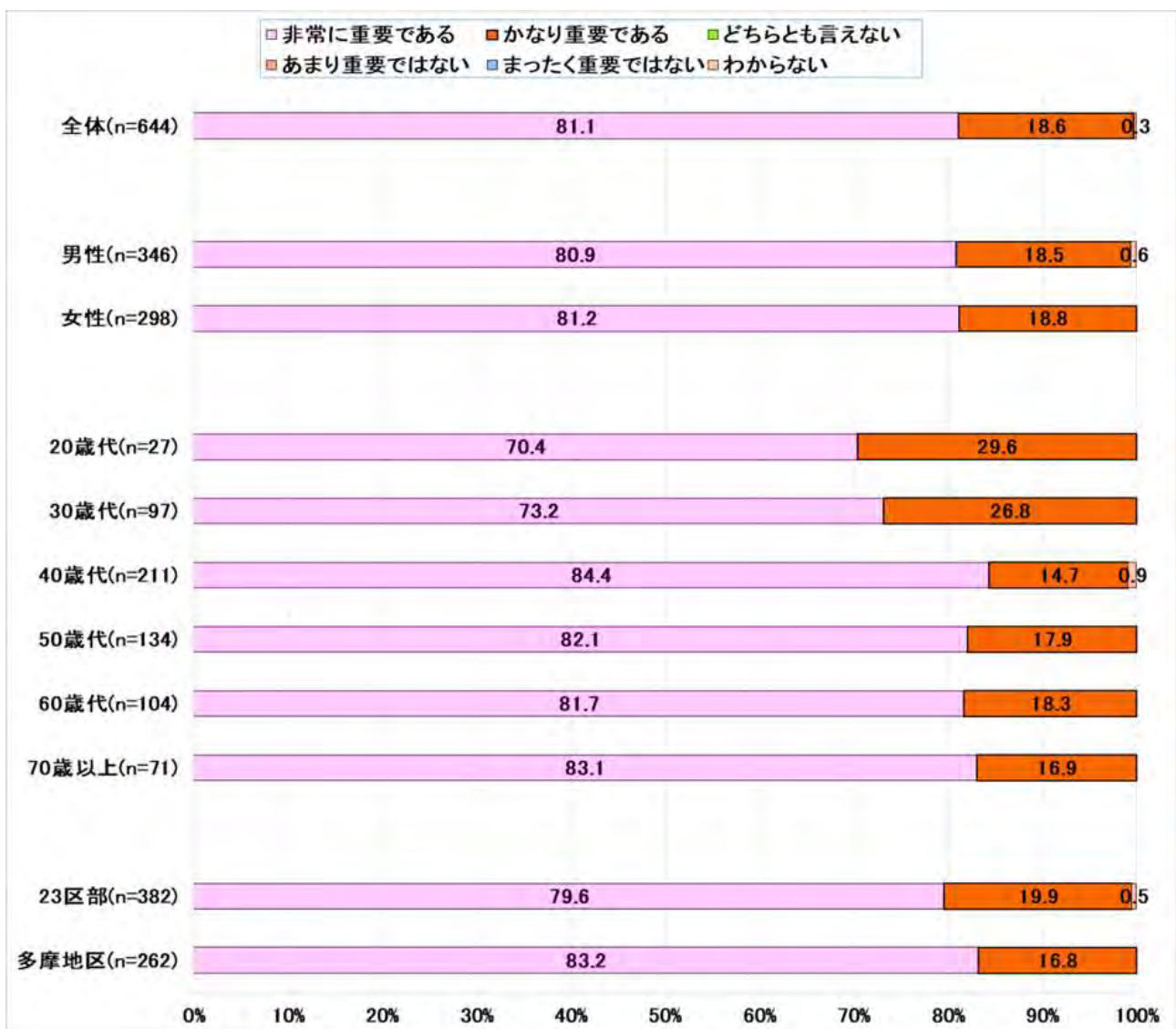


図4-1-2 「水質改善」の重要度

4.1.3 下水道の役割「水質改善」の評価

- ◆ 「水質改善」について、「非常に貢献度がある」が 66.7%、「かなり貢献度がある」が 29.5%で、「貢献度がある」と評価された方は合わせて 96.2%となり、多くの方に評価いただいていることが分かった。
- ◆ 男女別にみると、「非常に貢献度がある」では男性が 65.6%、女性が 68.1%となり、女性と男性で顕著な差は見られなかった。
- ◆ 年代別にみると、「非常に貢献度がある」では 70 歳以上が 73.2%と最も高く、次いで 40 歳代が 71.6%、60 歳代が 69.4%となった。一方 30 歳代は 53.6%と最も低い結果となり、他の年代に比べ、「水質改善」への評価は低かった。
- ◆ 地区別にみると、「非常に貢献度がある」では 23 区部が 64.4%、多摩地区が 70.2%と、多摩地区が 5.8 ポイント高い結果となった。

Q 7 水質改善の役割は、我々の生活にとってどのくらい貢献していると思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）

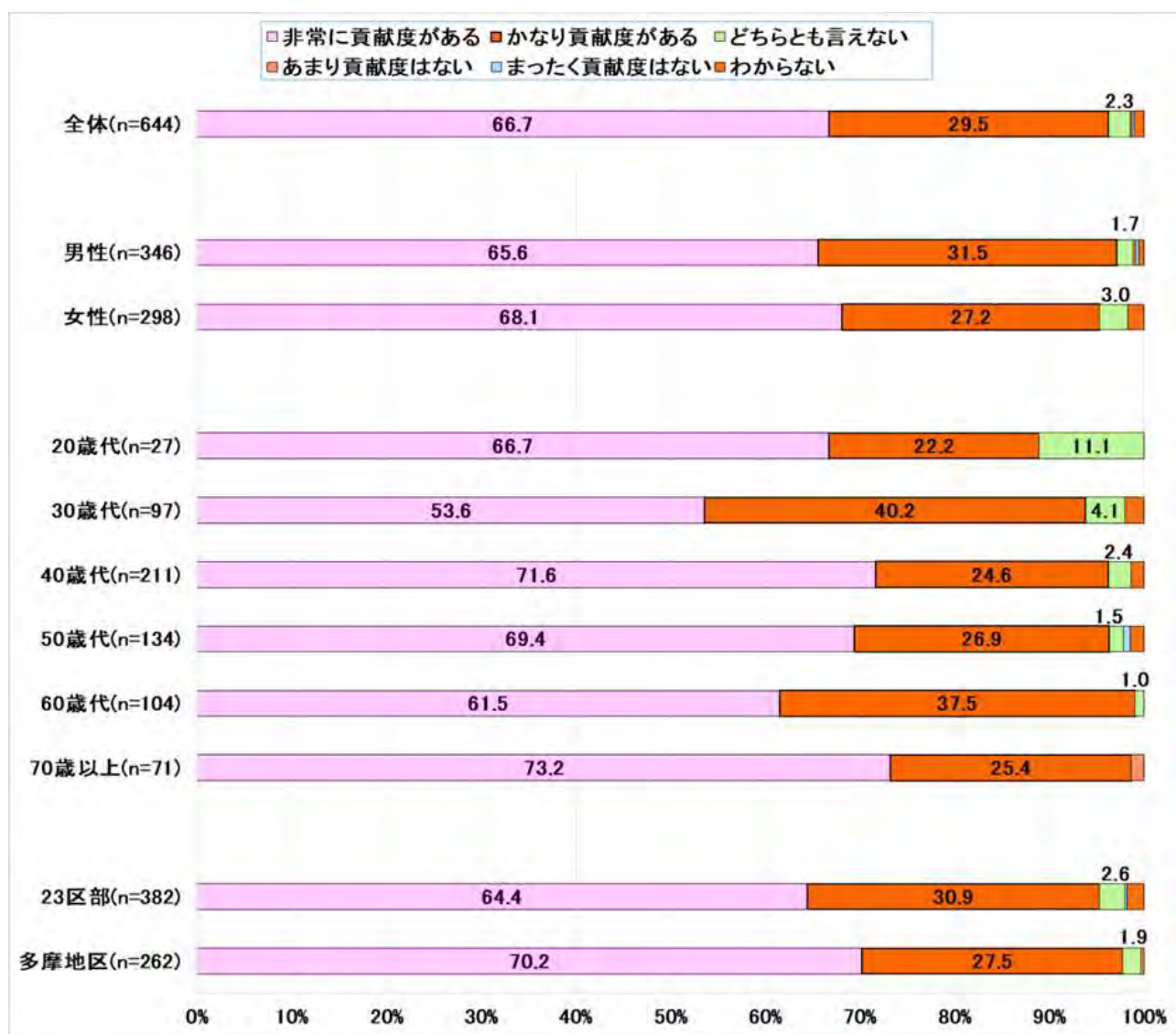


図 4-1-3 「水質改善」の評価

4.1.4 下水道の役割「浸水防除」の認知度

- ◆ 「浸水防除」の認知度について、76.9%が「知っていた」と回答した。
- ◆ 男女別にみると、「知っていた」では男性が84.4%、女性が68.1%と、男性が女性より16.3ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「知っていた」の割合は年代が上がるとともに上昇する傾向を示し、70歳以上では、91.5%と9割を超える高い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、「知っていた」では23区部が78.5%、多摩地区が74.4%となり、23区部が多摩地区より4.1ポイント高い結果となった。

Q 8 下水道には、強い雨が降った時に、雨水を下水道管に取り込み川や海に放流することで、大雨による浸水からまちを守るといふ「浸水防除」の役割があります。あなたは、このことをご存知でしたか？
以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）

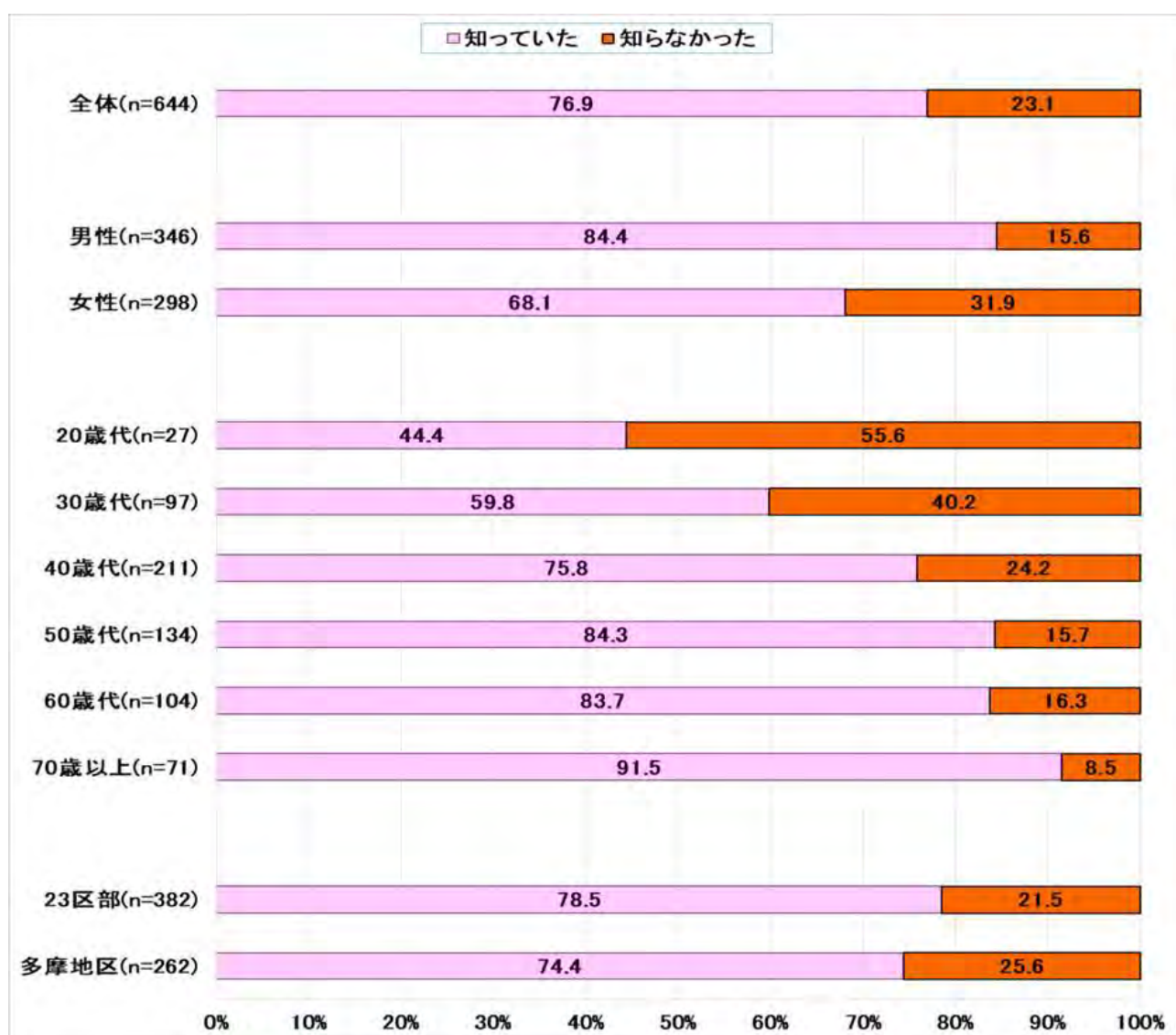


図4-1-4 「浸水防除」の認知度

4.1.5 下水道の役割「浸水防除」の重要度

- ◆ 「浸水防除」について、「非常に重要である」が71.5%、「かなり重要である」が25.2%で、「重要である」との回答は合わせて96.8%となり、「浸水防除」の重要度は広く認識されていることがわかった。
- ◆ 男女別にみると、「非常に重要である」では男性が69.6%、女性が73.9%と、女性が男性より4.3ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「非常に重要である」では、50歳代の77.6%を頂点として、40歳代以上が7割を超える高い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、「非常に重要である」では23区部が71.4%、多摩地区が71.7%となり、23区部と多摩地区で地区による違いは見られなかった。

Q9 「浸水防除」の役割について、あなたは、どのくらい重要であると思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）

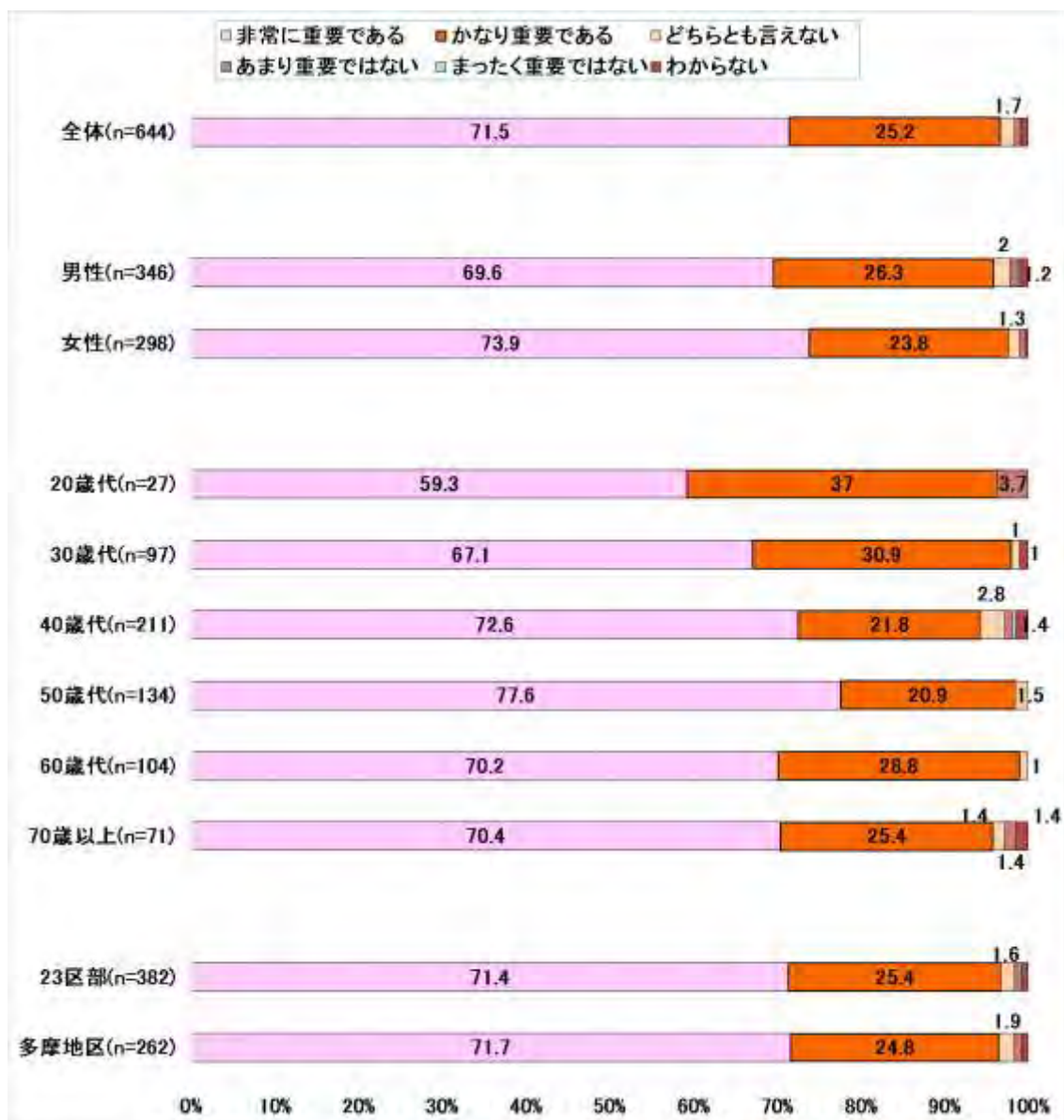


図4-1-5 「浸水防除」の重要度

4.1.6 下水道の役割「浸水防除」の評価

- ◆ 「浸水防除」について、「非常に貢献度がある」が 60.5%、「かなり貢献度がある」が 33.7%で、「貢献度がある」との回答は合わせて 94.2%となり、多くの方に評価いただいていることがわかった。
- ◆ 男女別にみると、「非常に貢献度がある」では男性が 58.0%、女性が 63.5%となり、女性が男性より 5.5 ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「非常に貢献度がある」では全世代で 50%を超えていたが、特に 40 歳代が 63.5%と最も高く、次いで 50 歳代が 62.8%、70 歳以上が 59.2%となった。
- ◆ 地区別にみると、「非常に貢献度がある」では 23 区部が 61.5%、多摩地区が 59.1%となり、23 区部と多摩地区で地区による顕著な違いは見られなかった。

Q10 「浸水防除」の役割は、我々の生活にとってどのくらい社会的な貢献度が高いと思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）

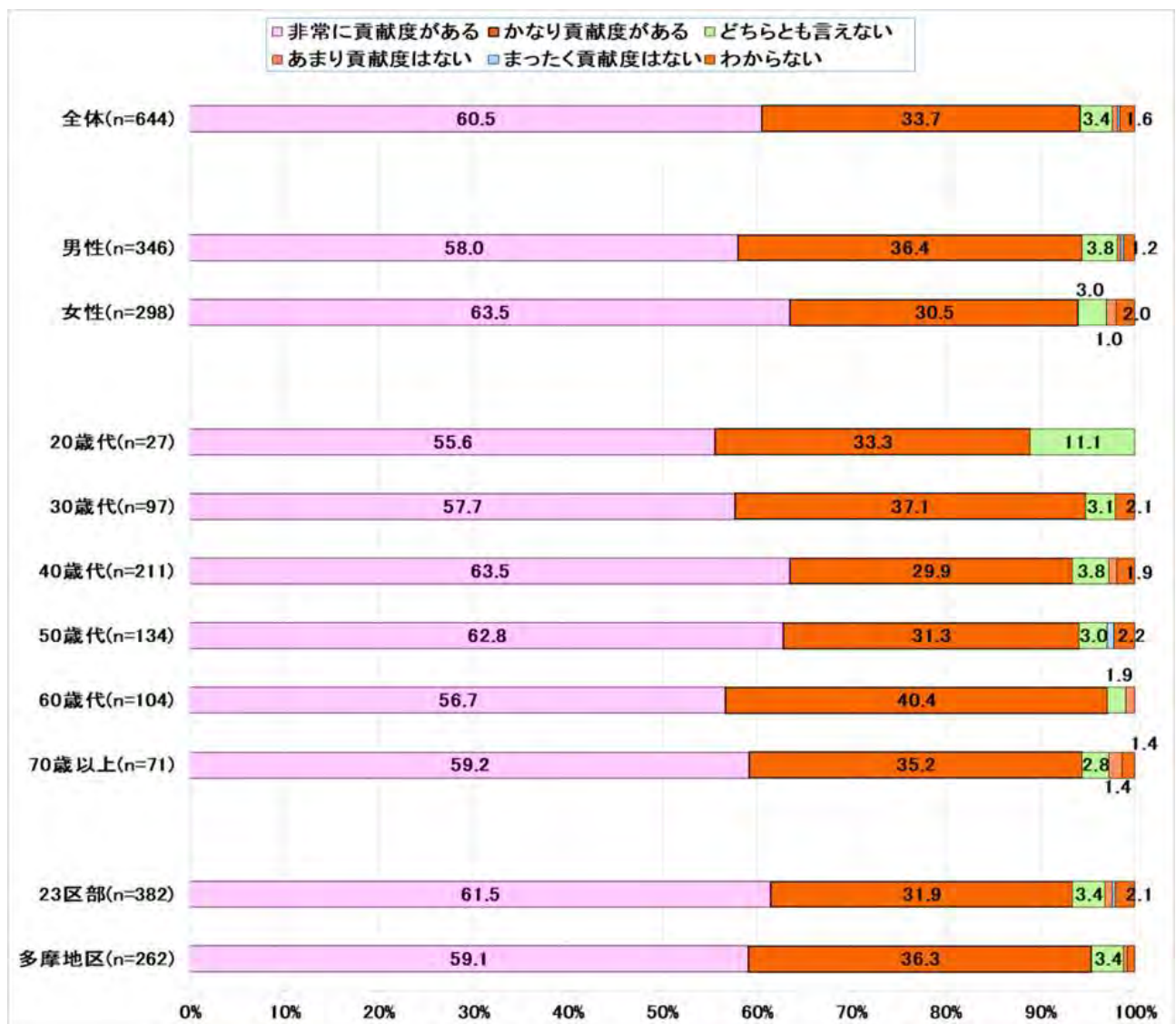


図4-1-6 「浸水防除」の評価

4.2 下水道の課題

4.2.1 下水道の課題①「下水道管の老朽化」の認知度

- ◆ 「下水道管の老朽化」について、「知っていた」は51.4%となり、「下水道管の老朽化」の認知度は約5割であった。
- ◆ 男女別にみると、「知っていた」では男性が59.8%、女性が41.6%と、女性が男性より18.2ポイント低い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「知っていた」の割合は年代が上がるとともに上昇し、70歳以上が67.6%と最も高く、次いで60歳代が63.5%となった。一方、20歳代では約3割の33.3%と最も低い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、「知っていた」では23区部が55.5%、多摩地区が45.4%となり、23区部が多摩地区より10.1ポイント高い結果となった。

Q 1 1 道路の下に埋設される下水道管が破損すると、道路の陥没事故につながる恐れがあるため、古い下水道管は取替えや補修が必要です。

東京都の下水道は整備を始めてから既に100年以上が経過しています。下水道管は耐用年数が50年とされており、現在でも一部の下水道管は耐用年数を越えています。また、高度経済成長期以降（1960年代以降）に整備した大量の下水道管が間もなく耐用年数に達しようとしています。

あなたは、このことをご存知でしたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお選びください。

（単一回答）

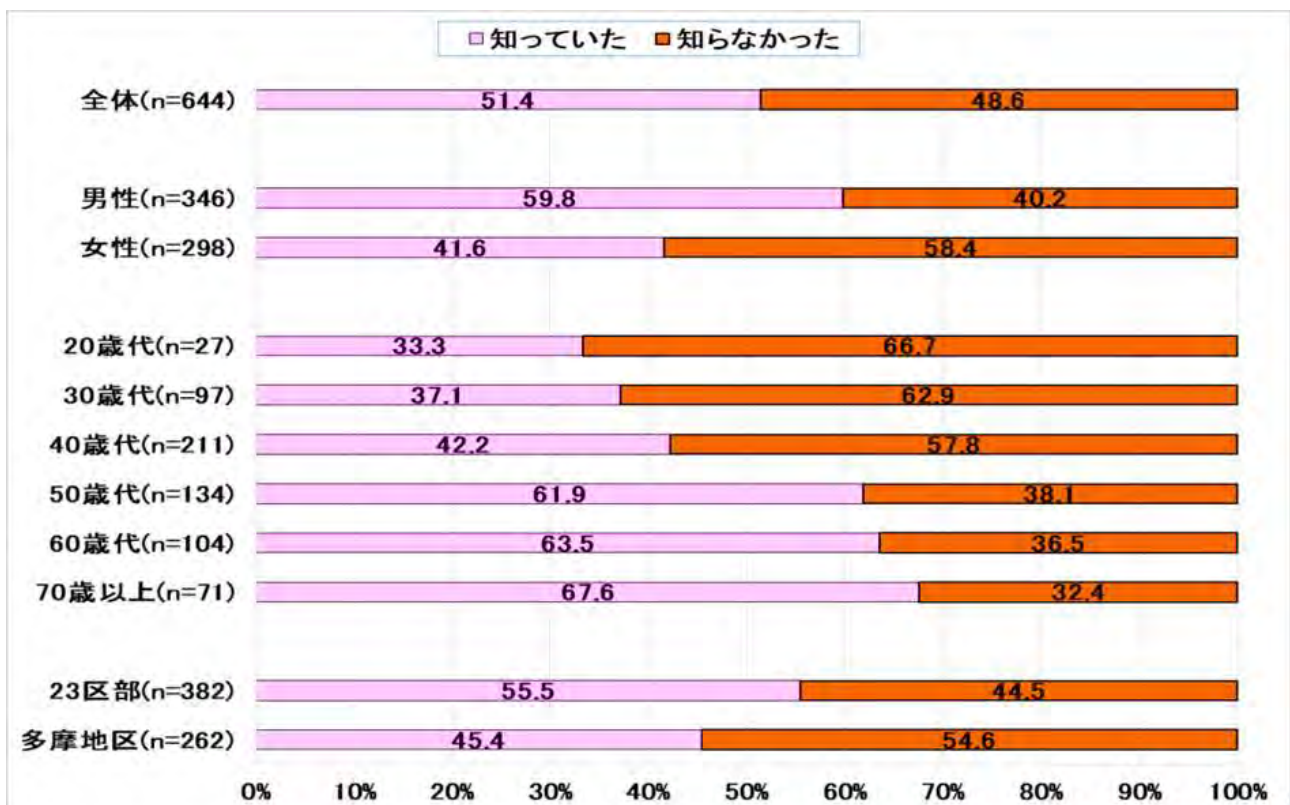


図4-2-1 「下水道管の老朽化」の認知度

4.2.2 下水道の課題①「下水道管の老朽化」の認識度

- ◆ 「下水道管の老朽化」について、「とても深刻な問題だと思う」が 87.6%、「すこし深刻な問題だと思う」が 11.8%で、「深刻な問題だと思う」とする方は合わせて 99.4%となり、多くの方に「深刻な問題」と認識されていることが分かった。
- ◆ 男女別にみると、「とても深刻な問題だと思う」では男性が 88.4%、女性が 86.5%となり、男性と女性で顕著な差は見られなかった。
- ◆ 年代別にみると、「とても深刻な問題だと思う」と「すこし深刻な問題だと思う」を合わせた「深刻な問題だと思う」との回答は、どの年代も 9 割を超え、中でも 70 歳以上は 100%と高い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、「とても深刻な問題だと思う」では 23 区部が 90.0%、多摩地区が 84.0%となり、23 区部が多摩地区より 6.0 ポイント高い結果となった。

Q 1 2 「下水道管の老朽化」について、どのようにお感じになりましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお選びください。（単一回答）

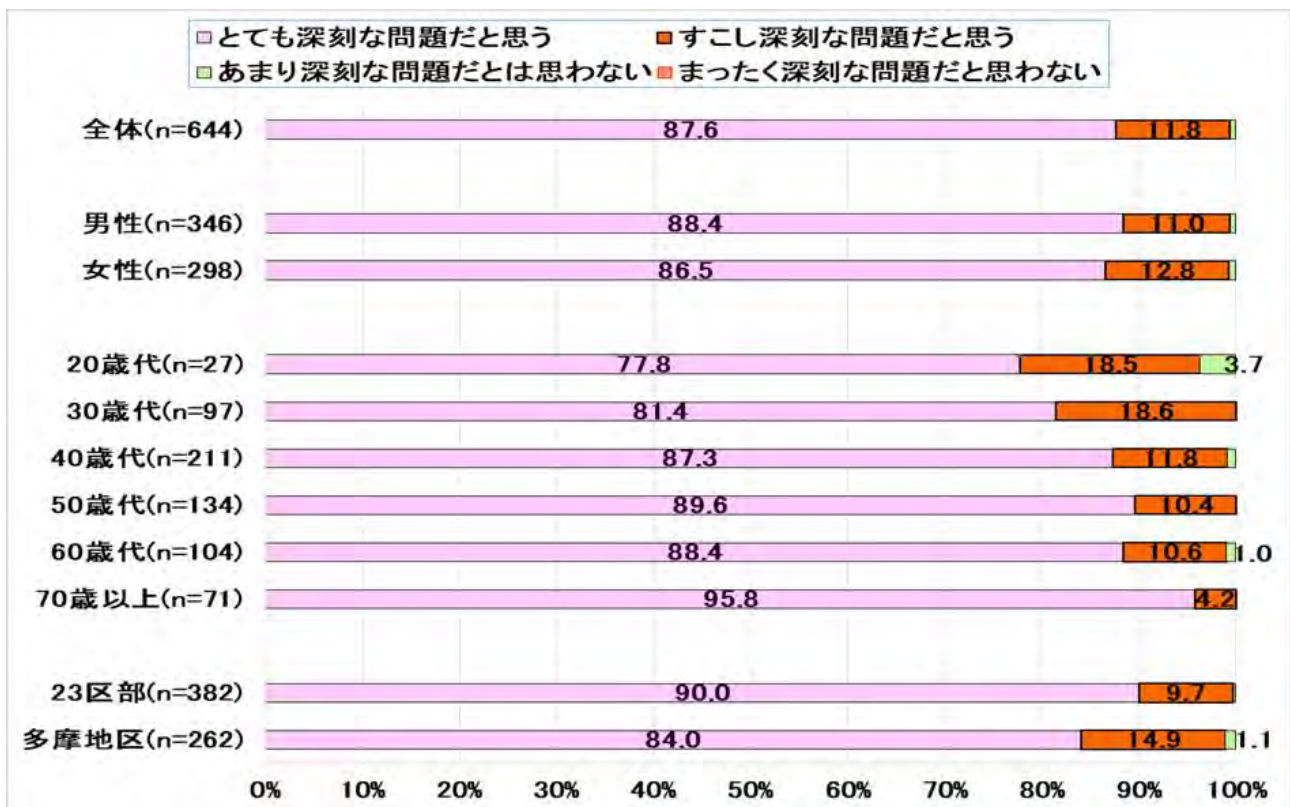


図 4-2-2 「下水道管の老朽化」の認識度

4.2.3 下水道の課題②「都市型浸水対策」の認知度

- ◆ 「都市型浸水対策」について、約7割の70.7%が「知っていた」と回答した。
- ◆ 男女別にみると、「知っていた」では男性が76.3%、女性が64.1%となり、男性が女性より12.2ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「知っていた」は年齢が高くなるにつれて増加する傾向がみられ、60歳代が87.5%と最も高かった。
- ◆ 地区別にみると、「知っていた」では23区部が70.2%、多摩地区が71.4%となり、多摩地区と23区部で地区による顕著な違いは見られなかった。

Q13 都市化によって、道路等の舗装が進み、雨水が地面に浸透しにくくなった結果、下水道に流れ込む雨水の量が増大しました。これにより、既に下水道が整備された東京都でも、短時間に猛烈な集中豪雨があると、下水道管やポンプ所の処理能力を超えて、都市型の浸水が発生することがあります。あなたは、このことをご存知でしたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお選びください。（単一回答）

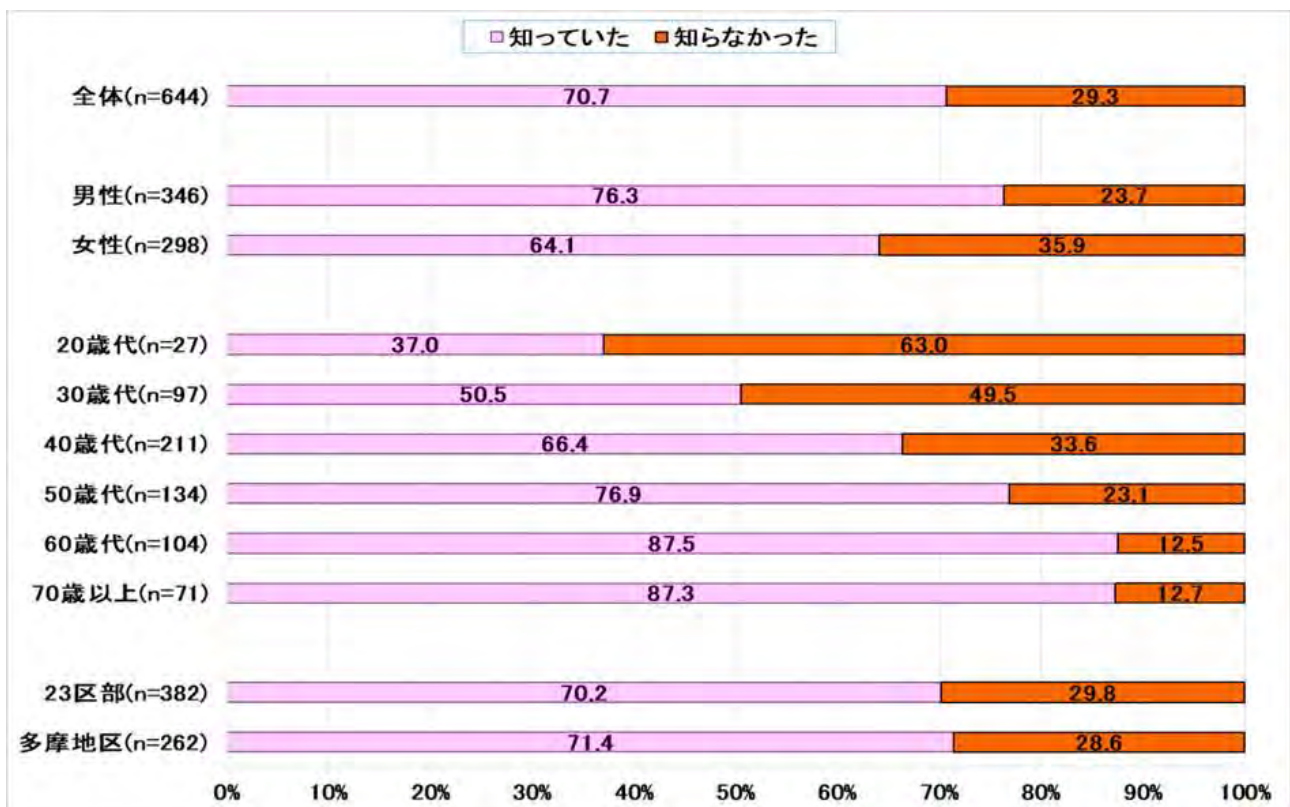


図4-2-3 「都市型浸水対策」の認知度

4.2.4 下水道の課題②「都市型浸水対策」の認識度

- ◆ 「都市型浸水対策」について、「とても深刻な問題だと思う」が 81.5%、「すこし深刻な問題だと思う」が 16.6%で、「深刻な問題だと思う」との回答は合わせて 98.1%となり、多くの方に「深刻な問題」と認識されていることが分かった。
- ◆ 男女別にみると、「とても深刻な問題だと思う」では男性が 80.0%、女性が 83.2%となり、女性が男性より 3.2 ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「とても深刻な問題だと思う」と「すこし深刻な問題だと思う」を合わせた「深刻な問題だと思う」との回答は、どの年代も 9 割を超え、中でも 50 歳代は最も高く 99.3%であった。
- ◆ 地区別にみると、「とても深刻な問題だと思う」では 23 区が 80.3%、多摩地区が 83.2%となり、多摩地区と 23 区部で顕著な違いは見られなかった。

Q 1 4 「都市型浸水」について、どのように感じになりましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお選びください。（単一回答）

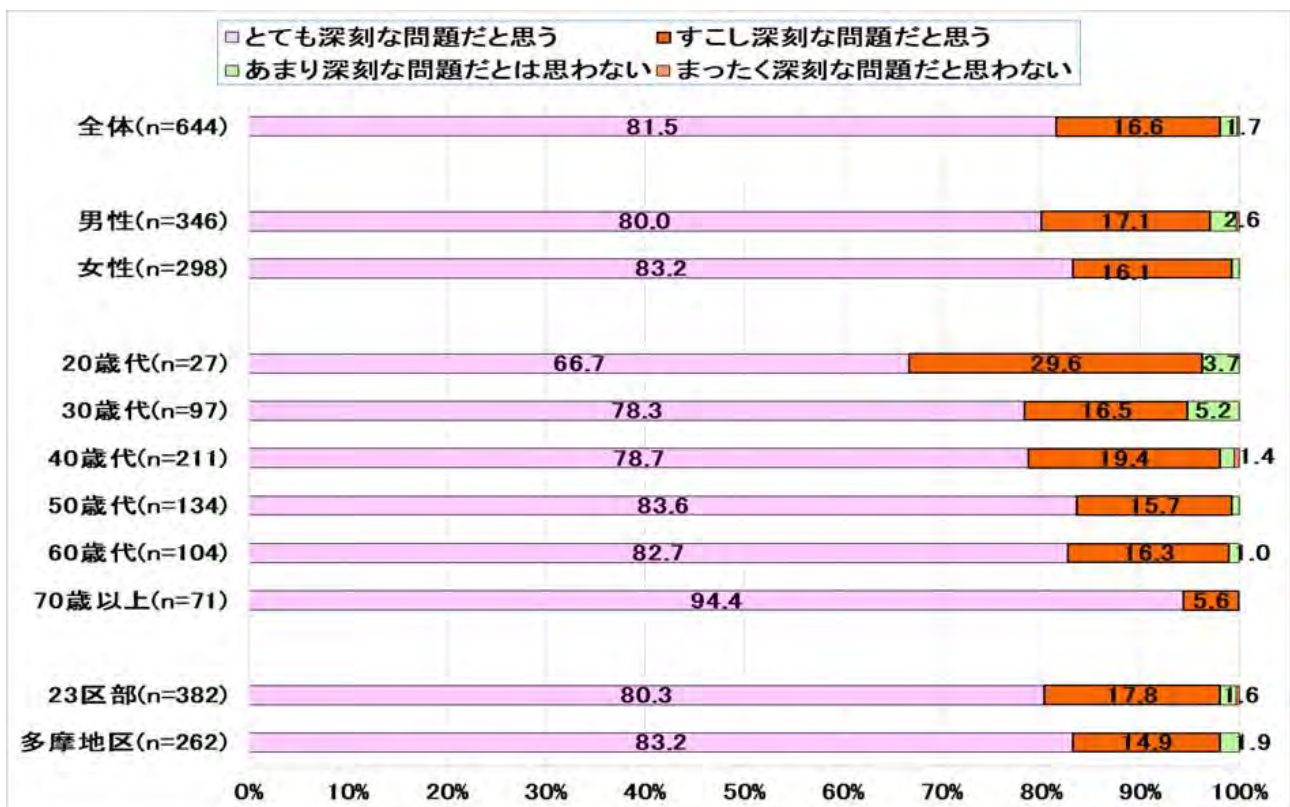


図 4 - 2 - 4 「都市型浸水対策」の認識度

4.2.5 下水道の課題③「合流式下水道の改善」の認知度

- ◆ 「合流式下水道の改善」の認知度について、「知っていた」は32.9%と低い結果となった。
- ◆ 男女別にみると、「知っていた」では男性が43.4%、女性が20.8%と、男性に比べ女性の認知度がとても低いことが明らかとなった。
- ◆ 年代別にみると、「知っていた」では年代の上昇とともに上がる傾向があり、70歳以上は57.7%と高かった。一方、若年層の認知度は低く、特に20歳代、30歳代では2割以下と大変低いことが明らかとなった。
- ◆ 地区別にみると、「知っていた」では23区部が33.8%、多摩地区が31.7%となり、多摩地区と23区部でほとんど差が見られなかった。

Q15 東京都の下水道は、主に、汚水と雨水が同じ下水道管を流れる「合流式下水道」で整備されています。この方式は、大雨が降ると下水の水量が一気に増大するため、水再生センターに流入する前に河川へ放流せざるを得なくなり、雨水で薄まった汚水の一部が、そのまま河川に流れてしまうということが起こります。あなたは、このことをご存知でしたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお選びください。（単一回答）

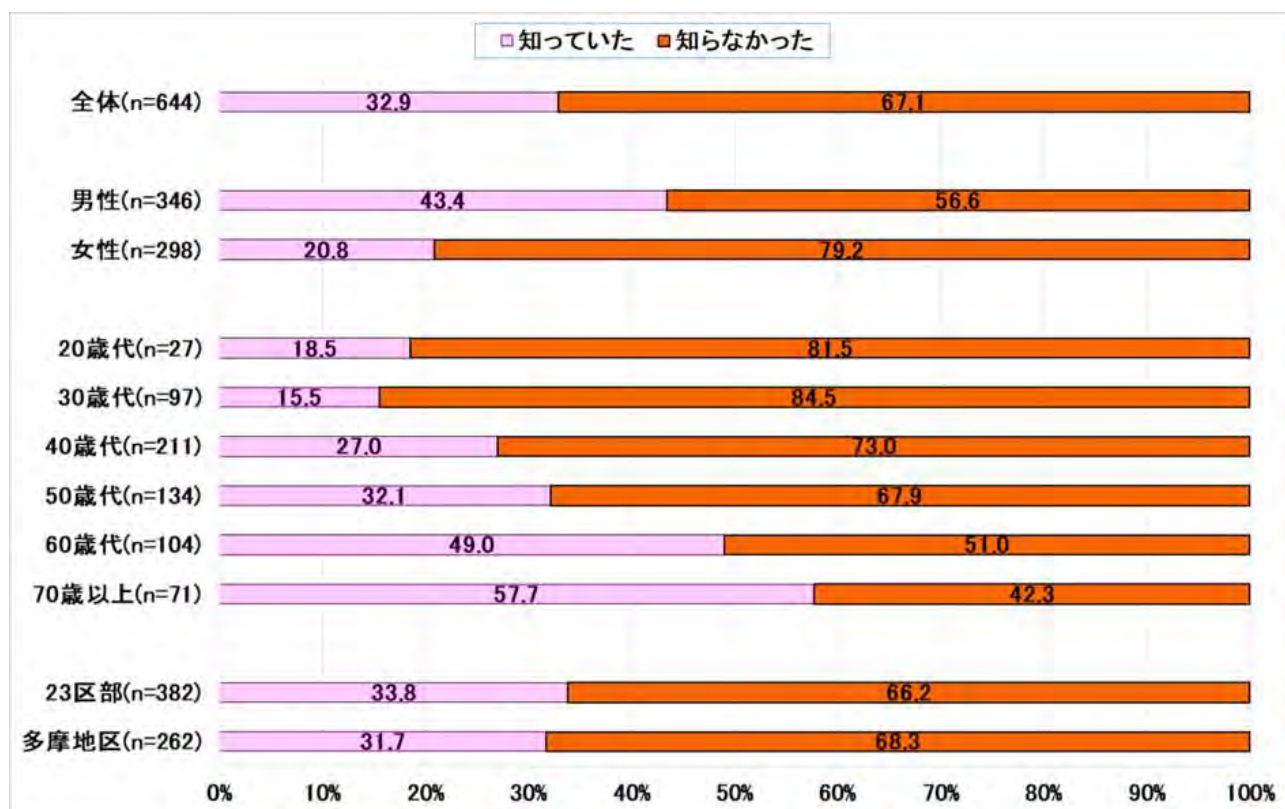


図4-2-5 「合流式下水道の改善」の認知度

4.2.6 下水道の課題③「合流式下水道の改善」の認識度

- ◆ 「合流式下水道の改善」については、「とても深刻な問題だと思う」が 63.3%、「すこし深刻な問題だと思う」が 32.8%で、「深刻な問題だと思う」との回答は合わせて 96.1%となり、多くの方に「深刻な問題」と認識されていることが分かった。
- ◆ 男女別にみると、「とても深刻な問題だと思う」では男性が 61.9%、女性が 65.1%と、女性が男性より 3.2 ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、50 歳代では、「とても深刻な問題だと思う」の回答率が 72.4%と最も高かっただけでなく、「とても深刻な問題だと思う」と「すこし深刻な問題だと思う」を合わせた「深刻な問題だと思う」との回答率が 100%となり、「合流式下水道の改善」についての認識が極めて高いことが明らかとなった。一方、20 歳代では、「とても深刻な問題だと思う」に対し、「すこし深刻な問題だと思う」の回答率の方が高く、20 歳代では「合流式下水道の改善」について認識しているものの、あまり深刻にはとらえていない傾向が見られた。
- ◆ 地区別にみると、「とても深刻な問題だと思う」では 23 区部が 63.8%、多摩地区が 62.6%となり、23 区部と多摩地区で、地区により顕著な違いは見られなかった。

Q16 「合流式下水道」について、どのようにお感じになりましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお選びください。（単一回答）

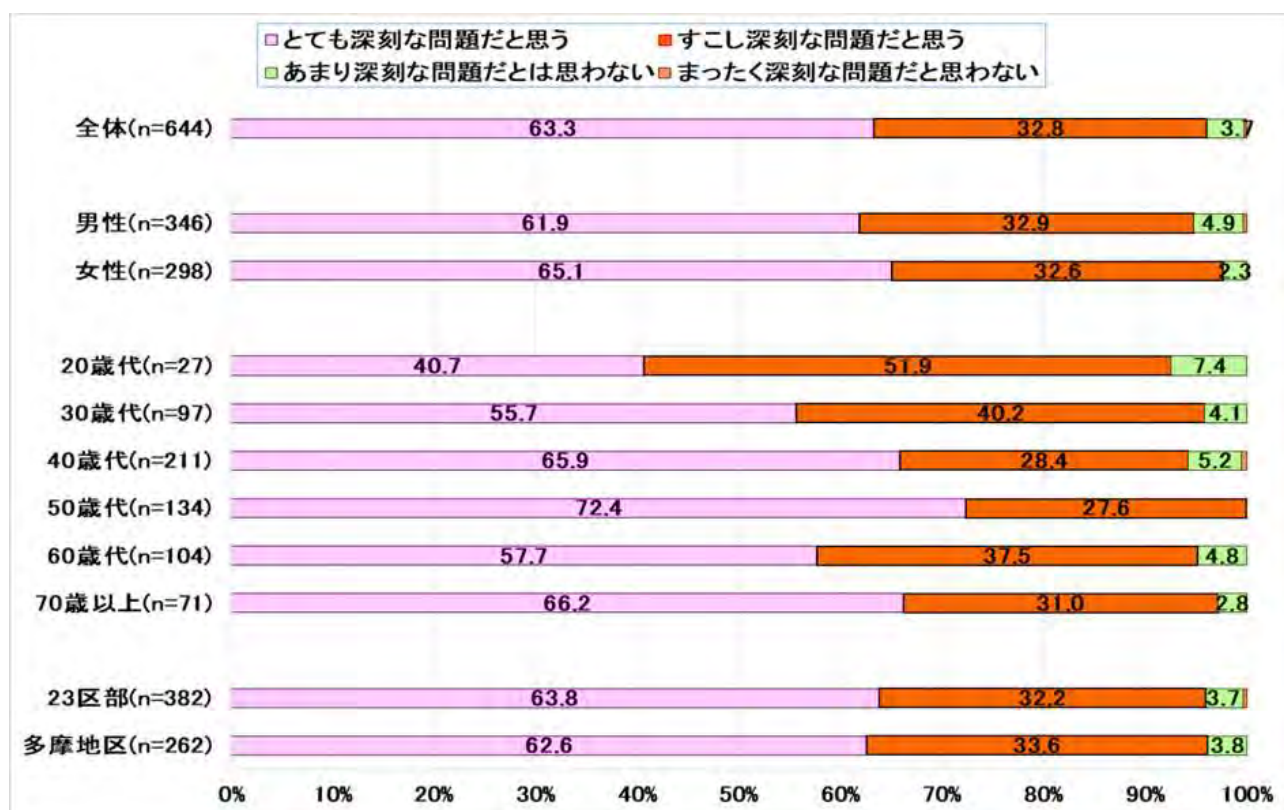


図4-2-6 「合流式下水道の改善」の認識度

4.2.7 下水道が抱える課題の公表について

- ◆ 下水道が抱える課題の公表について、「積極的に知らせるべきだ」が66.9%、「知ってもらおう努力をしたほうがよい」が32.3%、合わせてほぼ100%の99.2%が課題の公表を求めていることがうかがえた。
- ◆ 男女別にみると、「積極的に知らせるべきだ」では男性が70.2%、女性が63.2%と、男性が女性より7.0ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「積極的に知らせるべきだ」の割合は全年代で5割を超えるとともに年代の上昇とともに上がる傾向があり、70歳以上が78.9%と最も高く、30歳代では54.6%と最も低かった。
- ◆ 地区別にみると、「積極的に知らせるべきだ」では23区部が68.3%、多摩地区が64.9%と23区部の方が多摩地区より3.4ポイント高い結果となった。

Q17 上記「下水道管の老朽化」、「都市型浸水」、「合流式下水道」でおうかがいした、東京都の下水道における課題について、以下の中から該当する選択肢を一つだけお選びください。（単一回答）

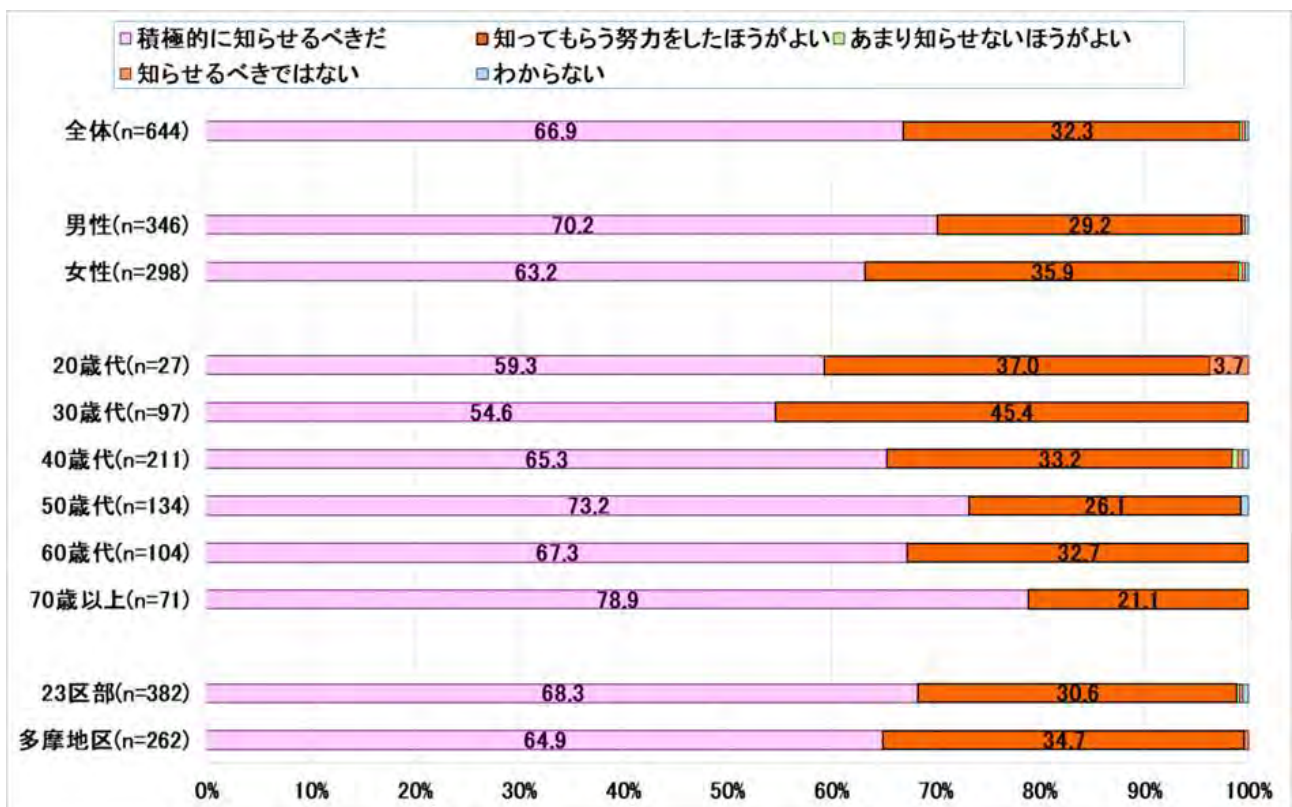


図4-2-7 下水道が抱える課題の公表について

4.3 新たな下水道事業の認知度と評価

4.3.1 新たな下水道事業の認知度

- ◆ 新たな下水道事業の認知度について、『知っていた』の回答率が5割を超えたのは、「1）きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」の66.6%と、「2）水再生センター上部を、区や市が管理する公園として利用」の59.8%だけであった。他の事業の認知度は4割未満と低く、特に「6）下水道管に光ファイバーを通すITの推進」は17.1%と最も低い結果となった。
- ◆ 男女別にみると、全事業で女性より男性の認知度が高い結果となった。
- ◆ 年代別では、全般的に、年代の上昇とともに認知度が上がる傾向が見られた。特に、70歳以上の認知度は、30代に比べ40.2ポイント高い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、全般的に、地区の違いによる認知度の大きな違いは見られなかったが、「2）水再生センター上部を、区や市が管理する公園として利用」では23区部が63.1%、多摩地区が55.0%と、23区部が多摩地区より8.1ポイント高く、「3）下水汚泥をセメントなどの原料とする資源化への取組」では23区部が30.4%、多摩地区が35.9%と、多摩地区が23区部より5.5ポイント高い結果となった。

Q18 東京都下水道局が行っている新たな活動や取組についておうかがいます。以下のそれぞれの項目について、あなたはこのことをご存知でしたか？該当する選択肢を一つだけお選びください。（単一回答）

- 1）きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用
- 2）水再生センター上部を、区や市が管理する公園として利用
- 3）下水汚泥をセメントなどの原料とする資源化への取組
- 4）再生水を水量が少ない川に流す清流の復活
- 5）再生水の散水・施設の壁面緑化などヒートアイランド現象抑制
- 6）下水道管に光ファイバーを通すITの推進
- 7）高度処理技術の開発・導入
- 8）下水道施設の省エネルギー化
- 9）下水熱を利用した冷暖房エネルギー活用
- 10）新たな焼却方式への改良など室温効果ガスの排出削減

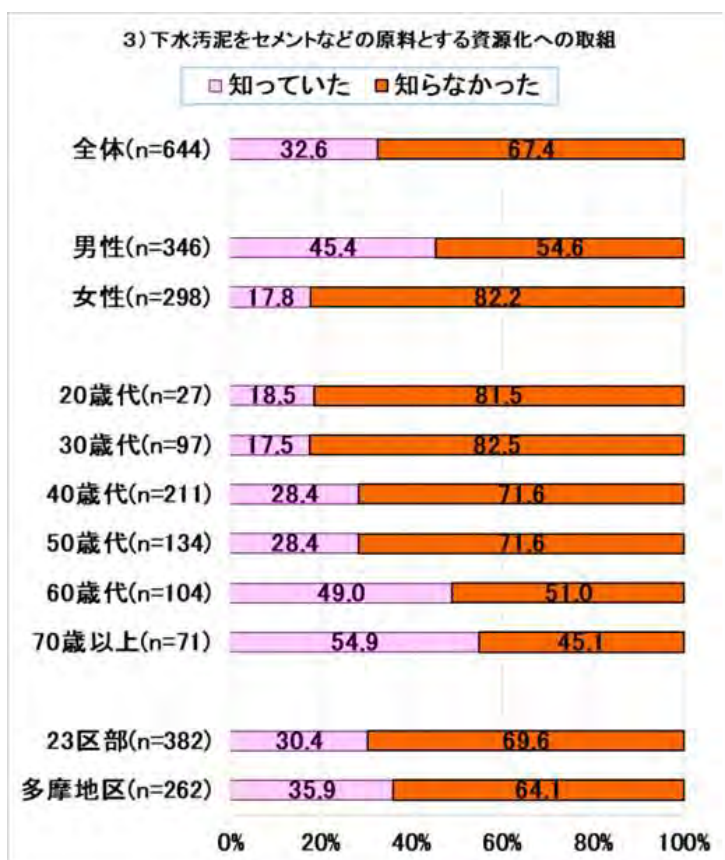
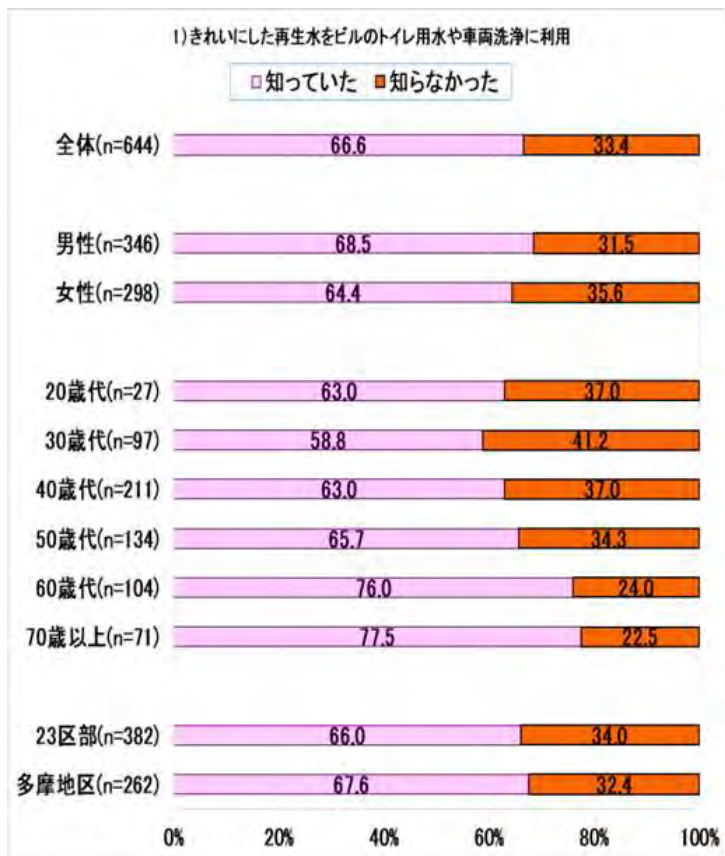


図 4-3-1-2 新たな事業活動の認知度（性別・年代別・地区別）

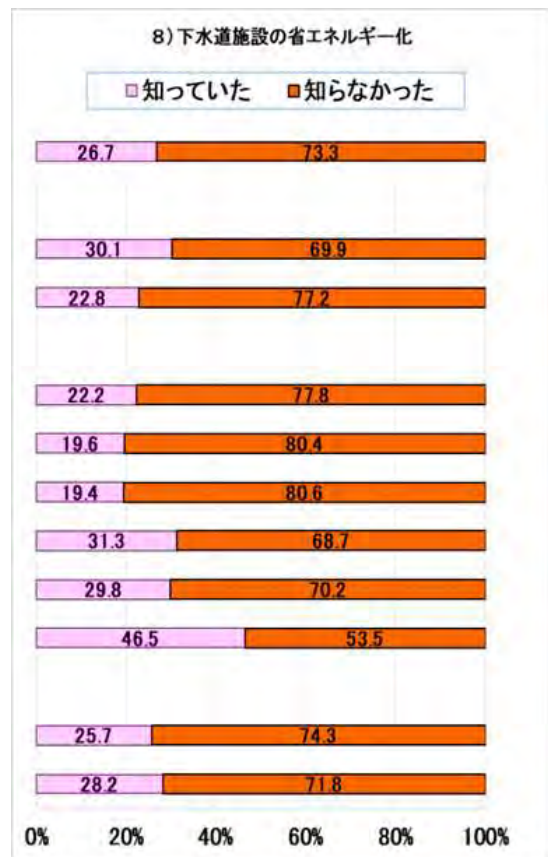
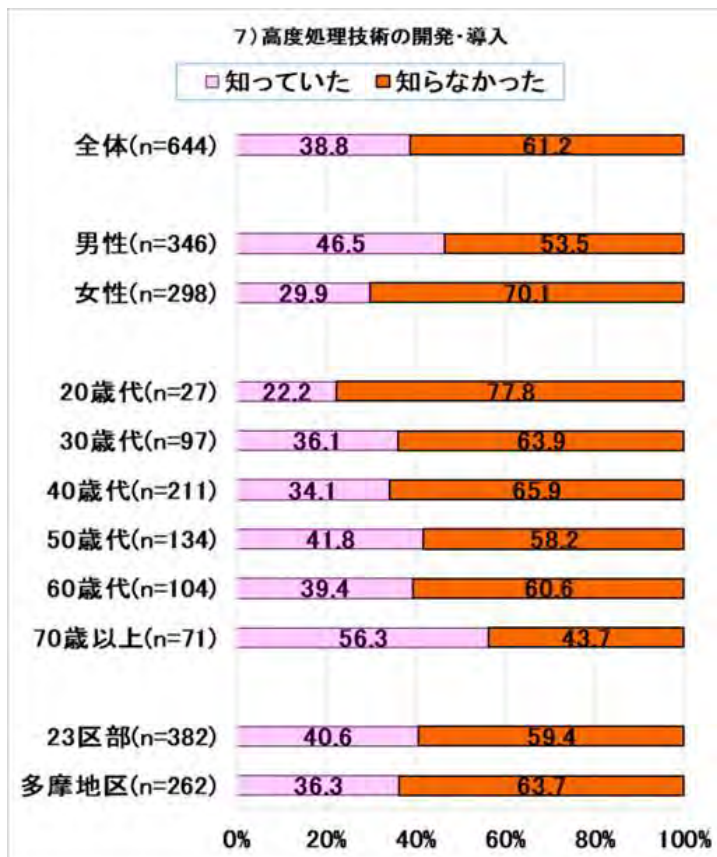
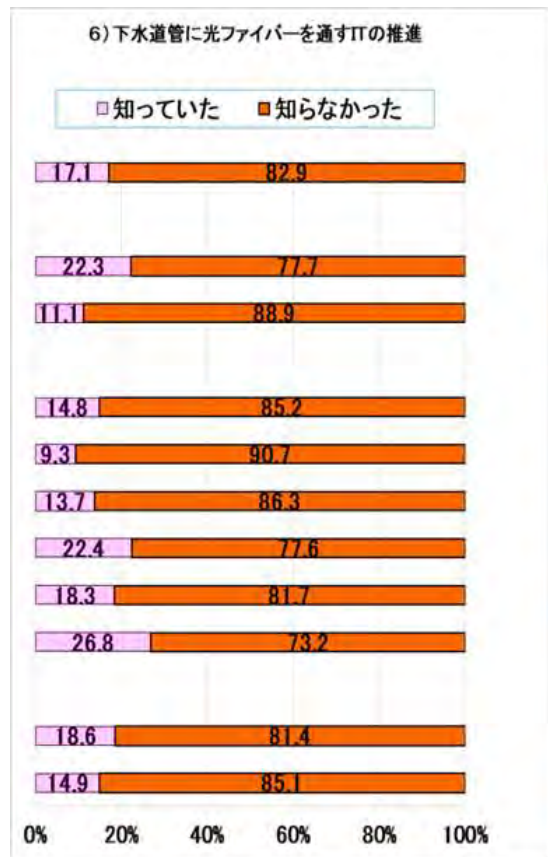
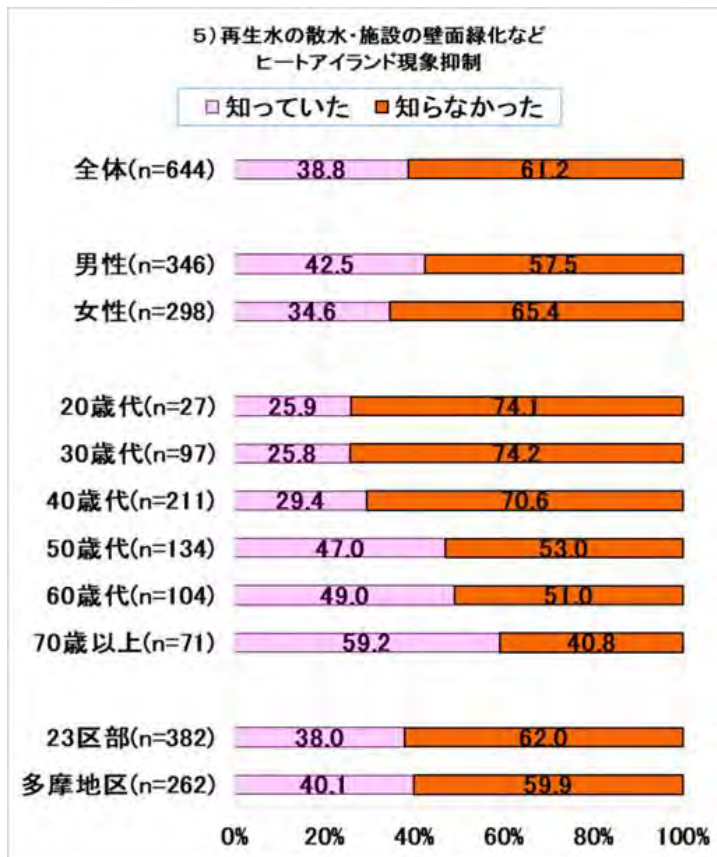


図4-3-1-2 新たな事業活動の認知度（性別・年代別・地区別）

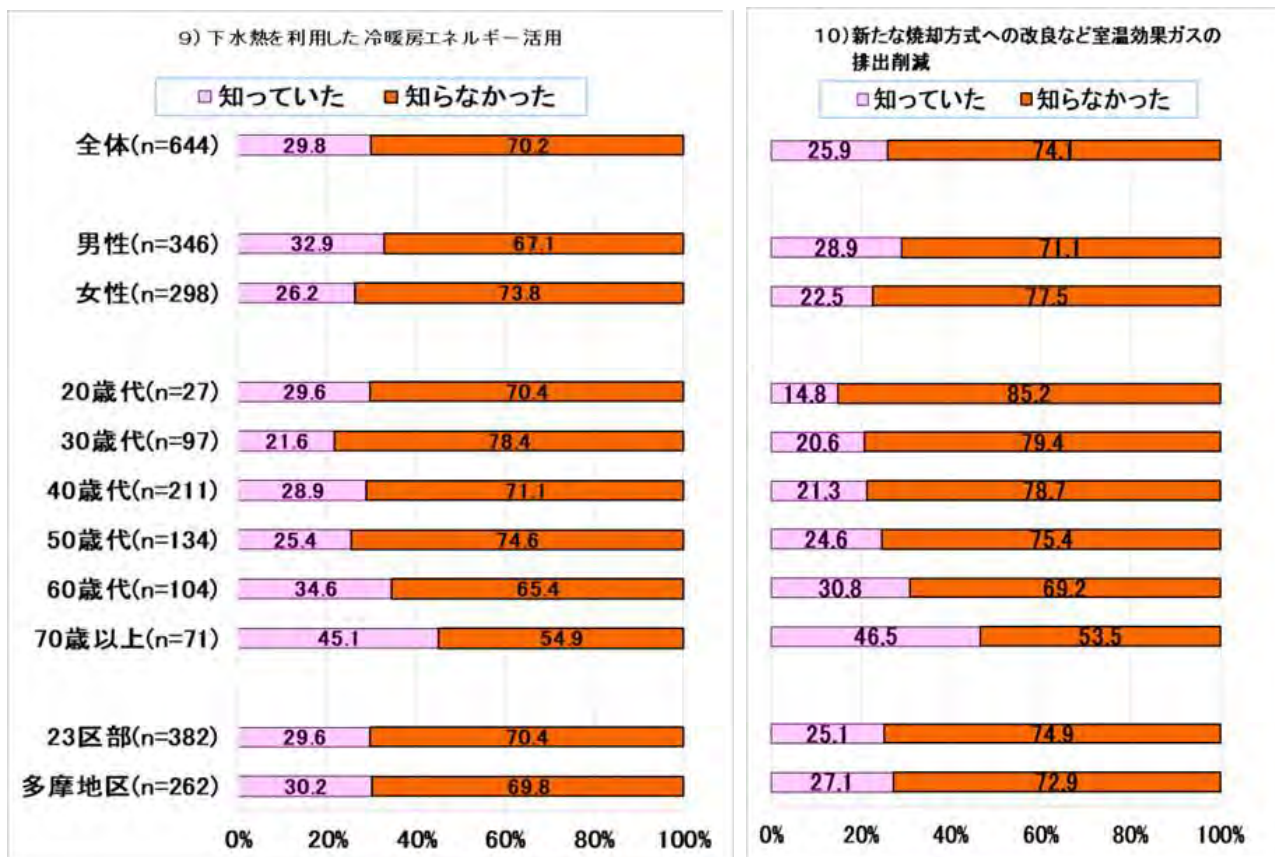


図 4 - 3 - 1 - 2 新たな事業活動の認知度（性別・年代別・地区別）

4.3.2 新たな下水道事業の評価

- ◆ 新たな下水道事業について、「非常に役立っている」と「かなり役立っている」を合わせた『役立っている』は、概ね全ての事業で8割を超える評価をいただいた。中でも「1）きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」は91.6%と最も高く、次いで「2）水再生センターの上部を、区や市が管理する公園として利用」が84.8%となった。一方、「6）下水道管に光ファイバーを通すITの推進」は64.8%と最も低い結果となった。
- ◆ 男女別にみると、『役立っている』は、「2）水再生センター上部を、区や市が管理する公園として利用」、「7）高度処理技術の開発・導入」は女性より男性の割合が高く、他の事業では男性より女性の割合が高くなった。
- ◆ 年代別にみると、『役立っている』の割合は70歳以上が最も高い傾向を示し、特に「2）水再生センターの上部を、区や市が管理する公園として利用」が94.4%と最も高かった。
- ◆ 地区別にみると、『役立っている』の割合の差は「4）再生水を水量が少ない川に流す清流の復活」が最も大きく、23区部が78.8%、多摩地区が84.3%となり、多摩地区が23区部より5.5ポイント高い結果となったが、全般的に多くの事業で23区部と多摩地区の差はほとんどなかった。

Q19 これら東京都下水道局が行っている活動や取組について、日常生活において、どの程度「役立っている」と思われますか？該当する選択肢を一つだけお選びください。（単一回答）

- 1）きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用
- 2）水再生センターの上部を、区や市が管理する公園として利用
- 3）下水汚泥をセメントなどの原料とする資源化への取組
- 4）再生水を水量が少ない川に流す清流の復活
- 5）再生水の散水・施設の壁面緑化などヒートアイランド現象抑制
- 6）下水道管に光ファイバーを通すITの推進
- 7）高度処理技術の開発・導入
- 8）下水道施設の省エネルギー化
- 9）下水熱を利用した冷暖房エネルギー活用
- 10）焼却方式の改良など室温効果ガスの排出削減

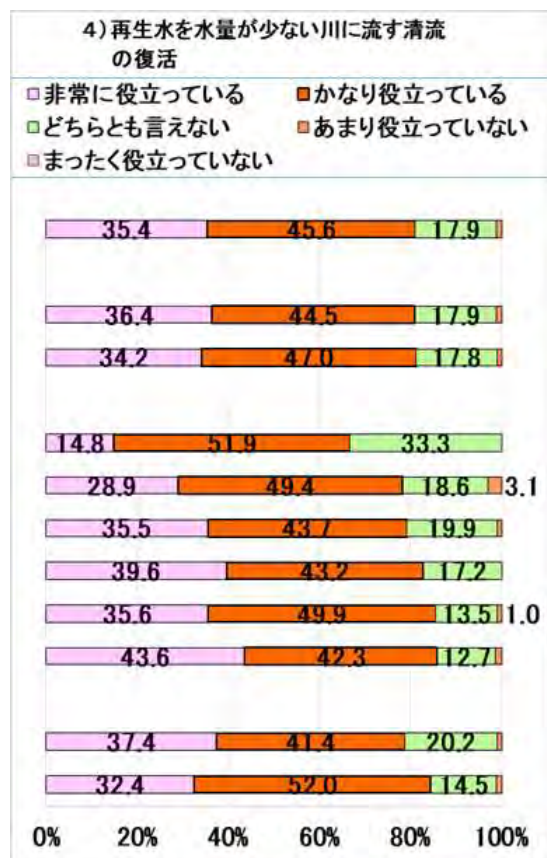
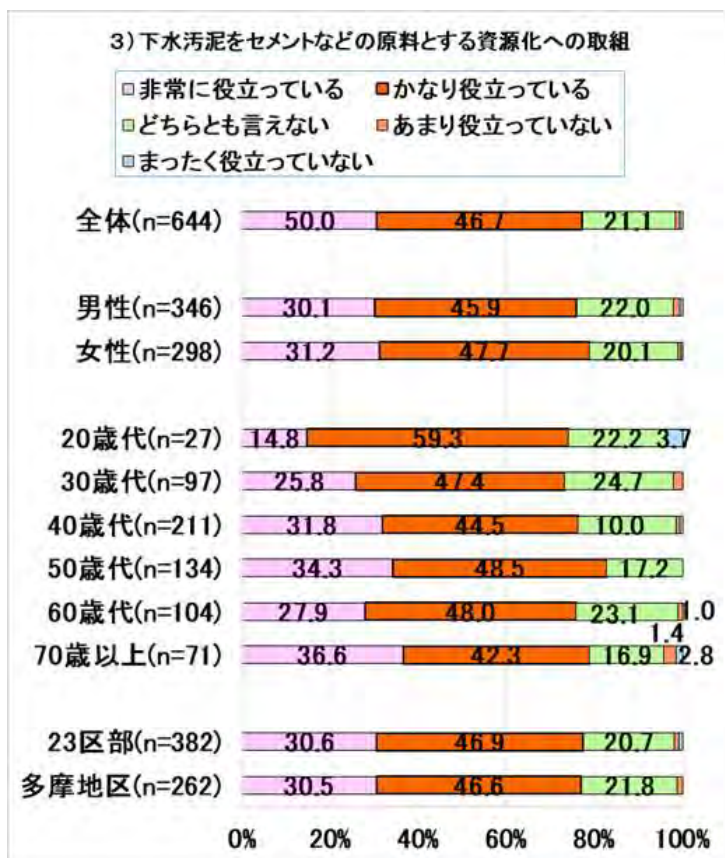
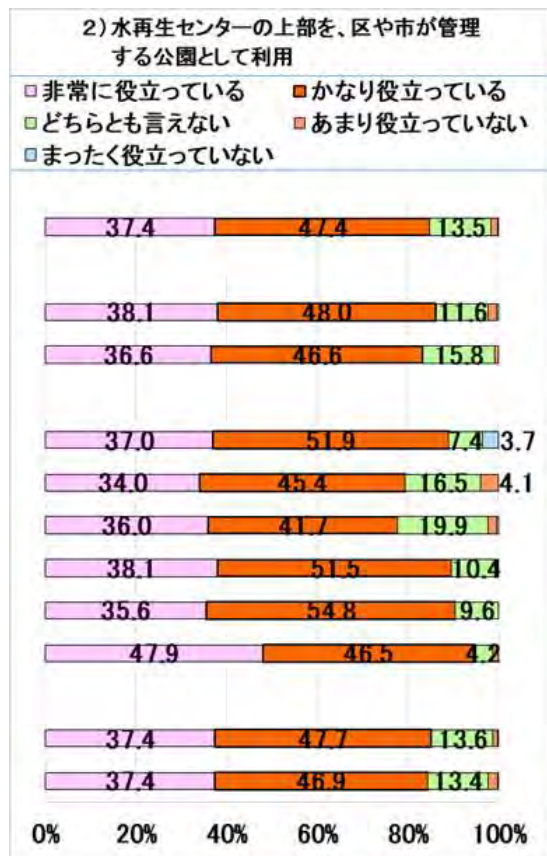
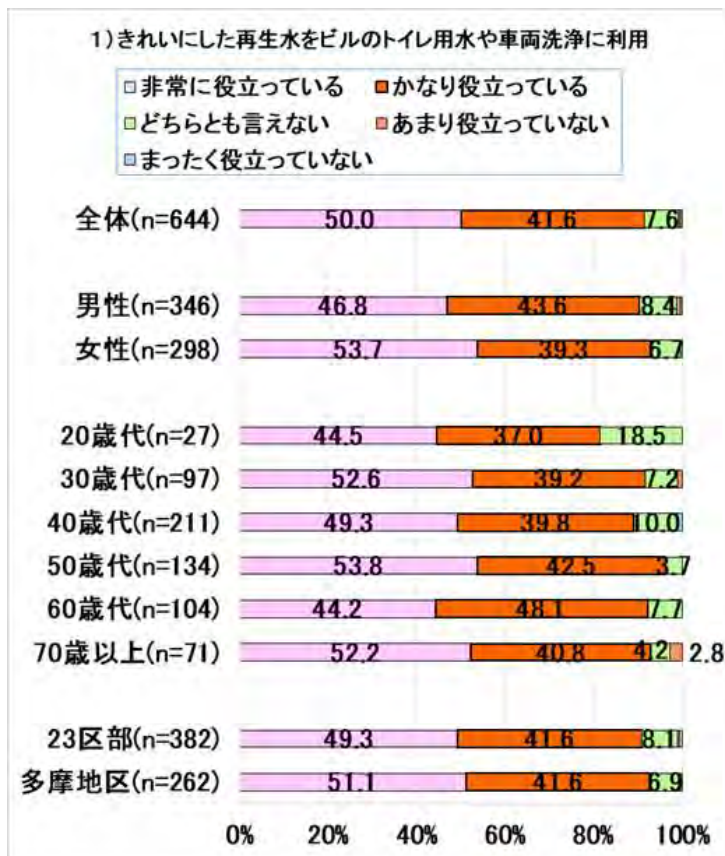


図4-3-2-2 新たな事業活動の社会的貢献度（性別・年代別・地区別）

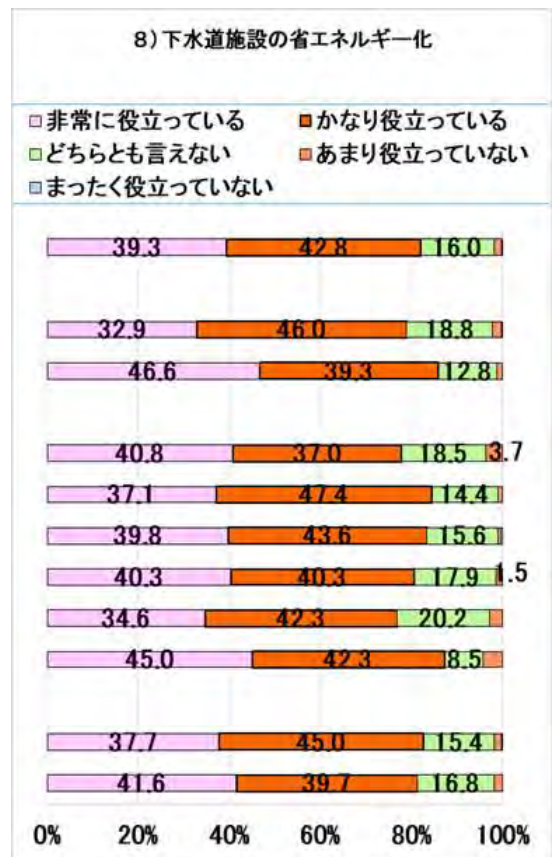
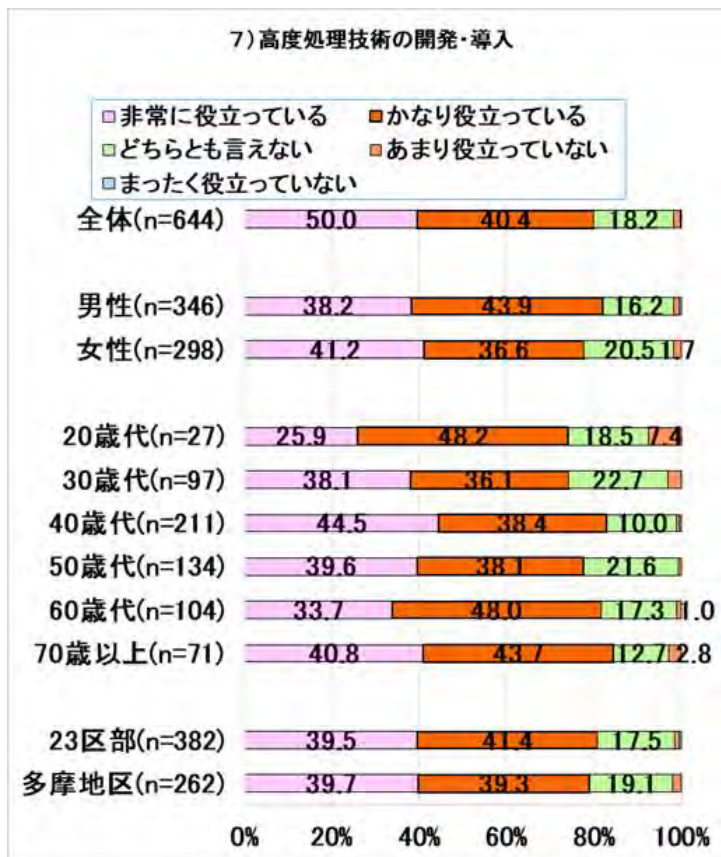
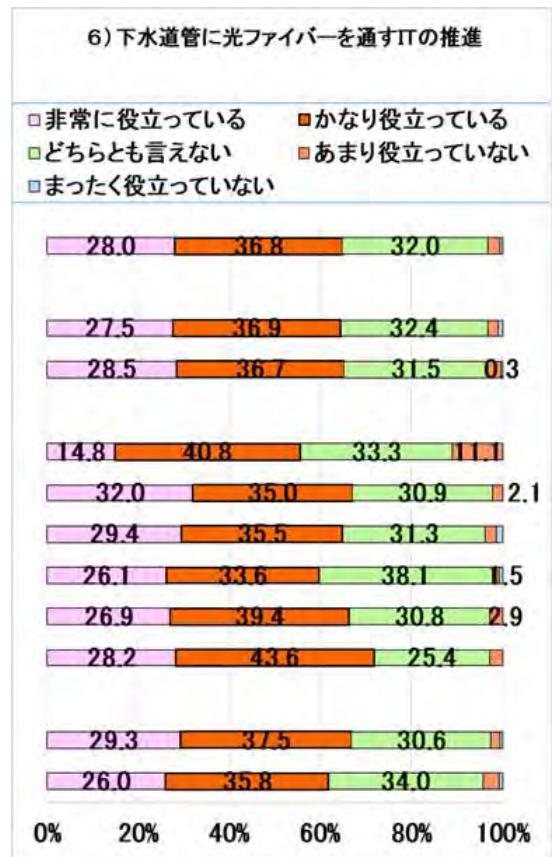
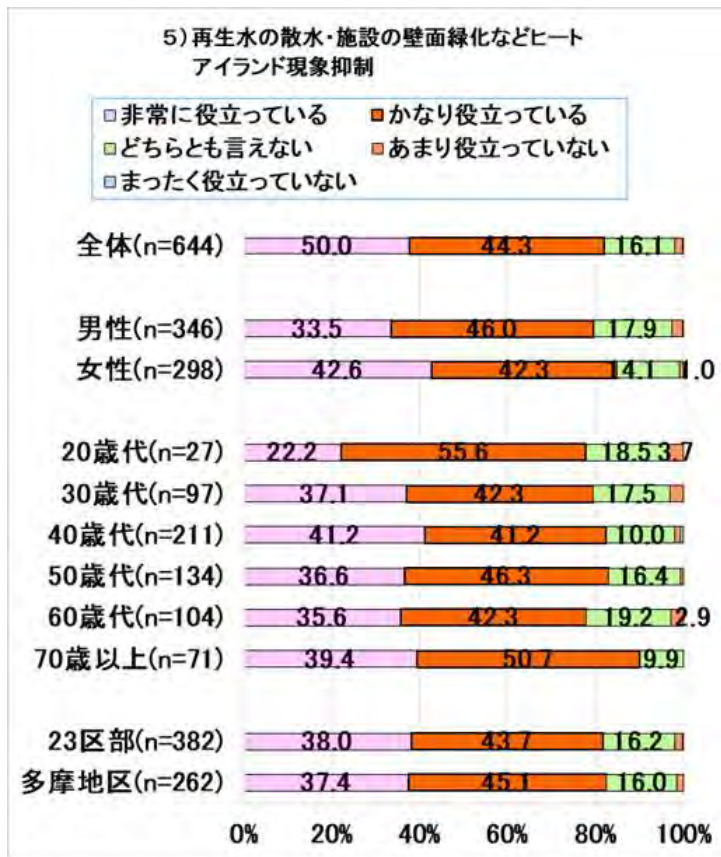


図4-3-2-2 新たな事業活動の社会的貢献度（性別・年代別・地区別）

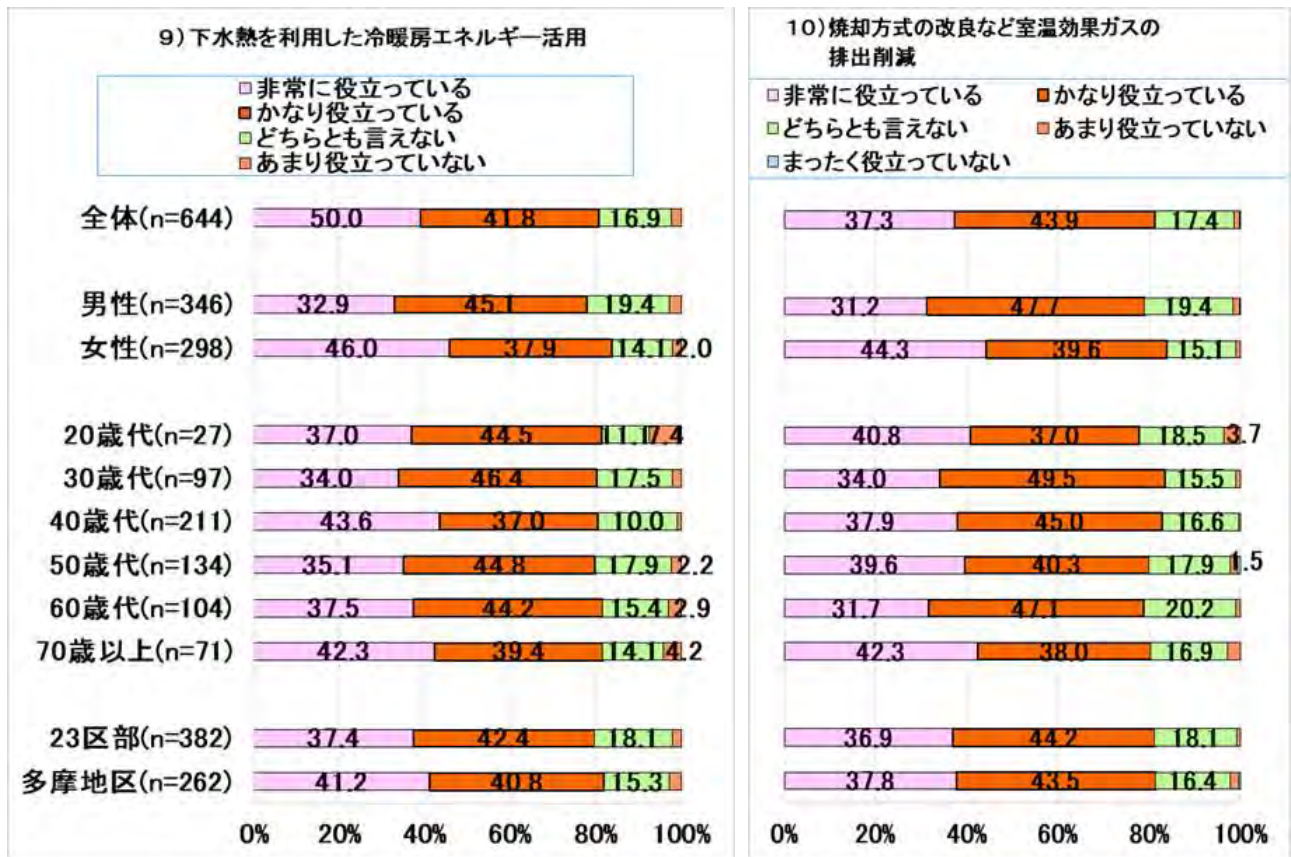


図4-3-2-2 新たな事業活動の社会的貢献度（性別・年代別・地区別）

4.4 東京都下水道局が行っている「見える化」について

4.4.1 「見える化」の認知度

- ◆ 「見える化」の認知度について、「知っていた」は 14.0%となっており、まだ認知は進んでいないことが明らかとなった。
- ◆ 男女別にみると、「知っていた」は男性が 14.7%、女性が 13.1%となり、男性と女性で差は見られなかった。
- ◆ 年代別にみると、「知っていた」は 70 歳以上が 26.8%と最も高く、ついで 20 歳代が 18.5%であった。一方、30 歳代は 9.3%と最も低い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、「知っていた」は 23 区部が 12.6%、多摩地区が 16.0%となり、多摩地区が 23 区部より 3.4 ポイント高い結果となった。

Q20 下水道局では、お客さまに下水道事業への理解を深めていただけるよう、平成29年4月に「東京下水道 見える化マスタープラン」、平成30年3月に「東京下水道 見える化アクションプラン2018」を策定し、東京下水道の役割、課題や魅力を積極的に発信していく「見える化」に取り組んでいます。

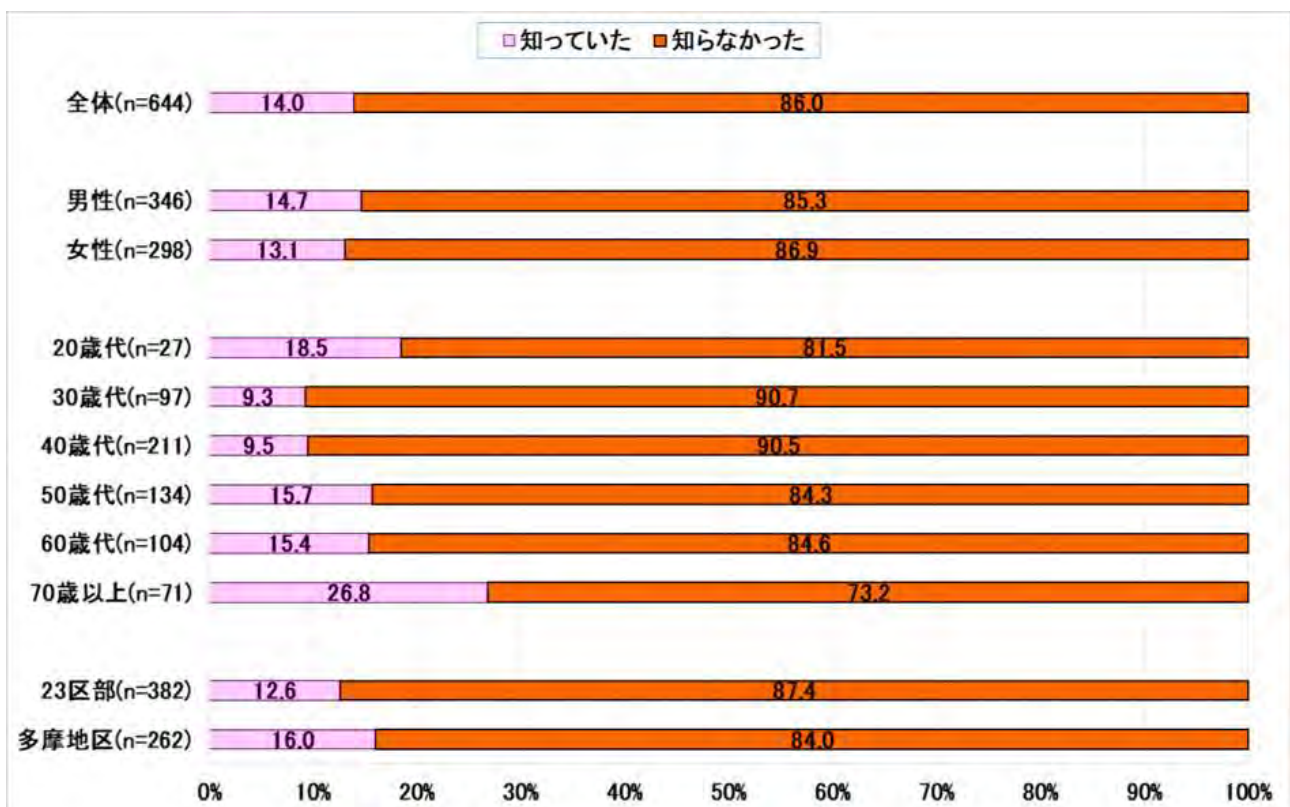


図4-4-1 「見える化」の認知度

4.4.2 「見せる化」の重要度

- ◆ 「見せる化」の重要度について、「非常に重要である」が 39.3%、「かなり重要である」が 46.4%、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせた「重要である」でみると 85.7%となり、「見せる化」は重要な施策であると考え方が多いことが明らかとなった。
- ◆ 男女別にみると、男性では「非常に重要である」が 39.9%、「かなり重要である」が 46.5%、両者を合わせた「重要である」が 86.4%となった。一方、女性では「非常に重要である」が 38.6%、「かなり重要である」が 46.4%、両者を合わせた「重要である」が 85.0%となり、男性と女性で差は見られなかった。
- ◆ 年代別にみると、「非常に重要である」では 70 歳以上が 59.2%と最も高く、次いで 50 歳代の 43.3%、60 歳代の 37.5%、40 歳代の 37.4%となり、年代の上昇とともに「見せる化」施策を重要と考える方が多くなる傾向が見られた。
- ◆ 地区別にみると、「重要である」の割合は 23 区部が 85.9%、多摩地区が 85.5%となり、23 区部が多摩地区で顕著な差は見られなかった。

Q 2 1 上記の質問でおうかがいした、「見せる化」の取組をあなたは、どう思いますか？（単一回答）

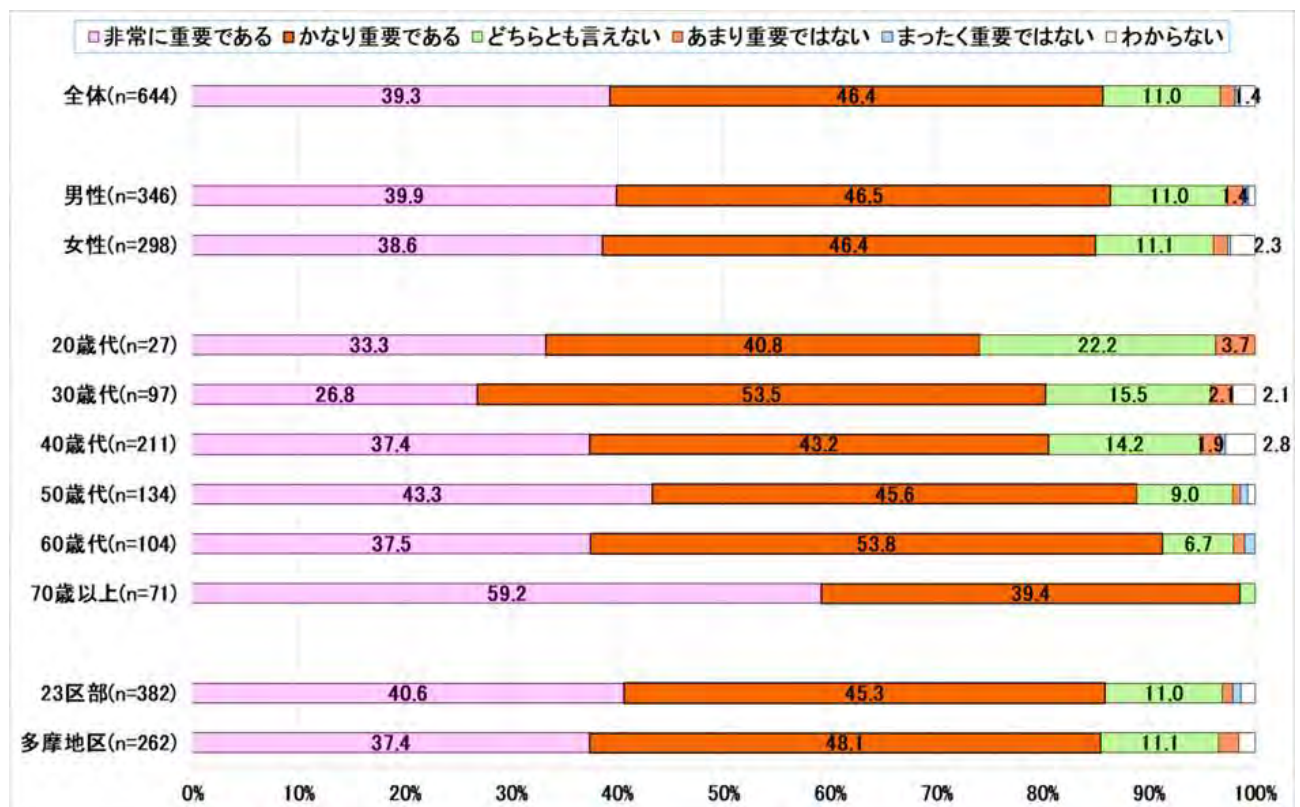


図 4-4-2 「見せる化」の重要度

4.5 下水道局が行っている活動や取組について

4.5.1 下水道局が行っている活動や取組の浸透度

- ◆ 下水道局が行っている活動や取組の情報について、「あまり得ていない」が45.5%、「ほとんど得ていない」が19.6%で、両者を合わせた「情報を得ていない」の回答率は65.1%となり、多くの方に情報が伝わっていない実情が明らかとなった。
- ◆ 男女別にみると、「あまり得ていない」では男性が47.1%、女性が43.6%、「ほとんど得ていない」では男性が13.6%、女性が26.5%、両者を合わせた「情報を得ていない」の回答率は男性が60.7%、女性が70.2%となり、男性に比べ女性の方が情報を得られていない状況が明らかとなった。
- ◆ 年代別にみると、「ある程度得ている」では70歳以上が47.8%で最も高く、次いで60歳代が43.3%となった。一方30歳代は、15.5%と最も低い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、「ある程度得ている」では23区部が34.6%、多摩地区が32.1%と23区部と多摩地区で顕著な違いは見られなかった。

Q. 22 あなたは東京都下水道局が行っている活動や取組についてどの程度情報を得ていると思いますか？
(単一回答)

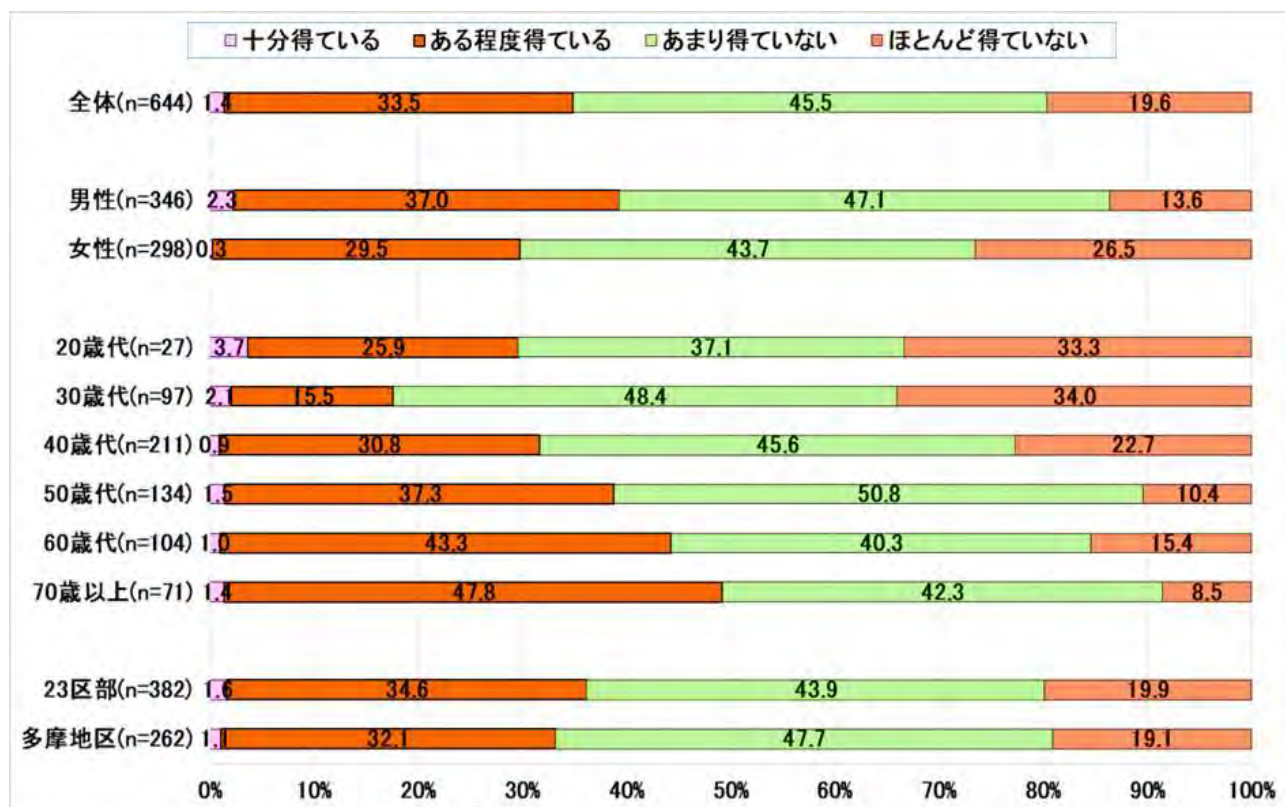


図4-5-1 下水道局が行っている活動や取組についての情報収集

4.5.2 下水道局が行っている活動や取組への満足度

- ◆ 下水道局が行っている活動や取組への満足度について、「やや満足している」が38.4%と最も高く、「満足している」と合わせて53.0%が満足しているという結果となった。
- ◆ 男女別にみると、「やや満足している」では男性が39.0%、女性が37.9%で、男性と女性の差は1.1ポイント、「満足している」では男性が13.6%、女性が15.8%で、男性と女性の差は2.2ポイントとなり、男性と女性で顕著な差は見られなかった。
- ◆ 年代別にみると、70歳以上で満足度が高い傾向を示し、「満足している」が22.5%と全年代で最も高い結果となった。一方、30歳代では「満足している」が9.3%「やや満足している」が34.0%で、両者を合わせた割合は43.3%が最も低い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、「満足している」では多摩地区が15.6%、23区部が13.9%で、その差は1.7ポイント、「やや満足している」では多摩地区が38.6%、23区部が38.5%で、その差は0.1ポイントと、地区による顕著な違いは見られなかった。

Q 2 3 東京都下水道局が実施している活動や取組について、あなたはどのように感じていますか？
(単一回答)

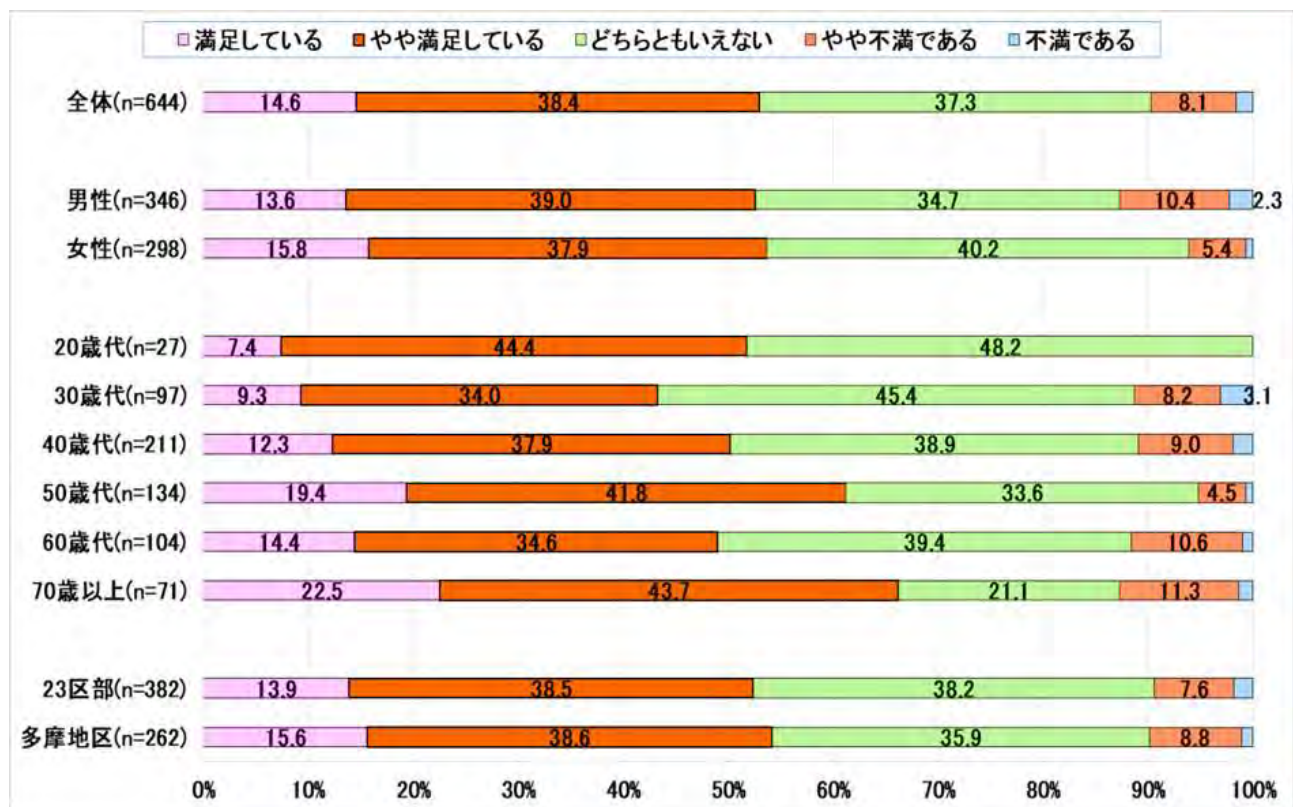


図 4-5-2 下水道局が行っている活動や取組の満足度

4.6 「見せる化」への効果的な取組について

4.6.1 「見せる化」への効果的な取組に関する意見・アイデア

Q 2 4 下水道はその施設の多くが地下にあって“見えにくく”、暮らしに“あって当たり前”のものとなっており、下水道に関心を持っているお客さまの割合は以前と比べて低くなっています。こうしたことから、これまでの「見える化」の取組をより体系的で効果的なものへと深化させ、事業の役割や課題、魅力を積極的に発信する「見せる化」に取り組んでいます。東京下水道についてお客さまに関心を持っていただき、その役割や課題について知っていただくためには、施設見学やホームページなどの既存の取組のほかに、どのような取組が効果的だと思いますか？アイデアやご意見をお答えください。（自由回答）

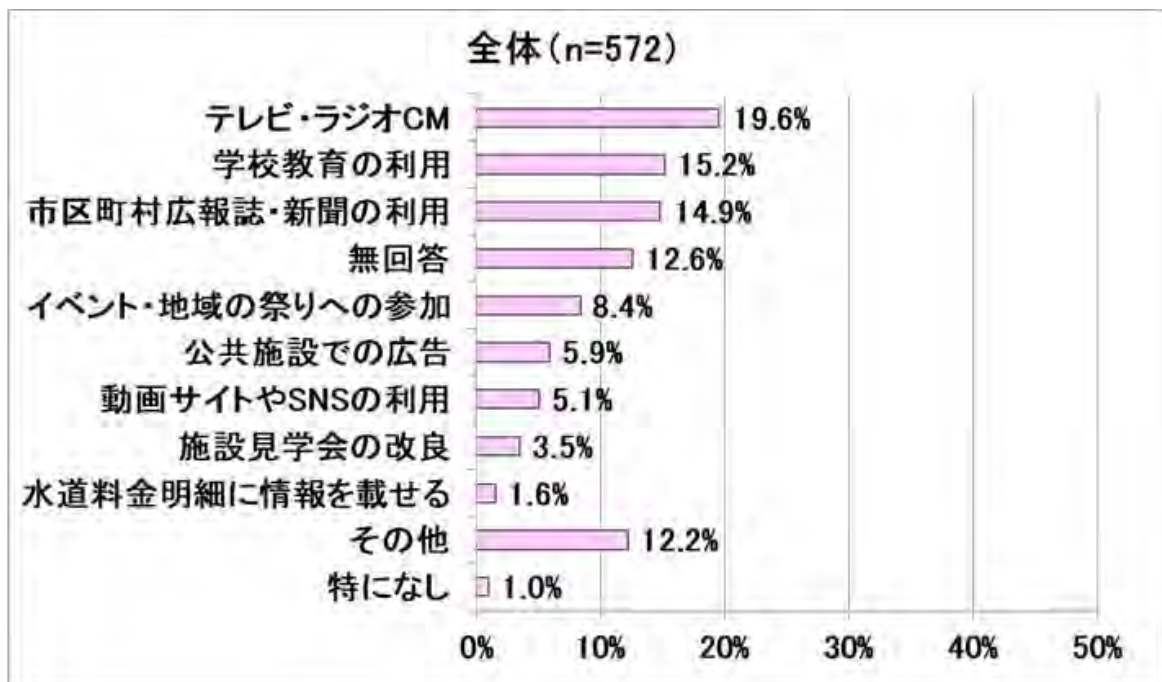


図 4-6-1 「見せる化」への効果的な取組に関する意見・アイデア

【「見せる化」への効果的な取組についての意見・アイデア】

- イベント・地域の祭りへの参加
 - ◇ 施設を使ったイベントなどを実施し、それらをメディアに積極的に露出を行う。
 - ◇ 各種イベントなどでのチラシ等の配布や、汚泥で作られているものの展示。
 - ◇ 何かの催しの際にチラシを配って情報を発信する。
 - ◇ 子供達に先に教える事により家族と一緒に考えてもらい理解を深める。
- 公共施設での広告・宣伝
 - ◇ 電車内の広告。
 - ◇ 市役所等公共施設における展示、PRなどの実施。
 - ◇ 水族館、水産市場、プールなど、水に関わりのある施設に水再生処理事業についてのPRを広く実施して、ここに訪れる人を利害関係者、関心を持ちやすい人と捉えて、この人からその知人に関心が広げられる手段として利用し、効果を拡大する。
 - ◇ 施設における説明会の実施。
- 広報誌など紙媒体での広告
 - ◇ 広報誌などでも重点的な広報・告知を折々に行うこと。
 - ◇ 東京都広報への掲載。
 - ◇ フリーペーパーで特集を組む（新聞でも良いが、読者層が限られてくると思うので）。
 - ◇ 施設見学やホームページは関心のある人しか見に行かないので、市の広報等に定期的に取り組み状況を掲載したら良いと思います。
- 学校教育の一貫にする
 - ◇ 学校教育にも取り入れたらいいのではないかな？社会とか道徳とかに。
 - ◇ 小学校などの見学必須化。
 - ◇ 保育園、幼稚園、小・中学校で、積極的に施設見学をしたり、学ぶ機会を与え子供のうちから問題提起をしていく。
 - ◇ 担当職員が小学校、中学校等に出向き積極的にPRしたらよいと思います。
- テレビ・ラジオでの宣伝
 - ◇ 新聞、TV、雑誌等のメディアへの積極的な情報発信。SNSを使った情報発信への取組。
 - ◇ TVバラエティー番組やクイズ番組に取り組み技術やその実例および効果（可能な限り投資対効果）を公表する一方で、都民の意識改革・知恵により治水や環境対策に効果が上がることを繰り返し発信する。
 - ◇ 映画・ドラマロケへの積極的な協力。
 - ◇ 下水道の問題点をテレビで時々放映し、問題点を解決できない場合にはどうなるのか知らせるようにする。
- SNSや動画サイトでのPR
 - ◇ 施設のしぐみを動画で配信。
 - ◇ SNSを使ったプレゼントキャンペーンやCM（InstagramやTwitterなどで、ハッシュタグを付けてプレゼントキャンペーンなど）。
 - ◇ Twitterのフォロワー数を増やす。

➤ 水道料金の請求書と同封する

- ◇ 水道、下水道使用量等のお知らせの空きスペースに豆知識などちょっとした読み物を載せる。
- ◇ 検針時にチラシを入れる。
- ◇ 広報東京都などで、毎号コーナーを作って、もっと知らせてもらいたい。

➤ 見学会

- ◇ 施設見学の日程をもっと増やす。
- ◇ 下水施設の工事現場の常時公開。施設見学は、日程制限、人数制限があるイメージがあります。
- ◇ 施設見学に加え、下水道をもっと知ってもらうための街歩きの企画（例えば河川を暗渠化した下水道幹線をめぐり、過去の河川の遺構を探す街歩き等）下水道のこれまでの歴史を辿る企画を行っても面白いかと思います。

➤ その他

- ◇ 地下にあって見えないものについて知ってもらうのは難しいので、地上にあるものだけでも知ってもらうようにアピールしないといけない。
- ◇ 見える化の意図は理解するが、目的は対応がどのようになされているか、あるいはどのようにしようとしているかにあると思う。それが見える化でどのように実現されているか？その点も併せて教えていただきたい。
- ◇ 下水道の負荷低減を一般の人に啓蒙する活動を積極的に行うべき。流せば済むとの考えを改めるようにする。

4.7 東京アメッシュについて

4.7.1 「東京アメッシュ」の認知度

- ◆ 「東京アメッシュ」について、「知っている（利用している・利用したことがある）」は 36.4%、「知っている（利用したことはない）」は 17.2%で、両者を合わせた「知っている」は 53.6%の認知度であった。
- ◆ 男女別にみると、「知っている」では男性が 60.4%、女性が 45.6%と、男性が女性より 14.8 ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「知っている」では 50 歳代が 67.2%と最も高く、ついで 70 歳以上が 56.3%となっており、20 歳代が 33.3%と最も低い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、「知っている」では 23 区部が 55.5%、多摩地区が 50.7%と、23 区部が多摩地区より 4.8 ポイント高い結果となった。

Q 2 5 あなたは「東京アメッシュ」について、ご存知でしたか？以下の選択肢の中から、該当するもの一つだけお選び下さい。（単一回答）

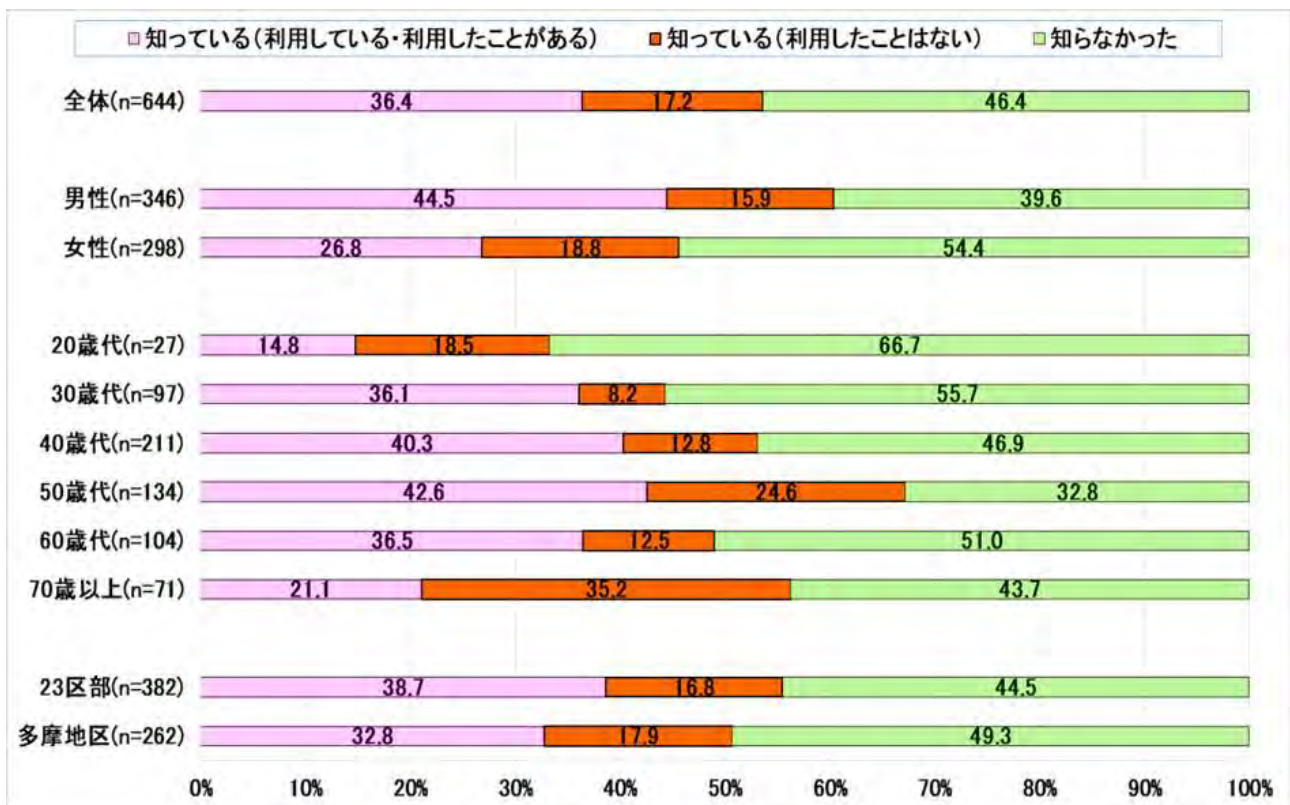


図 4-7-1 「東京アメッシュ」の認知度

4.7.2 「東京アメッシュ」の利用媒体

- ◆ 「東京アメッシュ」を「利用している・利用したことがある」方（全体数 234 名）の利用媒体は、「パソコン」が最も多く 82.1%（192 名）、次いで「スマートフォン」が 55.1%（129 名）、「タブレット」は 12.4%（29 名）となった。
- ◆ 男女別にみると、男性、女性ともに利用媒体は同様な傾向を示し、「パソコン」、「スマートフォン」、「タブレット」の順で高い割合となった。
- ◆ 年代別にみると、全般的に「パソコン」の利用が多い結果となったが、30 歳代では「パソコン」と「スマートフォン」の割合が同程度であり、30 歳代では「スマートフォン」の利用度が高いことが明らかとなった。
- ◆ 地区別にみると、多摩地区に比べ 23 区部の方が、「パソコン」と「スマートフォン」を区別なく使用している傾向が見受けられた。

Q25-1（1）上記Q25で、「1」を選択した方におうかがいします。

あなたは、「東京アメッシュ」を利用する際、何を使用してご覧になっていますか？

以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選び下さい。（複数回答）

（※表は、Q25で知っている（利用している・利用したことがある）と回答しているものからの割合）

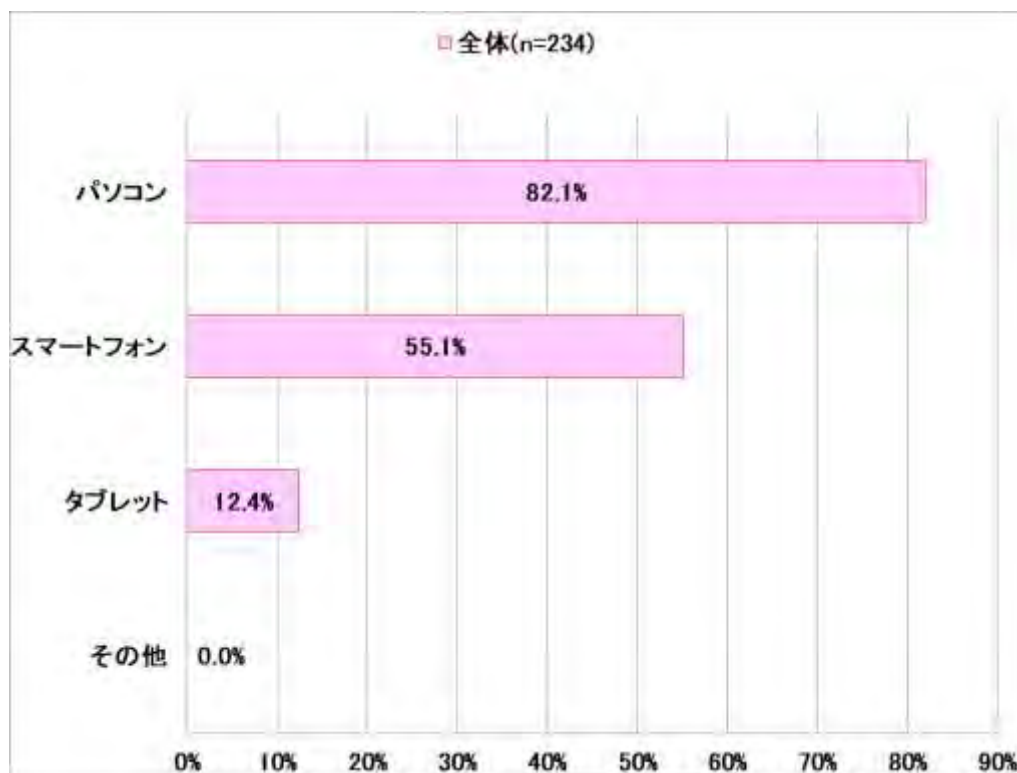


図4-7-2-1 「東京アメッシュ」の利用媒体（全体）
（利用している・利用したことがある）

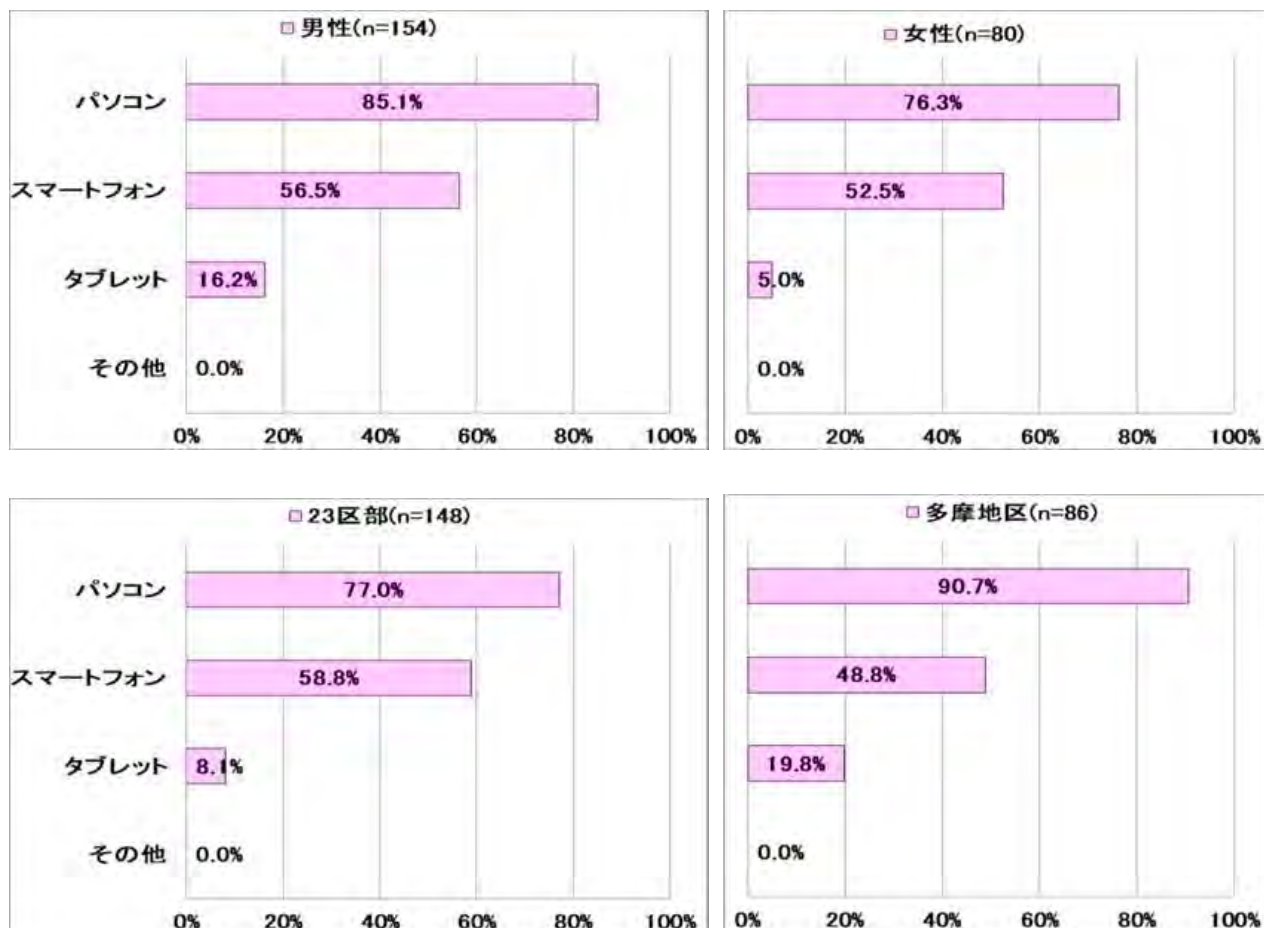


図 4-7-2-2 「東京アメッシュ」の利用媒体（性別・地域別）

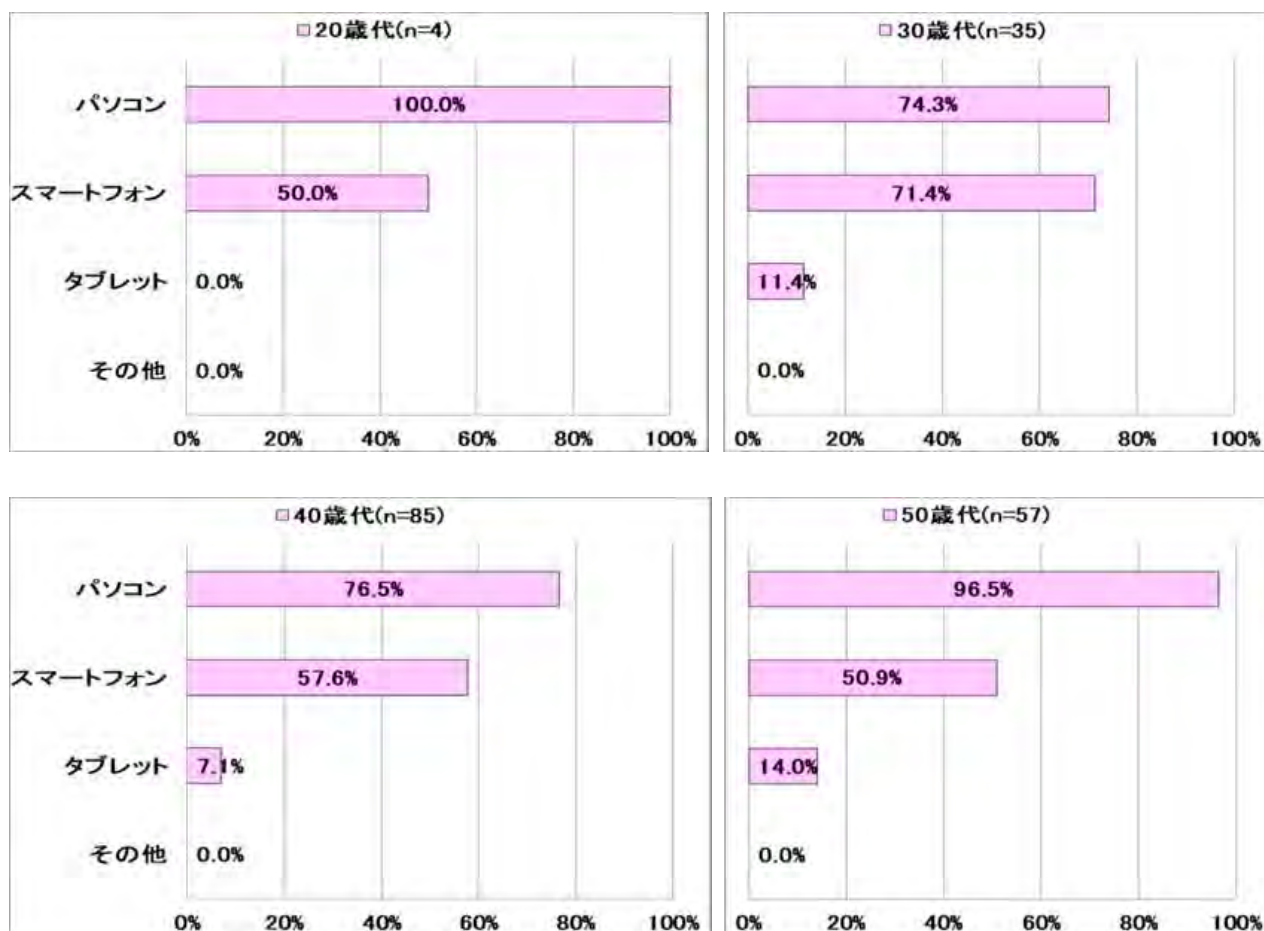


図 4-7-2-3 「東京アメッシュ」の利用媒体（年代別）

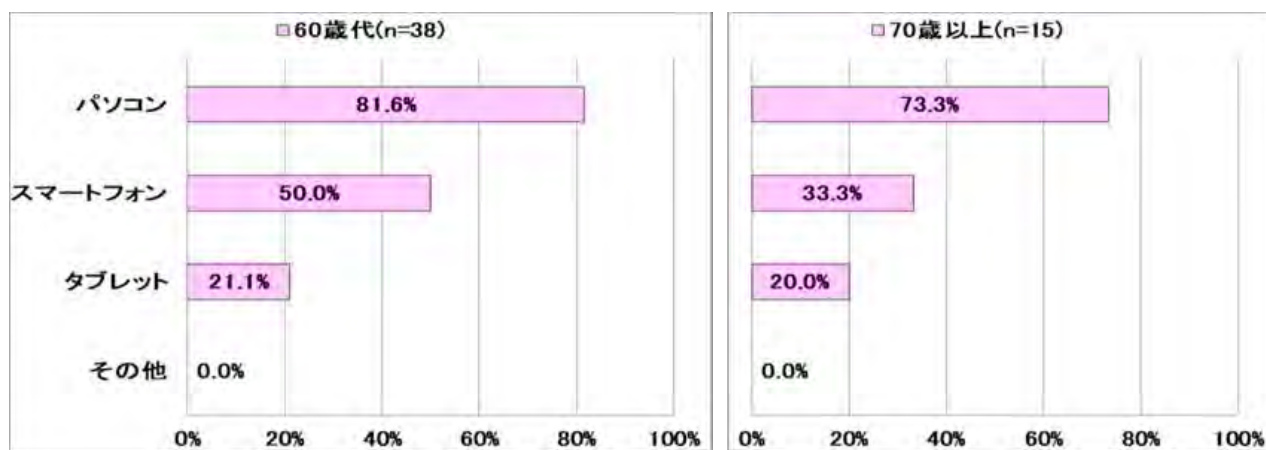


図4－7－2－3 「東京アメッシュ」の利用媒体（年代別）

4.7.3 「東京アメッシュ」の利用に際してのアクセス方法

- ◆ 「東京アメッシュ」を「利用している・利用したことがある」方（全体数 234 名）の利用に際してのアクセス方法について、「お気に入りやホーム画面に登録して利用」が最も多く 65.4%（153 名）、次いで「東京アメッシュ」と検索して利用」が 39.7%（93 名）、「その他」が 3.4%（8 名）となった。
- ◆ 男女別にみると、利用方法に差が見られ、男性では「お気に入りやホーム画面に登録して利用」される方が多い結果となったが、女性では、利用の都度、「東京アメッシュ」と検索して利用」される方が多く、その割合は、「お気に入りやホーム画面に登録して利用」方とほぼ同等であった。
- ◆ 年代別にみると、利用方法に差が見られ、40 歳代以上では「お気に入りやホーム画面に登録して利用」の割合が高かったが、20 歳代、30 歳代では「東京アメッシュ」と検索して利用」される方の割合の方が高い結果となった。
- ◆ 地区別にみると、「お気に入りやホーム画面に登録して利用」、「東京アメッシュ」と検索して利用」とともに 23 区部と多摩地区の間で顕著な違いは見られなかった。

Q25-1（2）「東京アメッシュ」を利用する際、どのようにアクセスして利用していますか？

以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選び下さい。（複数回答）

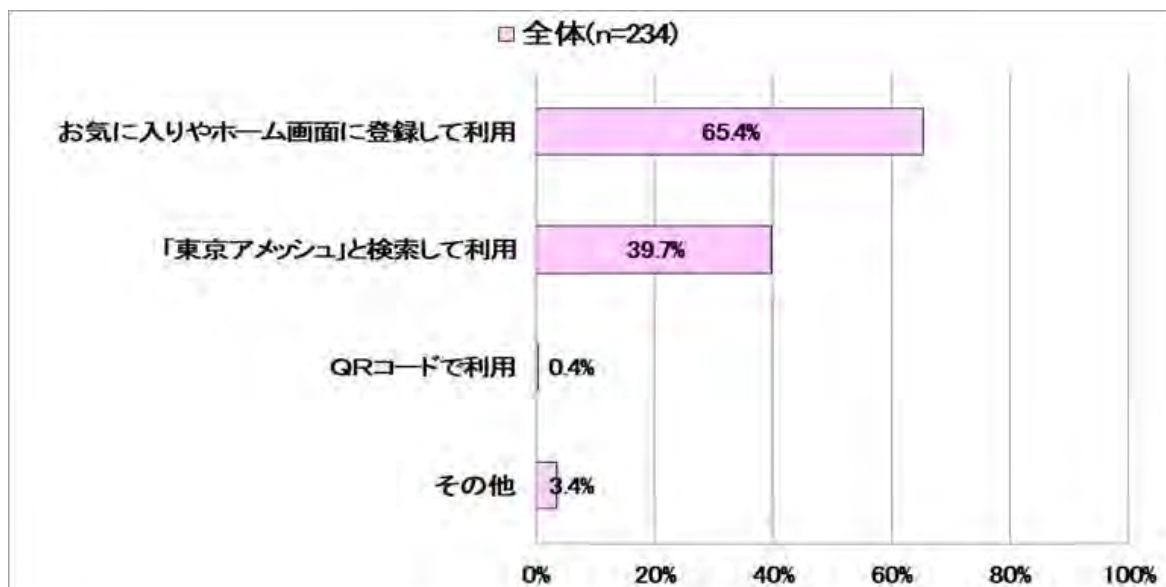


図 4-7-3-1 「東京アメッシュ」のアクセス方法（全体）

表 4-7-3 その他のアクセス方法

No	その他(記入例)
1	ヤフー天気から
2	アメッシュ
3	集中豪雨など、異常気象になった場合にいろいろな情報をGoogleで検索する中のひとつ。
4	なんとなく検索でひっかかったときに見る
5	スマホは東京アメッシュログというアプリを利用
6	昔はアプリで利用していたが、アプリが更新されなくなってからは類似のアプリを利用するようになった。
7	お知らせサイトからのメール
8	「天気」で検索
計	8件

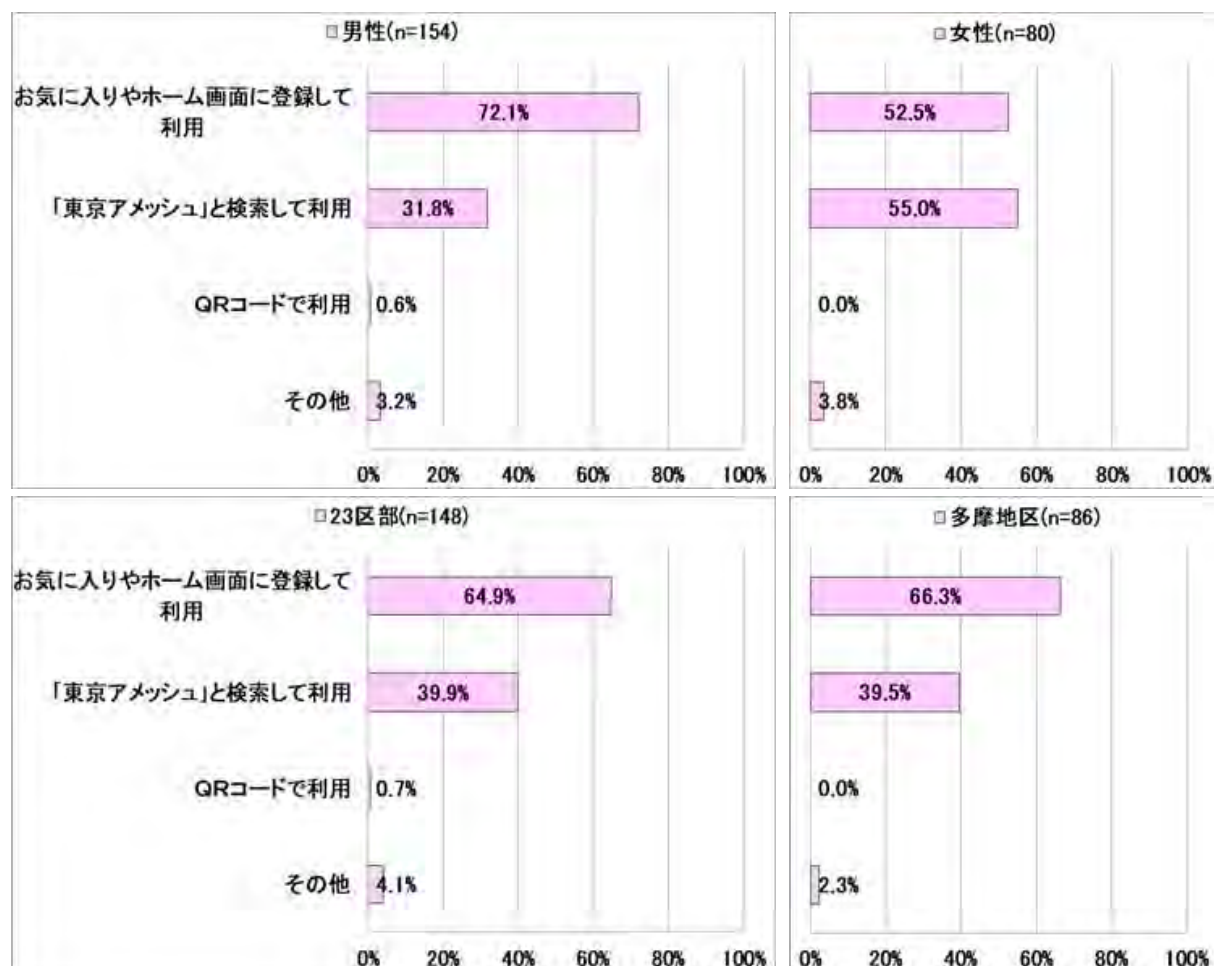
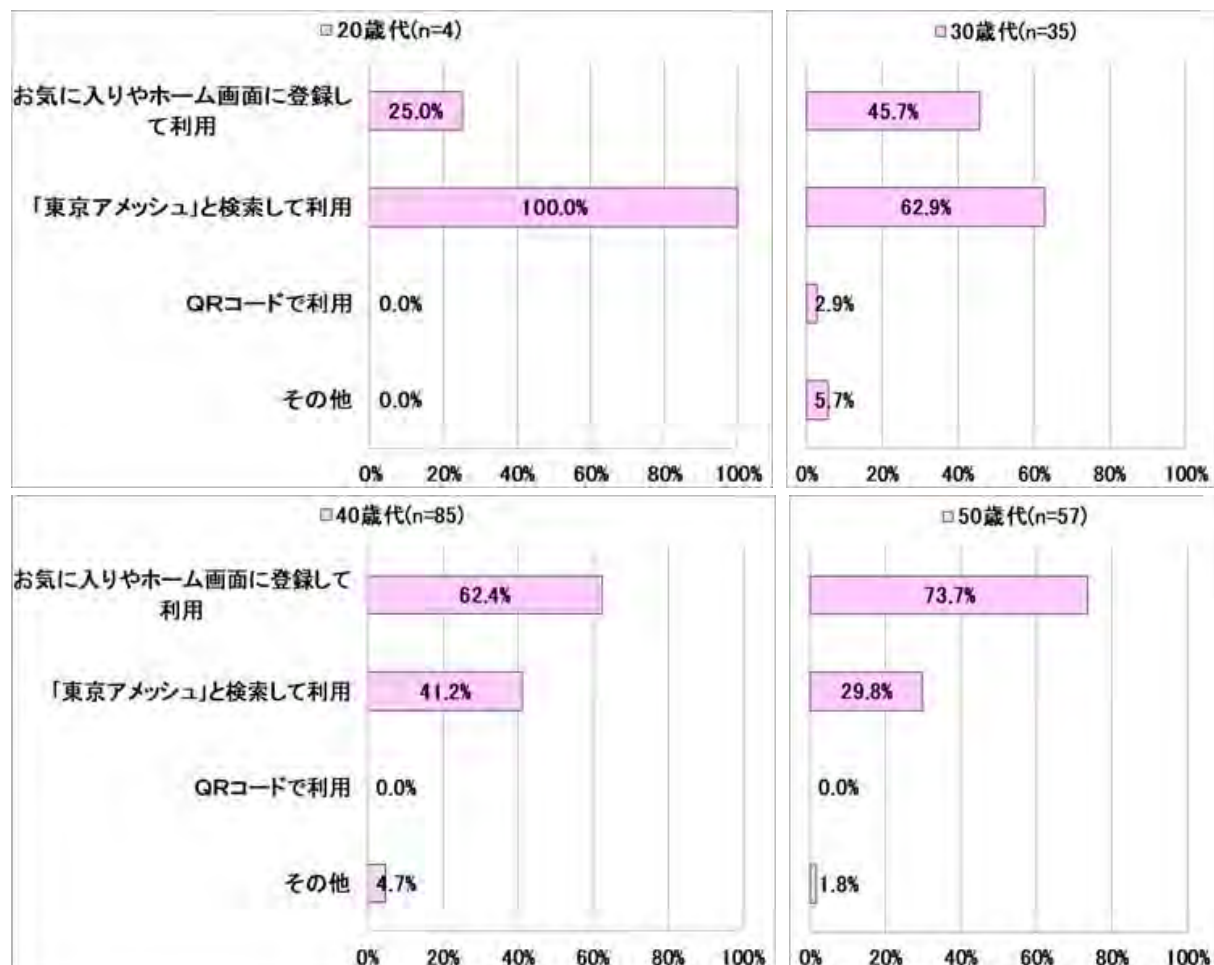


図 4-7-3-2 「東京アメッシュ」へのアクセス方法（性別・地域別）



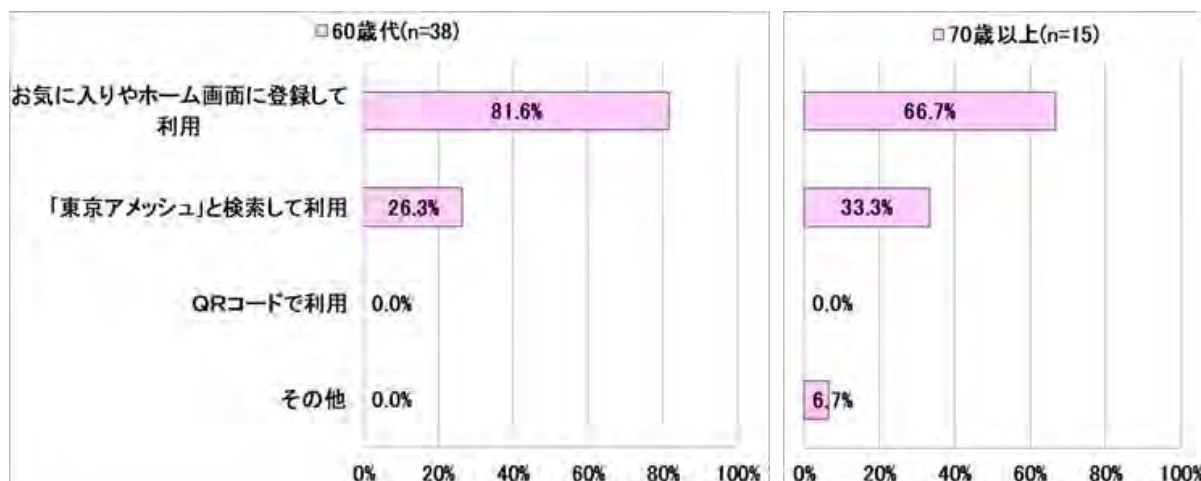


図 4-7-3-3 「東京アメッシュ」へのアクセス方法（年代別）

4.7.4 「東京アメッシュ」の利用方法

- ◆ 「東京アメッシュ」の利用方法について、「お出掛けの時」が 73.1%と最も高く、次いで「通勤や通学時」が 59.4%、「洗濯物や布団を干す時や取込む時」が 37.2%となった。
- ◆ 男女別にみると、男性、女性ともに利用方法の上位は、「お出掛けの時」、「通勤や通学時」、「洗濯物や布団を干す時や取込む時」であったが、女性に比べ男性では、「工事や仕事など屋外作業の準備」や「野球やキャンプ等の屋外活動の中止の判断」といった屋外での作業時に利用される傾向が見られた。
- ◆ 年代別にみると、どの年代も「お出掛けの時」の利用が多い傾向が見られた。
- ◆ 地区別にみると、23 区部と多摩地区は同様な傾向を示したが、多摩地区は 23 区部に比べ、「お出掛け」時や「屋外作業・屋外活動」時の利用が多い傾向が見られた。

Q 2 5-1 上記 Q 2 5 で、「1」を選択した方におうかがいします。

（3）どのような時に「東京アメッシュ」を利用していますか？以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選び下さい。（複数回答）



図 4-7-4-1 「東京アメッシュ」の利用方法

表 4-7-4 その他の利用方法

No	その他(記入例)	件数
1	急な天候の変化や、大雨情報などが発表されたとき	11
2	趣味のテニス	2
3	釣行時	1
4	奥多摩登山	1
5	都外からの旅行や出張者へ参考情報として提供	1
6	犬の散歩	1
7	災害に対する準備	1
8	職場から、自宅にいる子どもの屋外習い事の時の開催判断の参考に利用しています。	1
9	町会のパトロール隊で巡回する前に。	1
10	水害の予防用(IIに自宅が面しているため)	1
11	家族の通勤時(勤務地あたりがよく道路冠水するため大雨のチェックが欠かせないから)	1
12	工作中、帰る前の確認	1
13	今降ってる雨がどのぐらいで上がりそうか知るため	1
14	東京アメッシュがあるのを知りアクセスしたが、その後継続利用に至っていません。	1
15	様々な状況で見てる	1
計		26件

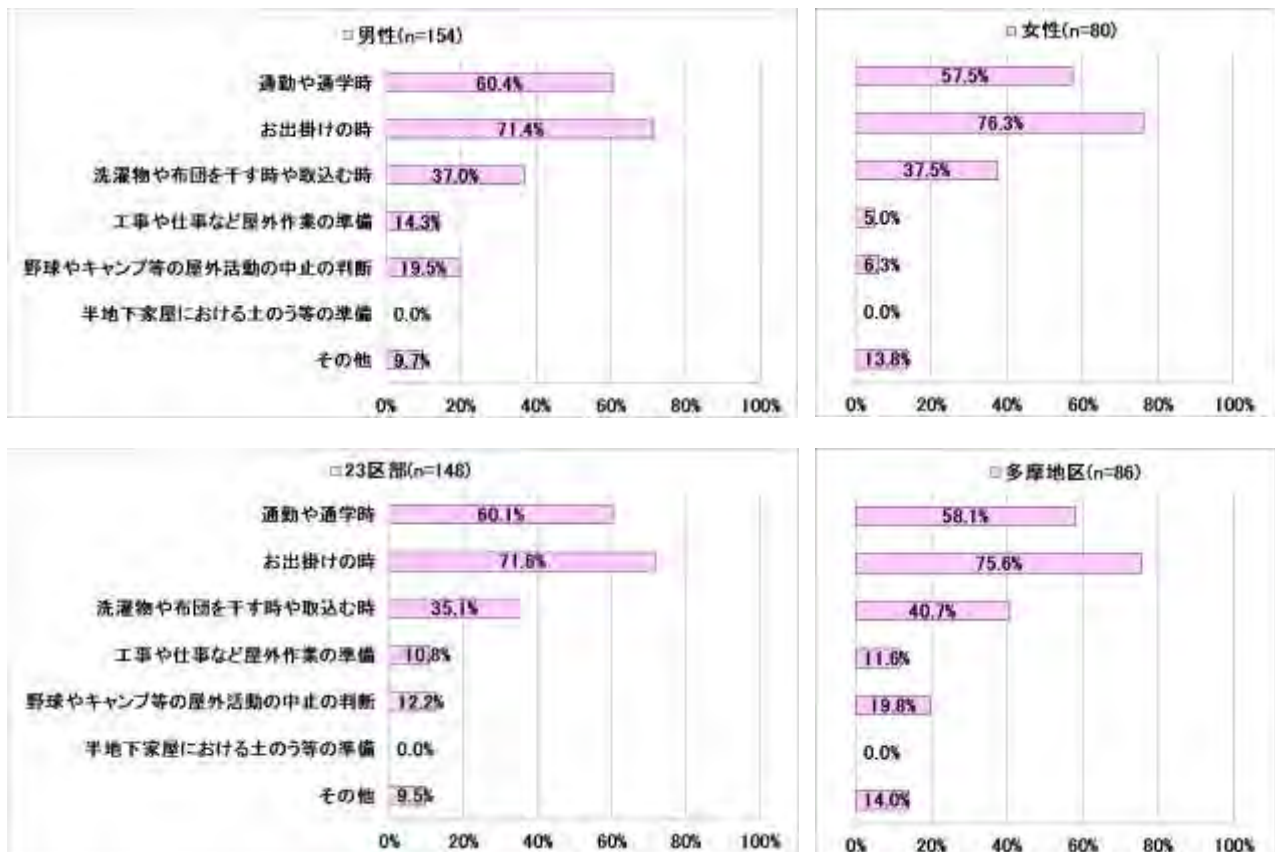


図 4-7-4-2 「東京アメッシュ」の利用方法（性別・地域別）

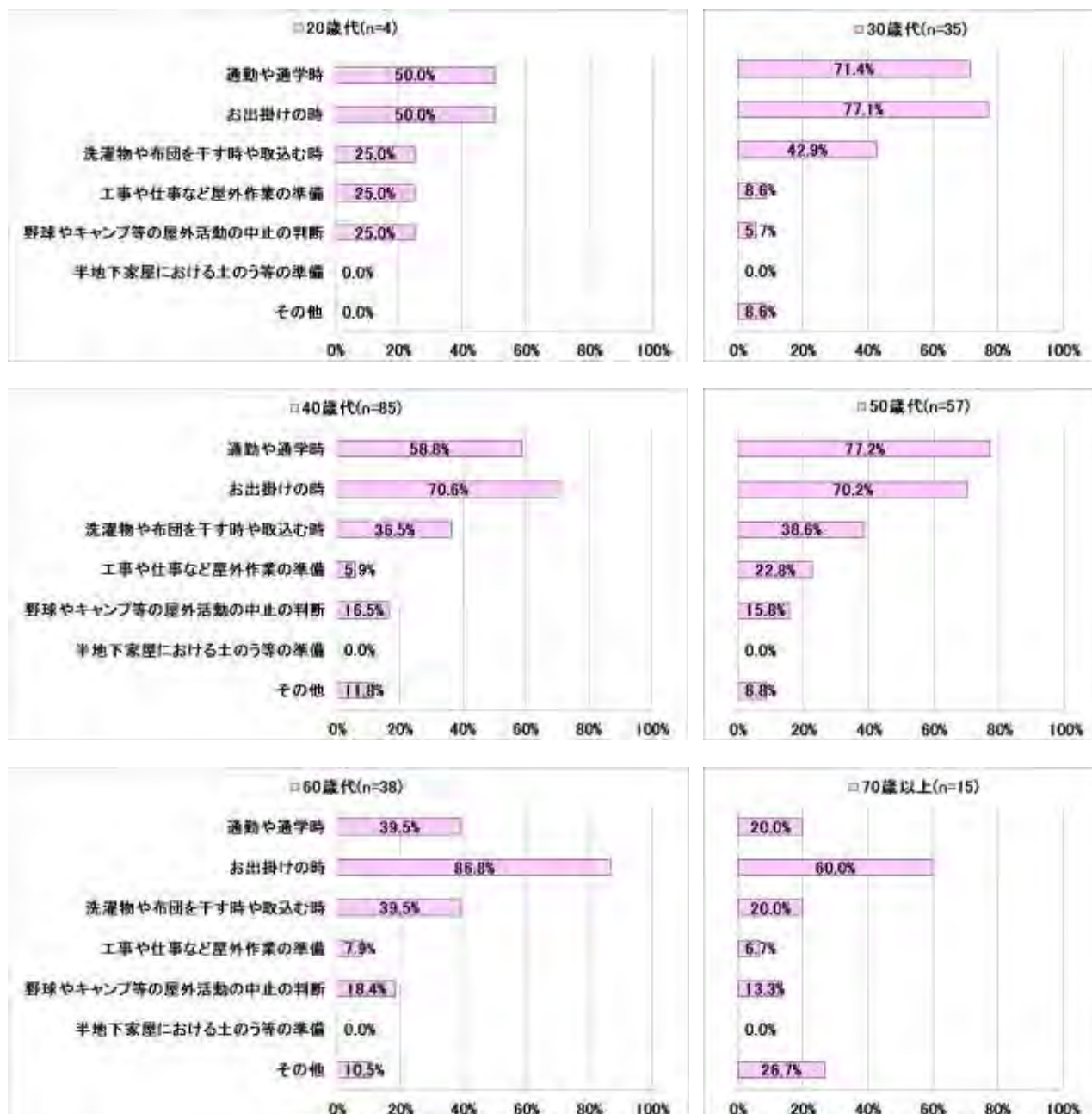


図 4-7-4-2 「東京アメッシュ」の利用方法（年代別）

4.7.5 「東京アメッシュ」以外に利用している降雨情報

- ◆ 「東京アメッシュ」以外に利用している降雨情報について、「利用していない」との回答が 34.9%と最も多かった。「東京アメッシュ」以外では、「防災速報」が 8.5%と最も多く、次いで「気象庁：高解像度降水ナウキャスト/ レーダーナウキャスト」が 7.0%、「雨マップ」が 5.3%となった。
- ◆ 男女別、地区別にみても、「東京アメッシュ」以外に利用している降雨情報について、顕著な違いは見られなかった。
- ◆ 年代別にみると、「防災速報」では 40 歳代が 9.0%、「気象庁：高解像度降水ナウキャスト/ レーダーナウキャスト」では 70 歳代以上が 11.3%と最も多い結果となった。

Q25-2 上記Q25で「2」及び「3」を選択した方におうかがいとお知らせをします。

- (1)「東京アメッシュ」以外に利用している降雨情報はありますか？以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選びください。(複数回答)

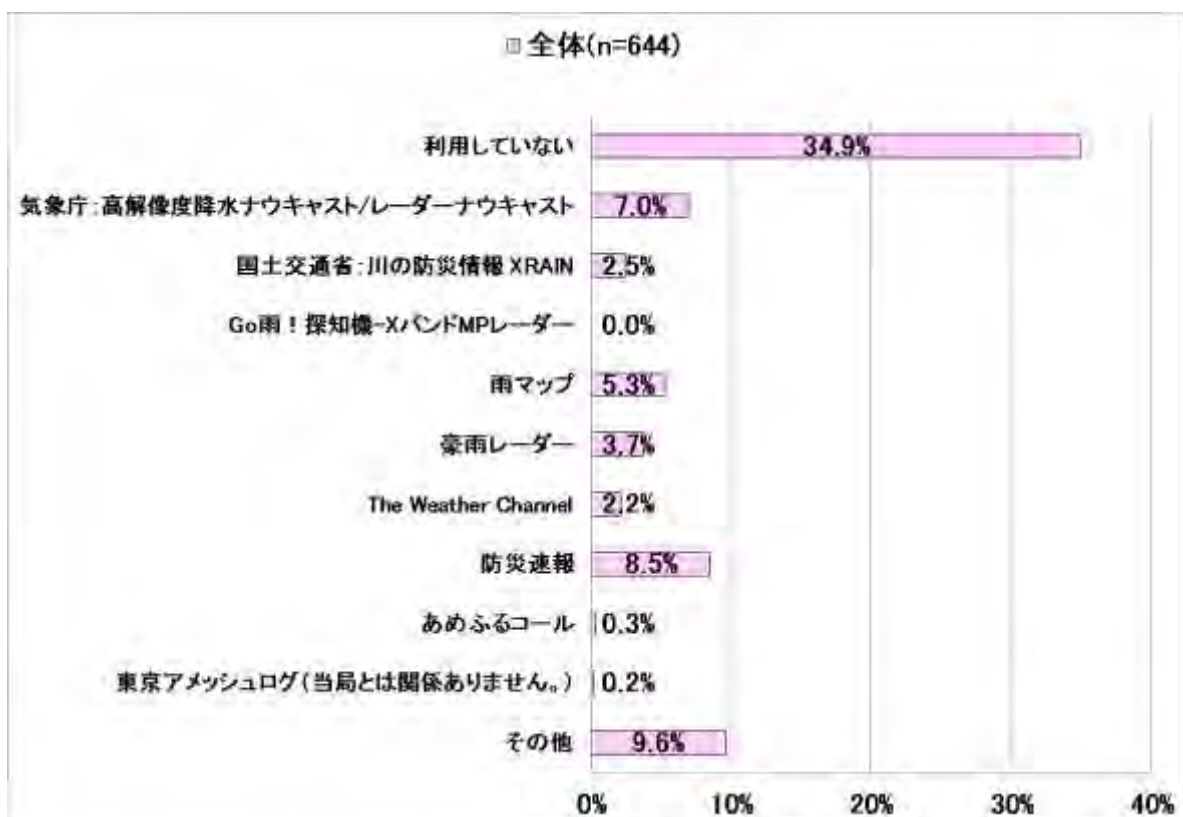


図4-7-5-1 「東京アメッシュ」以外に利用している降雨情報（全体）

表 4-7-5 「アメッシュ東京」以外に利用している降雨情報

No	その他(記入例)	件数
1	Yahoo!天気	30
2	テレビの天気予報	9
3	ウェザーニューズ	5
4	ラジオ	2
5	テレビのデータ放送	3
6	防災情報メール	2
7	「東京 天気」とグーグル検索した時にグーグルページ上に表示される天気情報	1
8	NHK防災アプリ	1
9	RainCast	1
10	TEPCO雨量雷観測情報	1
11	docomo アイコンシェル	1
12	らくらく天気	1
13	東京電力 降雨・雷情報	1
14	天気XL	1
15	天気予報サイト	1
16	Googleで自宅近くの天気予報を見る	1
17	雨アプリ	1
計		62件

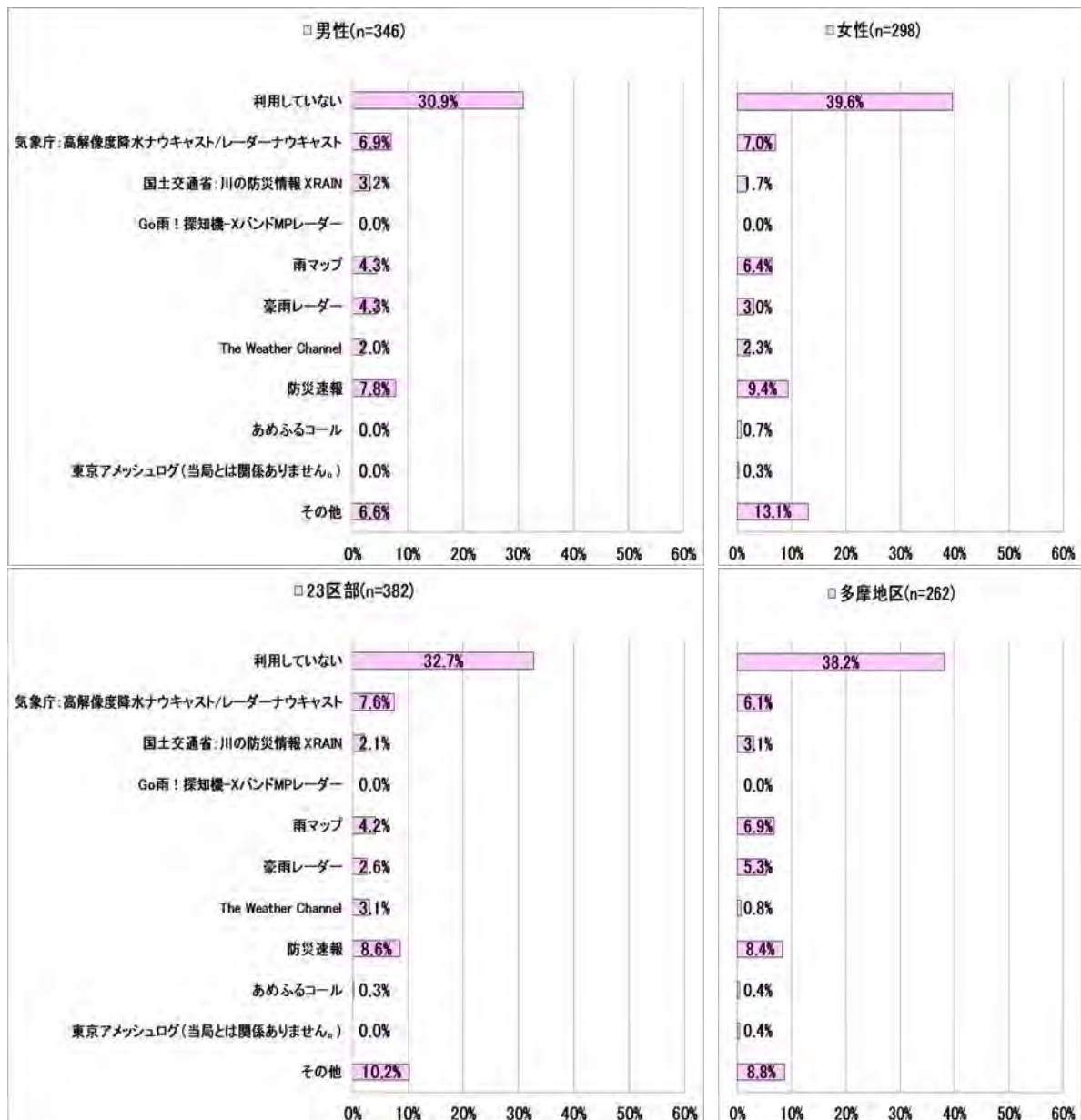




図 4-7-5-2 「東京アメッシュ」以外に利用している降雨情報（性別・地区別）

4.8 下水道事業の評価基準

4.8.1 下水道事業を評価する基準

- ◆ 下水道事業を評価する基準について、「公共性」が 82.8%と最も高く、次いで「災害リスク対応度」が 72.2%、「環境貢献度」が 71.6%となった。
- ◆ 男女別にみると、下水道事業を評価する基準は、男性、女性ともに「公共性」、「災害リスク対応度」、「環境貢献度」が高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、年代が上がるとともに「公共性」、「災害リスク対応度」、「環境貢献度」に顕著な差が見られなくなり、「経済性」に比べ、これら 3 つの要因の重要性は増していることが示唆された。
- ◆ 地区別にみると、23 区部では、「公共性」に次ぐ評価基準は、「災害リスク対応度」、「環境貢献度」の順となったが、多摩地区では、「環境貢献度」、「災害リスク対応度」の順となり、地域により評価基準の傾向に若干の違いが見られた。

Q 2 6 あなたが下水道事業を評価する基準で重視しているのは、どのようなことですか？以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選びください。（複数回答）



図 4-8-1-1 下水道事業を評価する基準（全体）

表 4-8-1 評価する基準（その他）

No	その他(記入例)
1	下水管は地下に配置され、また災害は予想が難しいことから、経済性は仕方がないと考えています
2	水資源活用
3	情報公開・PR
4	事業内容の公開・利用者からの意見の聴取など、事業体としての公平性
5	都合の悪い情報も含めどのくらい情報を正しく詳細に発信しているか
6	保健衛生面に貢献する。
7	民間の力の活用、これまで蓄積した技術、ノウハウ等からの収入増加
8	下水道従事者への健康対策
9	利用者の満足度
10	必要性の提起と計画、実施状況、様々な角度からの評価
11	日本国民の為の生活向上に寄与すること
計	11件

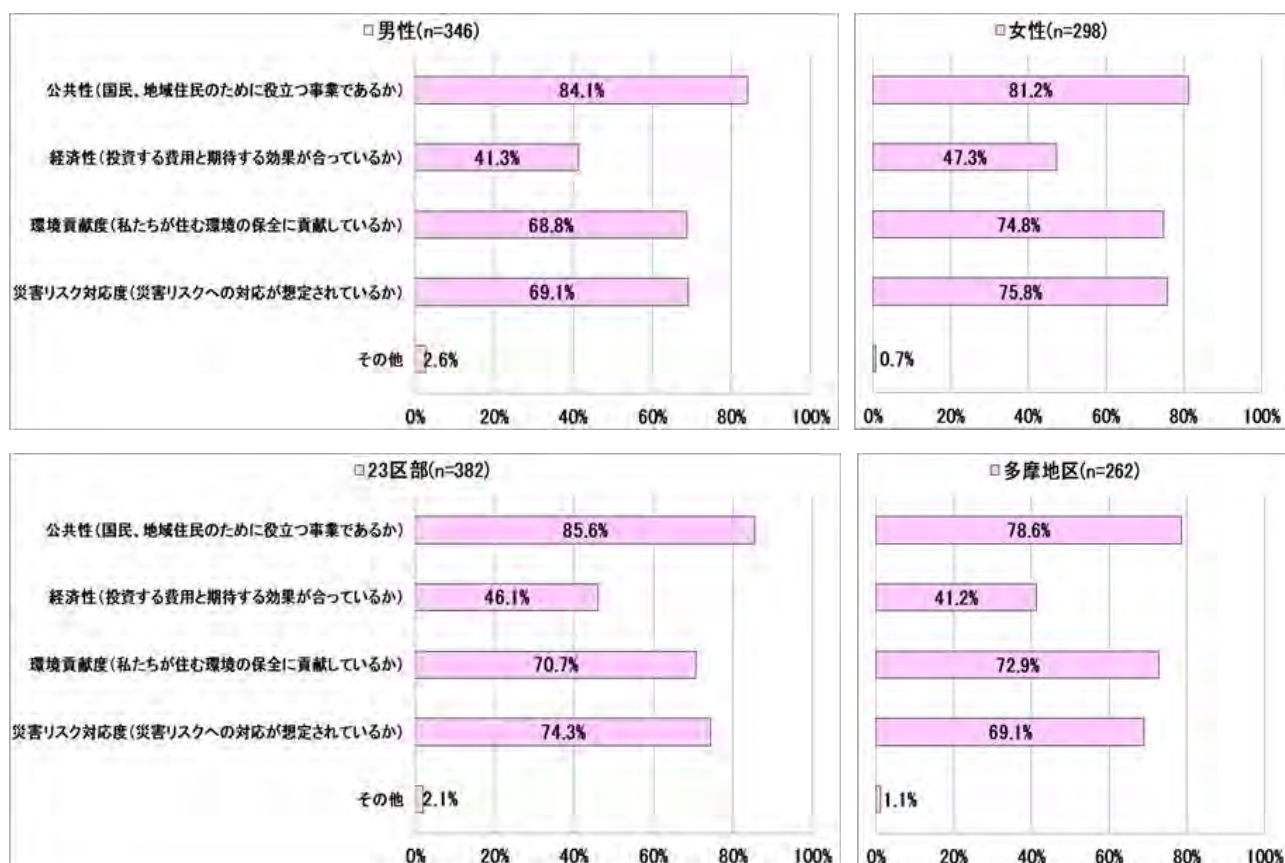


図 4-8-1-2 下水道事業を評価する基準（性別・地区別）



図 4-8-1-3 下水道事業を評価する基準（年代別）

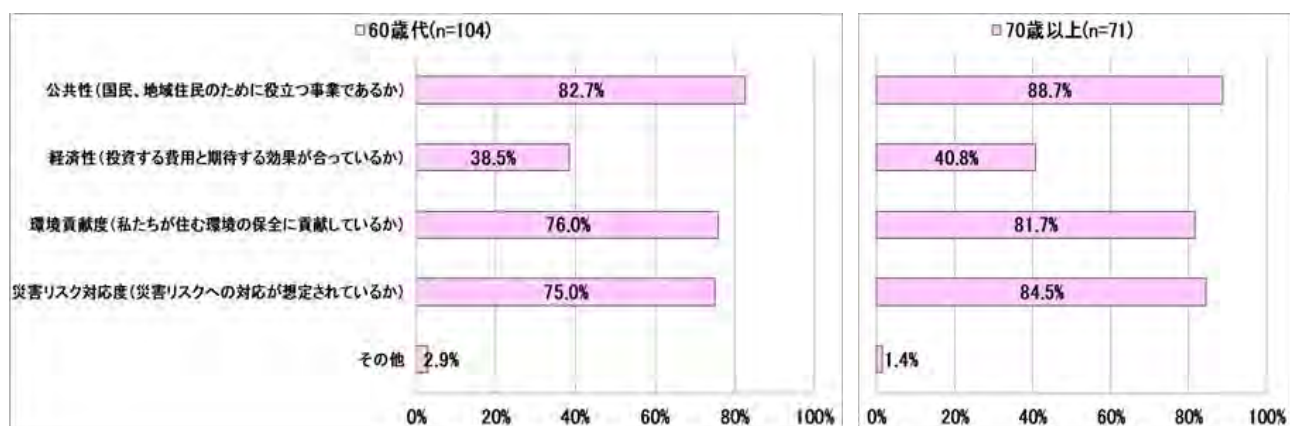


図 4-8-1-3 下水道事業を評価する基準（年代別）

4.9 下水道事業に関するニーズ(下水道事業に関して知りたいと思うこと)

- ◆ 下水道に関して知りたいと思うことは、「下水道の働きや役割」が 66.8%と最も高く、次いで「下水道料金の内訳と使い道」が 53.4%、「下水道の事業計画・進捗状況」が 53.3%となった。
- ◆ 男女別にみると、男性と女性では若干の違いが見られ、「下水道の事業計画・進捗状況」、「下水道料金の内訳と使い道」の順であった男性に対し、女性では「下水道料金の内訳と使い道」の方が高い割合となっており、下水道料金への関心が高いことが示唆された。
- ◆ 年代別にみると、どの年代も同様な傾向を示したが、70 歳以上では「下水道局の地域連携の状況」の割合が高く、20 歳代では「下水道局のイベント等の情報」の割合が高いといった年代による違いが見られた。
- ◆ 地区別にみると、23 区部、多摩地区ともに同様な傾向を示し、「下水道の働きや役割」、「下水道の事業計画・進捗状況」、「下水道料金の内訳と使い道」の割合が高い結果となった。

Q 2 7 下水道事業について、あなたが知りたいと思うことはどのようなことですか？以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選びください。（複数回答）

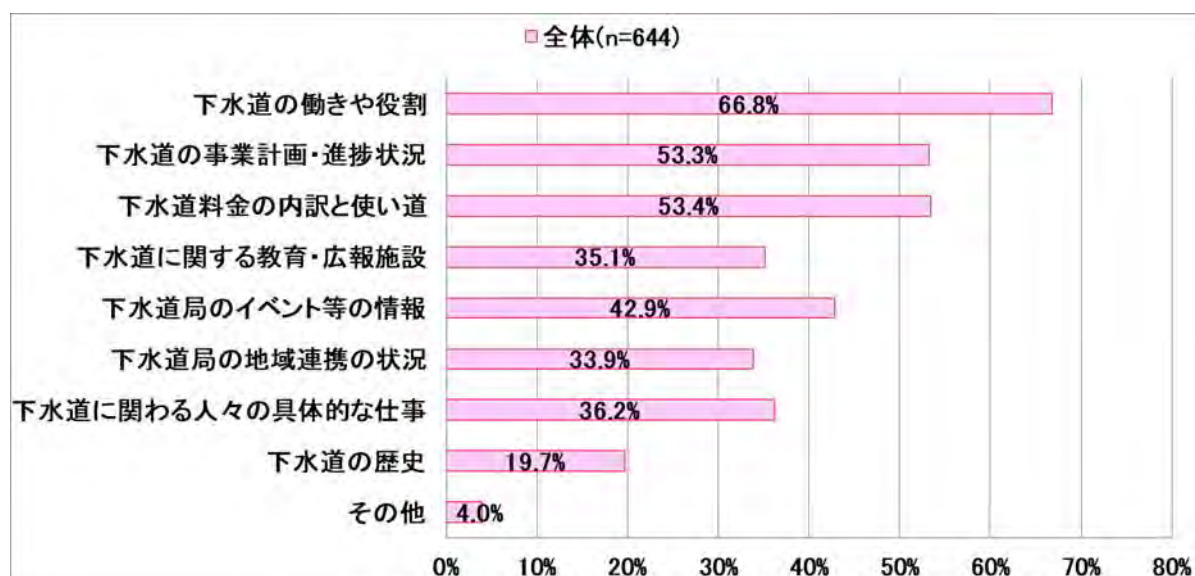


図 4-9-1 下水道に関して知りたいと思うこと（全体）

表 4-9-1 下水道に関して知りたいと思うこと（その他）

No	その他(記入例)	件数
1	下水道事業の収支について	4
2	下水道に関する問題点	4
3	下水道の未来	3
4	施設・構造物について	3
5	諸外国の下水道事情	2
6	下水道の学習について	2
7	水道事業との連携	2
8	下水道と災害の関連性	1
9	汚水・雨水等の雑排水が都内のどのようなルートや施設を経由し処理されるか	1
10	下水道の高度処理の実態	1
11	家庭から出た排便の行方	1
12	下水道施設の工事予定	1
13	下水道が環境改善に果たす役割	1
計		26件

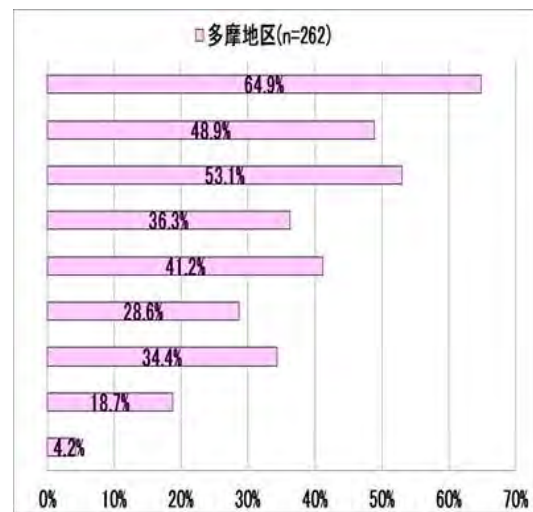
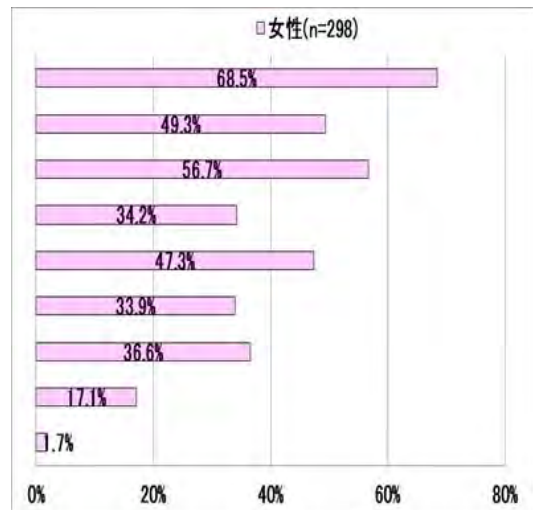
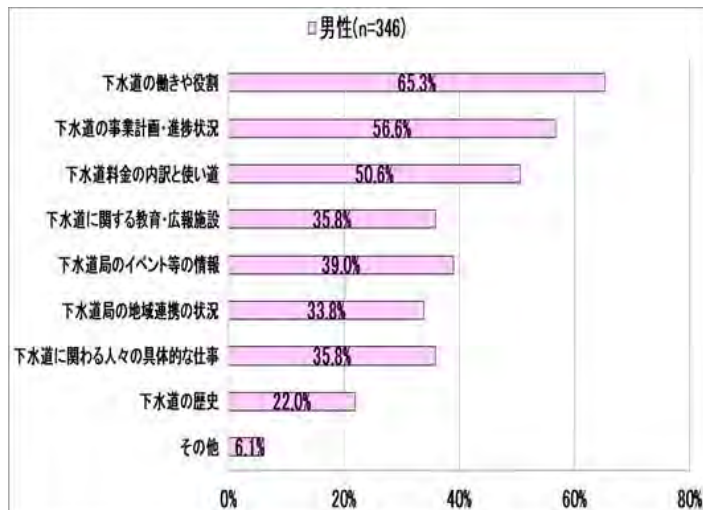


図 4-9-2 下水道に関して知りたいと思うこと（性別・地区別）

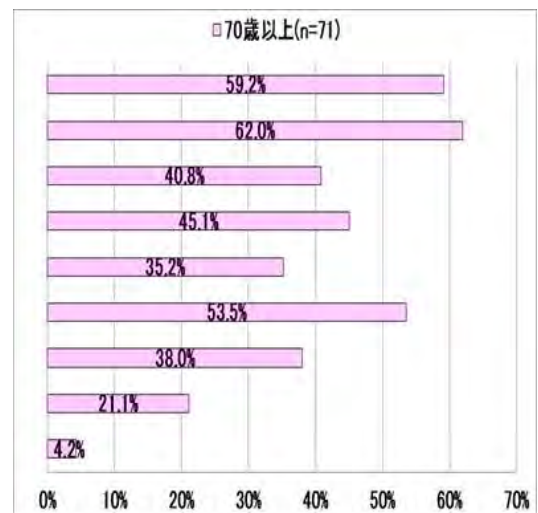
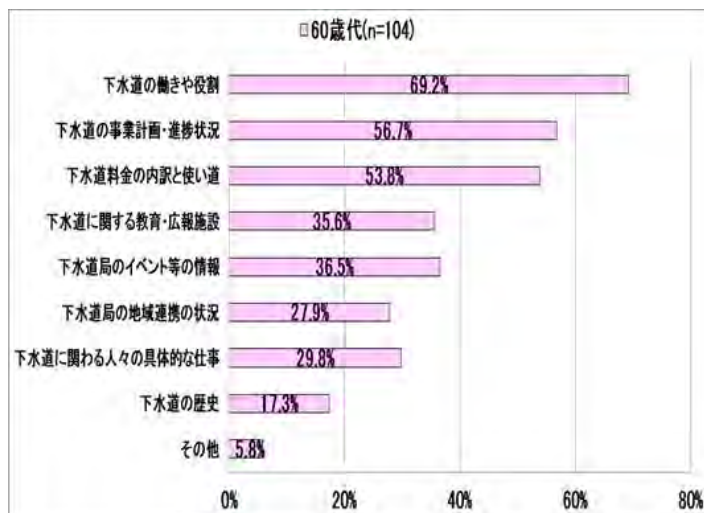
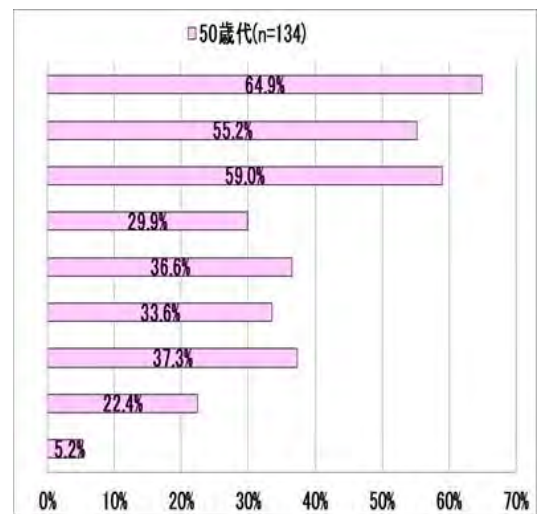
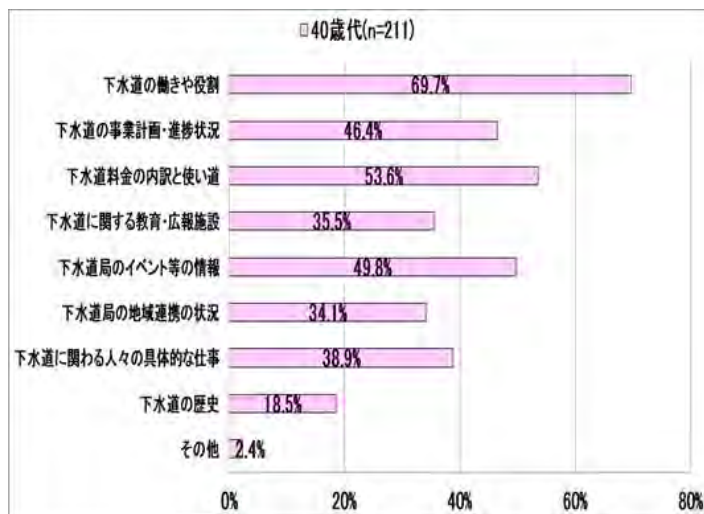
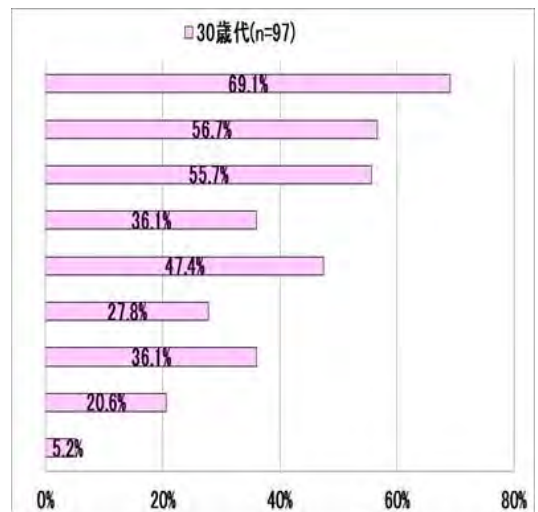
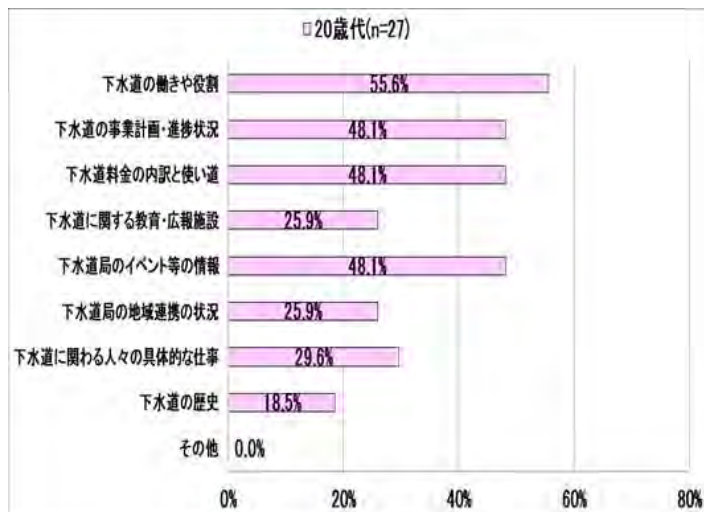


図 4-9-3 下水道に関して知りたいと思うこと（年代別）

4.10 下水道事業の認知経路

- ◆ 下水道事業の認知経路は、「広報東京都」が 60.2%と最も高く、次いで「下水道局ホームページ」が 31.7%、「テレビ番組・ニュース」が 22.7%となった。
- ◆ 男女別にみると、男性、女性ともに認知経路は同様な傾向を示し、「広報東京都」、「下水道局ホームページ」、「テレビ番組・ニュース」、「新聞・雑誌」が高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、高い年代では、「広報東京都」や「新聞・雑誌」といった紙媒体による認知が多い傾向を示したが、年代が下がるにつれ、紙や電子など媒体の形式によらず、様々な媒体から情報を得ていることが明らかとなった。
- ◆ 地区別にみると、23 区部、多摩地区ともに同様の傾向を示した。

Q 2 8 あなたは下水道局や下水道事業の内容について、どのようなところから知ることが多いですか？
以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお答えください。（複数回答）

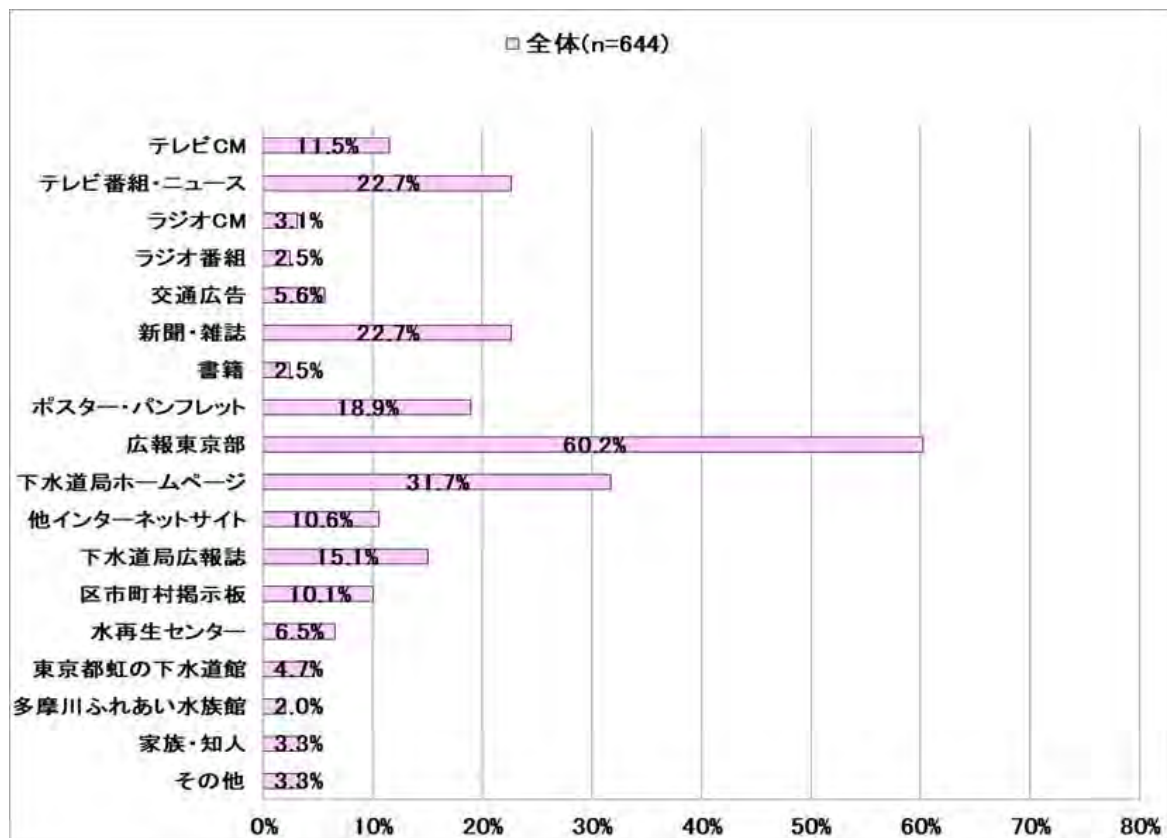


図 4-10-1 下水道事業の認知経路（全体）

表 4-10-1 下水道事業の認知経路（その他）

No	その他(記入例)					件数
1	日常生活で知る機会はない					7
2	市区町村の広報					6
3	水道局関連の施設					4
4	環境問題のイベント					2
5	TwitterやFacebookなどのSNS					1
6	アメッシュ					1
計						21件

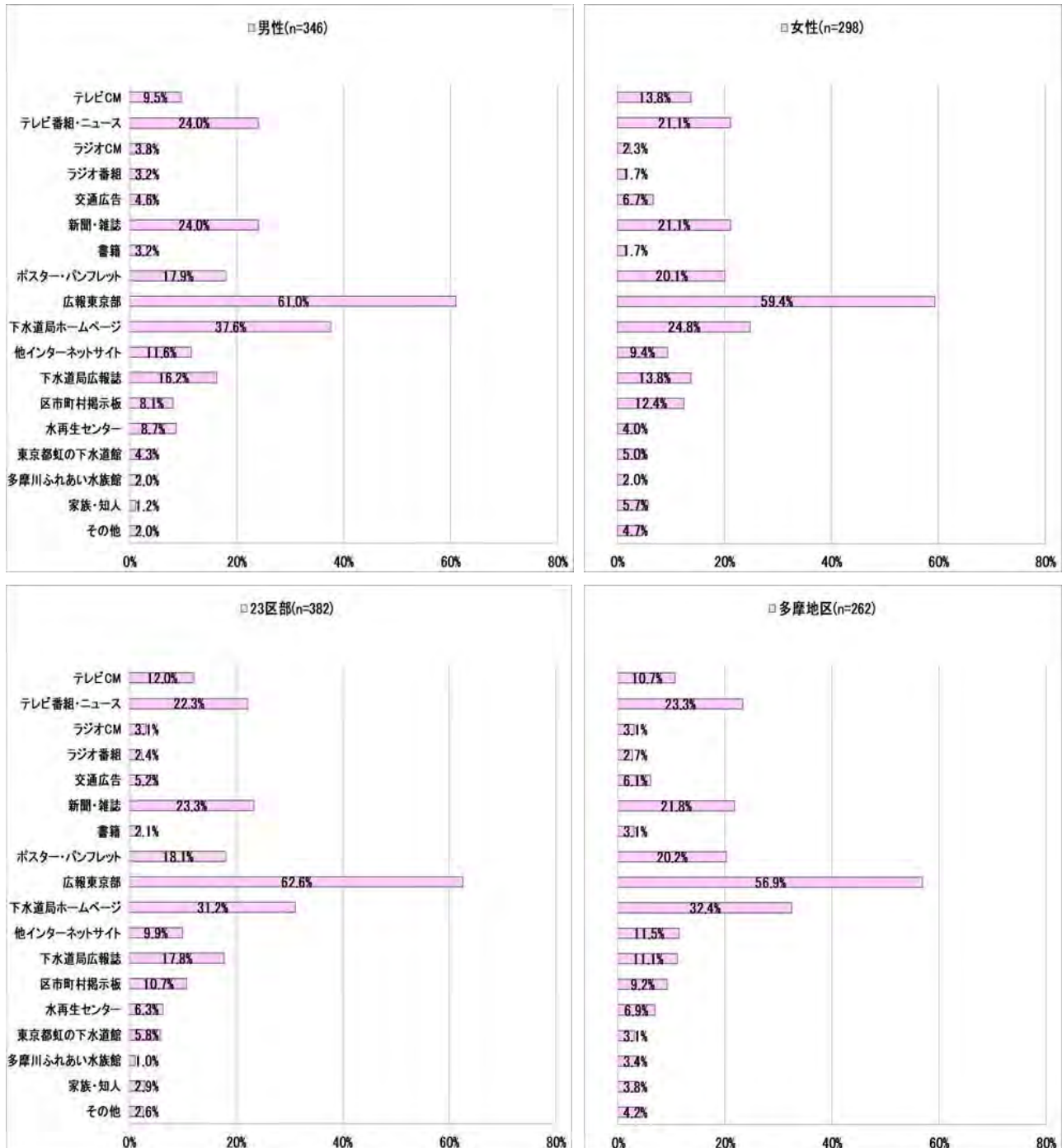


図 4-10-2 下水道事業の認知経路（性別・地区別）

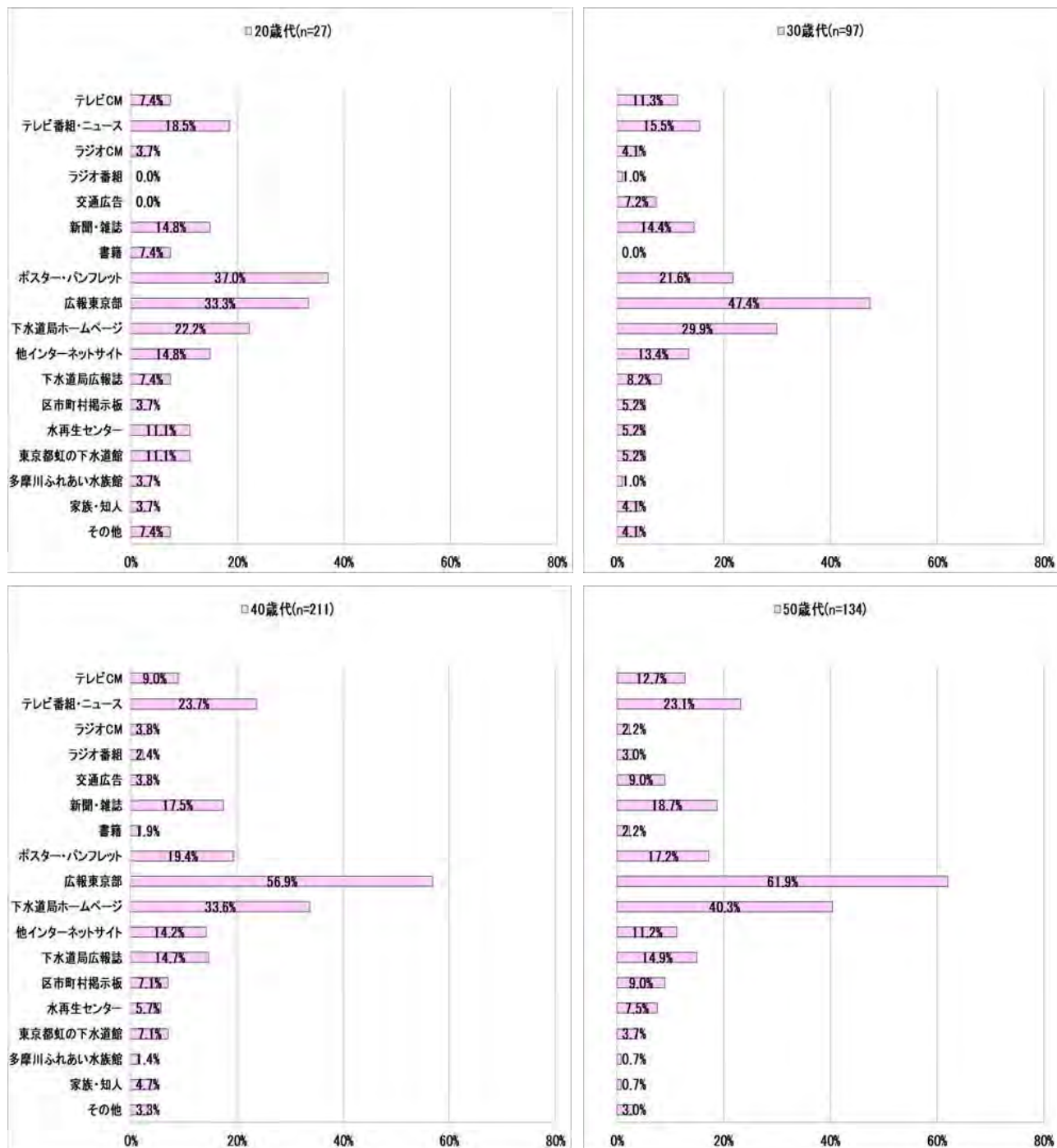


図 4 - 1 0 - 3 下水道事業の認知経路（年代別）

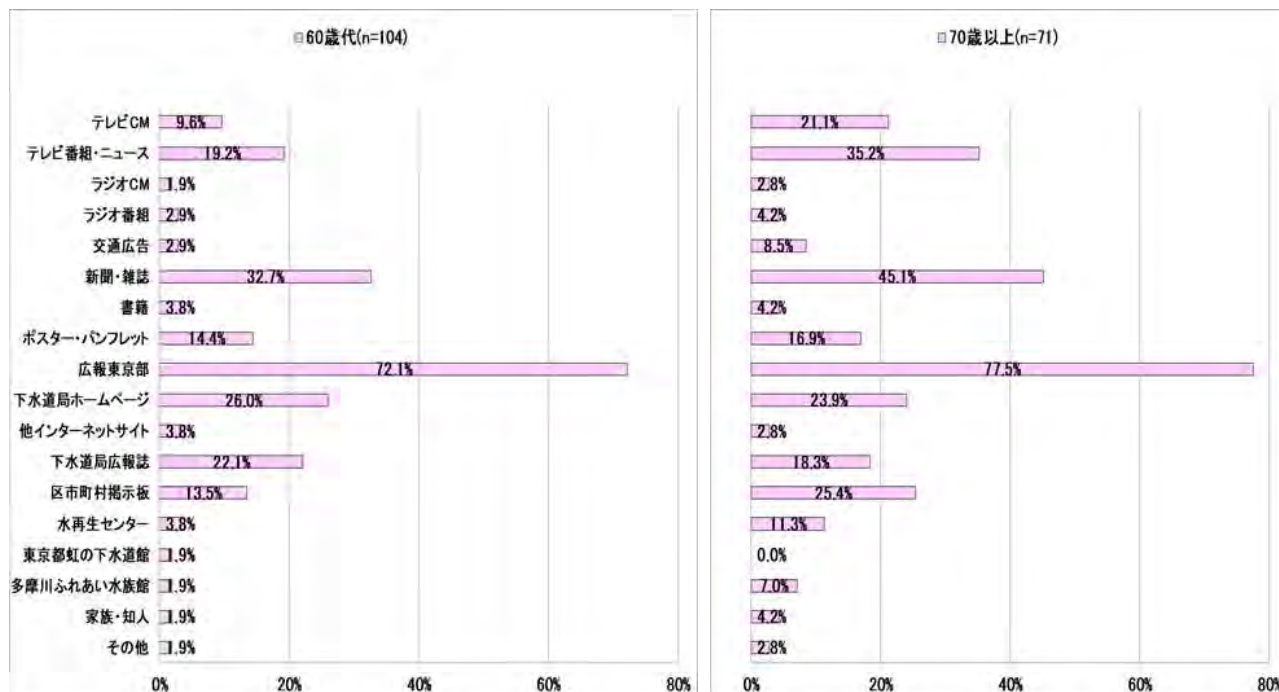


図 4 - 1 0 - 3 下水道事業の認知経路（年代別）

4.11 下水道事業に関する情報の探求意思、共有欲求

4.11.1 下水道事業に関する情報の探求意思

- ◆ 下水道事業に関する情報の探求意思は、「非常にそう思う」が 49.5%と最も高い結果となった。
- ◆ 男女別にみると、「非常にそう思う」では男性が 54.0%、女性が 44.3%と、男性が女性より 9.7 ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「非常にそう思う」では 70 歳以上が 55.0%と最も高く、次いで 40 歳代が 53.5%、50 歳代が 49.2%となった。
- ◆ 地区別にみると、「非常にそう思う」では 23 区部が 52.8%、多摩地区が 44.7%となり、23 区部が 8.1 ポイント高い結果となった。

Q 2 9 あなたは、下水道局や下水道事業について、さらに詳しく知りたいと思いましたが？以下の中から該当する選択肢を一つだけお選びください。(単一回答)

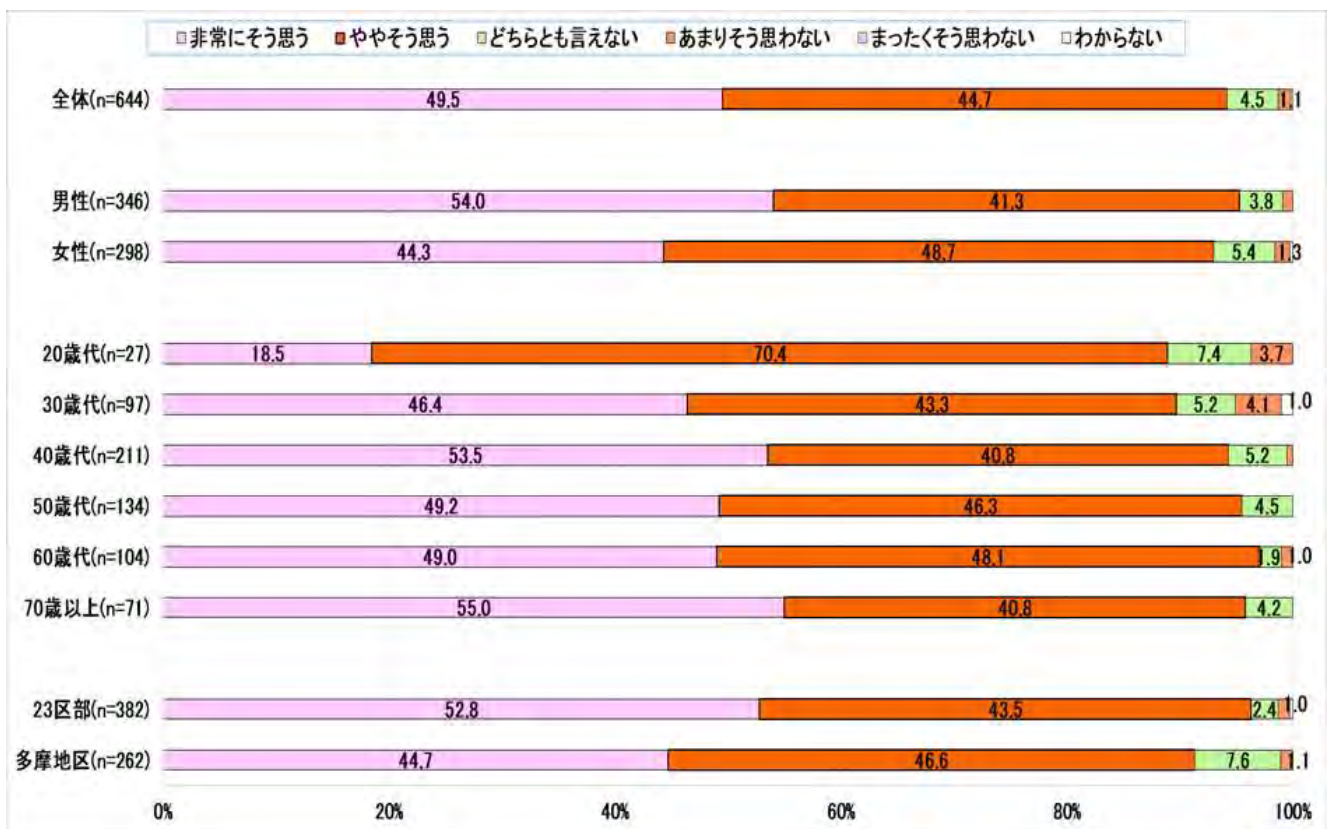


図 4 - 1 1 - 1 下水道事業に関する情報の探求意思

4.11.2 下水道事業に関する情報の共有欲求

- ◆ 下水道事業に関する情報の共有欲求について、「非常にそう思う」と「ややそう思う」を合わせた「そう思う」は 79.8%であり、多くの方が下水道事業に関する情報を欲していることが明らかとなった。
- ◆ 男女別にみると、「そう思う」では男性が 77.7%、女性が 82.2%と、女性が男性より 4.5 ポイント高い結果となった。
- ◆ 年代別にみると、「そう思う」では 60 歳が 86.6%と最も高く、次いで 70 歳以上が 83.1%、40 歳代が 81.5%となった。（※20 歳代は母数が少ない為除く）
- ◆ 地区別にみると、「そう思う」では 23 区部が 80.1%、多摩地区が 79.3%となり、23 区部と多摩地区で顕著な違いは見られなかった。

Q 3 0 あなたは、下水道局や下水道事業に関して知っていることを、周囲の人に知らせたいと思いましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけ選びください。（単一回答）

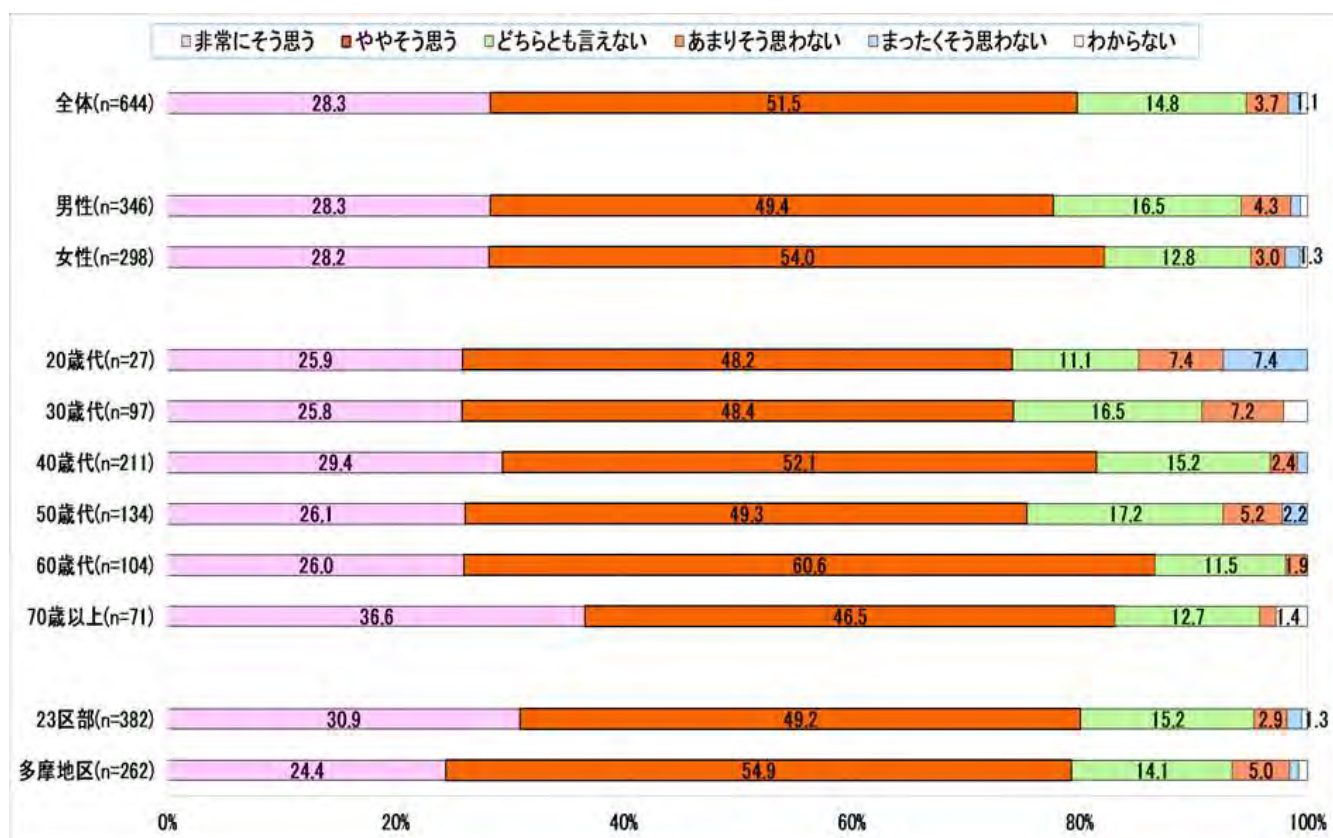


図 4-11-2 下水道事業に関する情報の共有欲求

4.12 東京都下水道局へのご意見・ご要望例

- ◆ 下水道局へのご意見・ご要望について、「知識・理解を深めたい」が38%で最も多く、次いで「活動内容がわかり有意義」が17%となった。

Q31 今回のアンケート内容(本アンケートに回答したことで、イメージが変わられた方はその理由など)、および東京都下水道局へのご意見・ご要望等がございましたら、お聞かせください。(自由回答)

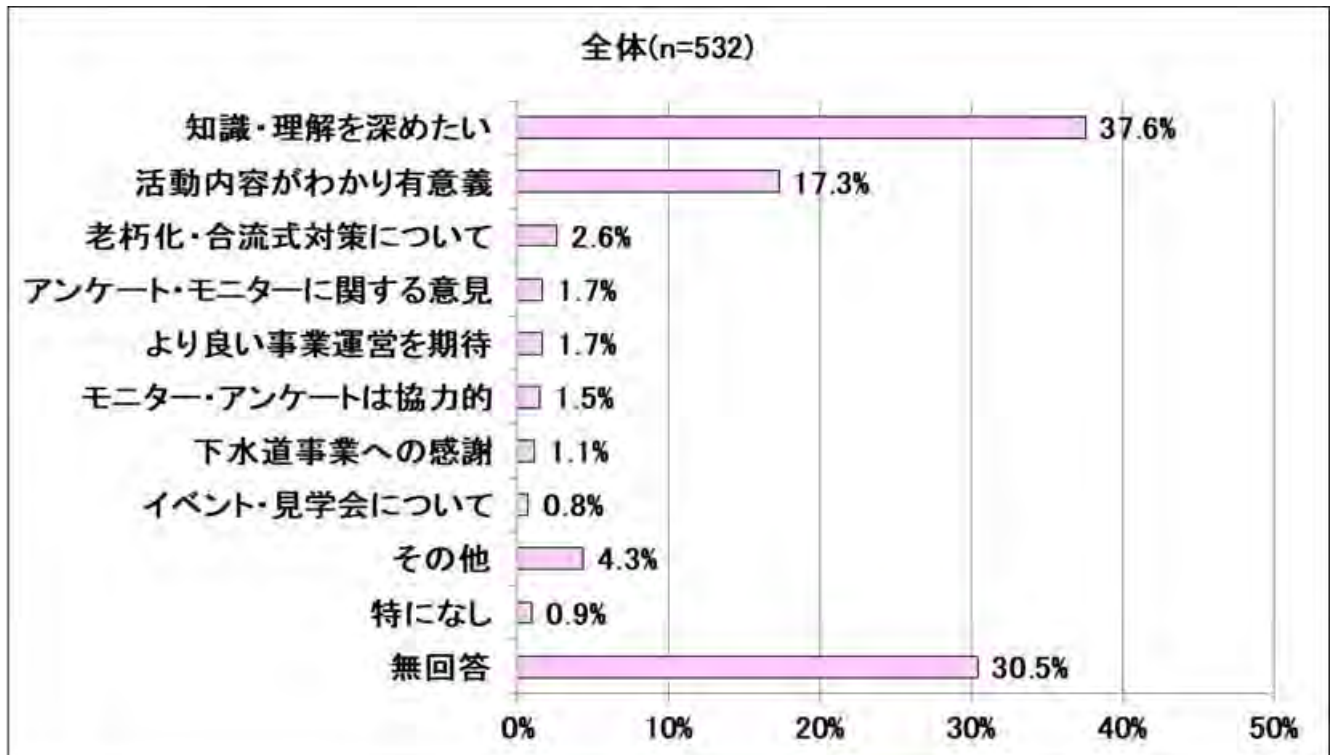


図4-12 下水道局へのご意見・ご要望

【下水道局へのご意見・ご要望】

- 知識・理解を深めたい
 - ◇ 再生水の使われ方をもっと知りたい。
 - ◇ 下水道の取り組みについて知ることが出来、ますます日本の下水道は素晴らしいと思いました。
 - ◇ 元々、イメージがなかったので変った、とはいえないのですが知識が増えた事は確かなので学習しました。
 - ◇ 下水道管の耐用年数がすでに大幅に超過していることが一番衝撃的でした。また、最新の知識や技術を駆使して、私たちの周りの環境が整備されていることを知り、もっと詳しく知りたいと感じたので、情報発信の拡大を希望します。

➤ 活動内容が分かり有意義

- ◇ 下水道局の活動で知らないことがあった。もっとやってもらっていることを知りたい。地道な活動であり、知られてないことが多いとは思っていたが、このモニター参加で知ることができることがうれしい。見学も行きたいと思う。知ったことは知人、家族に情報共有していきたいと思います。
- ◇ 下水道に関して知らないことがたくさんありました。これを機会にもっと知識を深めて、環境問題を考えていきたいと思いました。
- ◇ 雨水も下水道に流れて汚水と一緒に処理されていることは知らなかった。毎日使っているのに知らないことだらけで勉強になった。また興味も持てた。

➤ 老朽化・合流式対策について

- ◇ 普段から上下水道の有難さは感じていましたが、使用した水の流れについてほとんど何も知らなかったことを今回のアンケートで知らされ恥ずかしくなりました。老朽問題は今日、明日いつ起こってもおかしくない問題であり、都市型浸水も現実問題としてしっかり対策を練らないといけない問題だと思いました。合流式に至っては下水道局さんの知られざる重要な仕事をされていたことに頭が下がりました。下水道局さんはおとなしすぎるのでは…もっと活動、仕事をアピールして都民の応援、理解を得るべきだとつくづく思いました。
- ◇ 下水道について、老朽化や環境汚染の問題があることを初めて知った。
- ◇ 下水道設備の老朽化が予想以上に進んでいることは衝撃でした。今後どのような計画で設備の更新を進めていくのかについてもっと仔細に紹介した方が良いと思います。

➤ アンケート、モニター管理に関する意見

- ◇ 今まではあまり意識なく大切さが欠如していました。これを機会に勉強する所存です
- ◇ 今回のアンケートは下水道局を知るための「導入アンケート」だと感じ、その丁寧な作りに安心感と親切心を感じました。順序立てて知識を得ることが出来そうだと思います。
- ◇ アンケートの質問で、下水道についての情報の一端を知ることができました。

➤ より良い運営事業を期待

- ◇ これからも美味しい水の提供をよろしくお願いします。
- ◇ 豪雨の際に影響があることに気付かされた。より安全で衛生的であることを望みます。
- ◇ 普段、お世話になっているのに、知らないことがまだまだあると感じました。たくさんの人に関心をもってもらえるよう、頑張ってください。

➤ モニター・アンケートは協力的

- ◇ このアンケートをもって初めて知った情報が多々ありました。下水道局が発信する情報のさらなる収集と、都民への発信の重要性を実感しました。
- ◇ この様に色々な事に従事しているとは思いませんでした、もっと多くの人に認識してもらい身近に感じてもらう様になったら良いと思います。

➤ 下水道事業への感謝

- ◇ 色々と努力しているのを感じた。
- ◇ 下水道は考えたことがなかったです。当たり前のように使用しています。安心して使用できるのは災害対策などがきちんとされているからこそです。ありがたさを痛感しました。
- ◇ 今後の情報も期待しています。

➤ イベント・見学会について

- ◇ 施設見学等のイベントが平日に実施されることが多いように見受けられます。休日での開催を増やしていただきたいです。
- ◇ アメッシュで最新の豪雨情報など、災害対策にも乗り出しているとは思っていなかったのも、アメッシュ、気になりました。使ってみたいと思います。下水道局は、あまり想像が出来ない場所なので、ぜひイベントなど多摩地区で開催してほしいです。
- ◇ 見学会、親子向けのものが多いようですが、子供連れではない人には参加しにくいです。大人のみの見学ツアーがあるといいなと思います。下水見学カップルツアー、工場マニア女子会など。

➤ その他

- ◇ 縁の下の力持ちとして、昔から大活躍しているのに、イメージが悪く報われていない印象である。防災や環境保護に大いに貢献しているのだから、その恩恵を受けているユーザーには、しっかり課金して負担を負わせるべき。
- ◇ 水道事業とともに下水道事業の必要性を常に理解してもらう行動活動が必要。
- ◇ 昔に比べ、下水や生活排水が直接海に流れることは少なくなったと思うが、大雨の際下水が直接川に流れてしまうのは何とかして欲しい。そうでないと東京湾はいつまで経ってもきれいにならないと思う。